

下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか

-仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ-

下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか

二〇一一年二月

仙台市教育委員会

2011年12月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第390集

下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか

- 仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ -

2011年12月

仙 台 市 教 育 委 員 会



土地区画整理事業地域航空写真（北東から）



春日社古墳全景（南西から）



春日社古墳第1主体部・革盾・第2主体部



革 盾



鉄 矛



鉄 剣



下ノ内遺跡SI227竪穴住居跡



大野田古墳群9A区SK446木棺墓



SK446木棺墓出土遺物



大野田官衙遺跡関連造構SB64掘立柱建物跡



大野田官衙遺跡関連造構SB64掘立柱建物跡

序 文

仙台市の文化財行政に対しまして、日ごろよりご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、仙台市南部の大野田地区で進められております仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業につきましては、平成7年度から行ってきた遺跡の発掘調査も、平成24年度を最終調査年度として、実施しているところです。

幹線道路や区画道路の姿が見えてきた今日、新しい建築物も建てられはじめ、地下鉄富沢駅を中心とした区画整理事業もいよいよ終盤に差し掛かってきたことを実感させられます。市内でも多くの遺跡が集中する地域での事業でもあり、調査の開始当初から今日まで多くの方々、関係機関のご協力とご支援を得て発掘調査や資料整理を進めてくることができました。

今回刊行します報告書Ⅱは、平成10年度から16年度までの調査を中心にまとめましたが、早く皆様に資料として提供いたしましたく、平成19年度に発掘調査した春日社古墳と、そこから出土した革盾などについて、また新しく遺跡として平成21年度に新規登録した、大野田官衙遺跡の昨年度までの調査成果も併せて報告しています。

平成12年に刊行した報告書Ⅰと共に、この報告書が地域の歴史を解明していくための貴重な資料となり、学術研究の場だけではなく、広く生涯学習の場でも活用され、皆様が地域の歴史により関心を持たれ、ご理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書は、当初、平成23年3月末に、第390集として刊行する予定で作業を行っていましたが、平成23年3月11日の東日本大震災により、業務が中断し、刊行が遅れました。発掘調査や本報告書の刊行に際しまして、ご指導・ご協力下さいました皆様、また大震災以降、刊行までご努力下さいました方々に、衷心より感謝申し上げます。

平成23年12月

仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民

例　　言

1. 本書は仙台市教育委員会による「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う袋前遺跡・伊古田B遺跡・下ノ内遺跡・大野田古墳群・王ノ壇古墳・春日社古墳・大野田官衙遺跡の発掘調査報告書である。区画整理事業に伴う本調査は平成7年4月より開始され、現在（平成23年）も継続中である。本書では平成10年度から平成16年度までの調査と平成19年度の春日社古墳、平成21年度までの大野田官衙遺跡の成果について報告する。

2. 報告書作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社玉川文化財研究所が行った。

3. 調査区のグリッド配置は測量基準線の設定にあたり、事業地内の測量基準点（X = -198.400km・Y = 3.800km）を原点とし、東西・南北両方向に10×10mグリッドを組んだ。各調査区の測量はこの基準線上に設定した杭をもとに行った。測量杭には原点からの方向と距離を組み合わせた数値を「E100・S100」のように表示した。E100は測量基準点から東に100m、S100は南に100mを意味し、国家座標上ではX = -198.510km・Y = 3.900kmとなる。なお、実測図上に表示したグリッドの数値も同様の値を示している。

4. 本書の作成及び編集は仙台市教育委員会文化財課調査指導係城慎一、主濱光朗、工藤信一郎、鈴木 隆、水野一夫、庄子裕美の監理のもと、株式会社玉川文化財研究所が行った。

5. 本書の執筆は下記のとおりである。

第1章第1節・第3節・第3章………… 結城慎一

第1章第2節…………… 北平朗久（玉川文化財研究所）

第2章第1節…………… 齊藤武士（玉川文化財研究所）

第2章第2節～第6節・第8節………… 小山裕之・北平朗久・太田雅晃・麻生順司（玉川文化財研究所）

第2章第7節…………… 太田雅晃と荒井 格（文化財課調査調整係）との協議による

6. 以下の調査で検出された遺構は大野田官衙遺跡の遺構として認められるので、第2章第8節大野田官衙遺跡で取り上げて報告する。

袋前遺跡（2A区SB31掘立柱建物跡、2B区SB60掘立柱建物跡、3区SB121掘立柱建物跡）

六反田遺跡（2B区SD185溝跡、5C区SB64掘立柱建物跡・SD57溝跡、6A区SD6溝跡）

大野田古墳群（5A区SD253、9A区SB464掘立柱建物跡、13B区SB135掘立柱建物跡・SD181溝跡、

13C区SD421溝跡、14B区SD2溝跡）

なお、大野田古墳群第14・15次調査区、袋前遺跡第2次調査区、大野田官衙遺跡平成21年度調査a～j区は、国庫補助事業による遺構確認調査及び、他の民間開発事業に伴う発掘調査区であり、各々の詳細は既に報告書が刊行されているので、そちらを参照していただきたい。

7. 第2章第8節及び第3章の大野田官衙遺跡の報告内容に関しては、文化財課内において、調査を担当した職員を含めて検討が行なわれた結果をふまえている。

8. 下ノ内遺跡1B・1C区、大野田古墳群7区採取資料の分析・執筆は株式会社古環境研究所、古代の森研究會に依頼した。また、春日社古墳資料の自然科学分析・執筆は株式会社古環境研究所に依頼した。

9. 春日社古墳出土の革盾・鉄鎌・鉄矛の保存処理は株式会社京都科学に依頼し、その際にX線写真の撮影も行った。

10. 石器・石製品の石材鑑定については東北大学名誉教授蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼で鑑定を行った。

11. 春日社古墳第2主体部革盾等出土状況写真（巻頭2の革盾、写真図版4の上段）は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所牛嶋 茂氏の撮影による。

12. 調査及び報告書作成にあたり、下記の方々及び機関からご指導・ご助言並びにご協力を賜った。記して感謝す

る次第である（敬称略）。

青木あかね・飯塚武司・市本芳三・稲村繁・上原真人・牛嶋茂・扇崎由・奥山誠義・菊地芳朗

北野信彦・工楽普通・清水篤・辻秀人・樋上昇・中川律子・橋本達也・平井孝憲・福田さよ子

藤沢敦・徳積裕昌・茂木雅博・望月由佳子・桃井宏和・山口謙治・山下平重・山田昌久

（独）東京文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・（財）元興寺文化財研究所・大阪府農中市教育委員会

13. 調査成果はすでに現地説明会資料、遺跡見学会資料、宮城県遺跡調査成果発表会資料、古代城柵官衙検討会資料等で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先するものである。

14. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は仙台市教育委員会で一括保管している。

凡例

1. 本書の土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原：1975、1997）を使用した。

2. 建設省国土地理院発行の地形図を使用した場合は図中に示した。

3. 図中及び本文中に記載の方針の北は真北を基準としている。なお、図中でE・Sを付した座標値は区画整理事業地内に設定された測量基準点（X:-198,400km・Y:3,800km）からの距離（m）を示し、EはY座標値・SはX座標値に対応する。

4. 図版中のレベルは海拔標高を示す。

5. 座標値及び海拔標高については、平成23年3月11日の東日本大震災前のものを使用している。

6. 層位名は基本層位をローマ数字、遺構内堆積土については算用数字を使用し、さらに細分される場合はアルファベットを用いた。

7. 図版・表等の番号は袋前遺跡・伊古田B遺跡・下ノ内遺跡・大野田古墳群・王ノ墳古墳・春日社古墳・大野田官衙遺跡の各報告毎に付している。

8. 本書の検出遺構については次の略号を使用し、遺跡毎に発見順に番号を付した。

SA=柱列 SB=掘立柱建物跡 SD=溝跡 SE=井戸跡 SI=竪穴住居跡

SK=土坑・木棺墓 SR=河川跡 SX=埋設土器・性格不明遺構 P=ピット・柱穴

なお、小溝状遺構群についてはローマ数字と算用数字の組み合わせで示した。

9. 遺構図に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。



柱痕跡



焼土範囲・焼面

10. 本書の出土遺物の分類と登録には次の略記号を使用し、分類毎に登録番号を付した。

A=縄文土器 B=弥生土器 C=土師器（非クロコ） D=土師器（ロクロ） E=須恵器

G=平瓦・軒平瓦 I=陶器 J=磁器 Ka=打製石器 Kb=磨製石器 Kc=礫石器 Kd=石製品

Ke=その他の石器 L=木製品 N=金属製品 P=土製品 S=埴輪 X=その他

11. 塩輪の製作技法の表現は基本的に「円筒埴輪論」（川西：1978）に、円筒埴輪・朝顔形埴輪の各部位の呼称は「大野田古墳群 春日社古墳・鳥居塚古墳」（仙台市教育委員会：1987）によっている。また、埴輪実測図においてヨコナデ、縦方向のナデはその範囲のみを示している。埴輪の法量で（ ）は残存値を、〔 〕は＝復元値を示している。

12. 遺物観察表において（ ）は復元値を示している。なお、器高・段幅の計測は原則として断面とした。

13. 遺構一覧表において（ ）は推定、〔 〕は検出長を示している。

14. 土器・土製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。



15. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。



16. 石器の分類基準は以下のとおりである。

石器分類

石器	K	打製石器 Ka	石器	有茎 平基 門基 その他	Ka-al Ka-a2 Ka-a3 Ka-a4	半石塊、不定形石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、剥片については、石刃状の縦長剥片に分類番号の後ろに I (ローマ数字の1) を入れる。
			尖頭器	有茎 無茎 その他	Ka-b1 Ka-b2 Ka-b3	
			石器	棒状 つまみ付き その他	Ka-c1 Ka-c2 Ka-c3	
			石器	縦型 横型 その他	Ka-d1,Ka-d1I Ka-d2,Ka-d2I Ka-d3,Ka-d3I	
			不定形石器	削器 (石器の側縁に鋭角の刃部を持つもの) 錐器 (石器の端部に鋭角の刃部を持つもの) 鋸歯縁石器 (鋸歯状の刃部を持つもの) ノッチ (抉入状の刃部を持つもの) 円形錐器 (石器の全周縁に刃部を持つもの) RF (石器の一部に刃部加工が見られるもの) UF (石器の刃部に使用痕〔摩滅、光沢〕が見られるもの)	Ka-e1,Ka-eII Ka-e2,Ka-eII Ka-e3,Ka-eIII Ka-e4,Ka-eII Ka-e5,Ka-eIII Ka-e6,Ka-eVI Ka-e7,Ka-eVII	
			石器	半両面加工 両面加工	Ka-f1 Ka-f2	
		打製石斧			Ka-g	
		楔形石器 (両極剥離による二次加工が明瞭に認められるもの)				Ka-h
		異形石器				Ka-i
		二次加工のある剥片 (刃部加工を目的としていない二次加工)				Ka-j,Ka-jI
		微細剥離痕のある剥片 (微細な剥離痕を有する剥片)				Ka-k,Ka-kI
		剥片			Ka-l,Ka-II	
		石核			Ka-m	
		磨製石器 Kb	磨石斧	Kb-a		
			始刃石斧	Kb-b		
			石盤	Kb-c		
			環状石斧	Kb-d		
			磨製石盤	Kb-e		
			石包丁	Kb-f		
		鍛石器 Kc	磨石	Kc-a		
			凹石	Kc-b		
			嵌石	Kc-c		
			砥石 (繩文、弥生)	Kc-d		
			石鍤	Kc-e		
			石盤	Kc-f		
			台石	Kc-g		
			鍛器	Kc-h		
			その他	Kc-i		
		石製品 Kd	砥石 (古代以降)	Kd-a		
			石棒	Kd-b		
			重飾	Kd-c		
			管玉・勾玉	Kd-d		
			石製模造品	Kd-e		
			石製防鏽車	Kd-f		
			石臼	Kd-g		
			その他	Kd-h		
		その他 Ke				

本文目次

卷頭カラー

序文

例言

凡例

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡周辺の環境	1
1. 遺跡の位置と地理的環境	1
2. 遺跡周辺の歴史的環境	1
第3節 調査経過	6
第4節 報告書の作成	7
第2章 本調査報告	8
第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序	8
第2節 袋前遺跡	13
1. 調査要項	13
2. 1 A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	13
3. 1 B区の調査 (1) II・III層検出の遺構と遺物 (2) V層検出の遺構と遺物	19
(3) 遺構外出土の遺物	26
4. 2 A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物 (2) 遺構外出土の遺物	28
5. 2 B区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	34
6. 3区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	39
7. 4 A区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物 (2) V層検出の遺構と遺物	47
8. 4 B区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物 (2) V層検出の遺構と遺物	50
(3) 遺構外出土の遺物	52
9. 試掘トレンチ出土の遺物	52
10.まとめ	53
写真図版	57
第3節 伊古田B遺跡	68
1. 調査要項	68
2. 1 A区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物 (2) V層検出の遺構と遺物	68
(3) 遺構外出土の遺物	74
3. 1 B区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	77
4. 1 C区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物 (2) 遺構外出土の遺物	79
5. 2 A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	81

6. 2B区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	81
7. 2C区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	85
8. 3区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	88
	(3) 遺構外出土の遺物	100
9.まとめ		101
写真図版		105
第4節 下ノ内遺跡		113
1. 調査要項		113
2. 1A区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	113
3. 1B区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	119
	(3) 雇層検出の遺構と遺物	143
	(5) XI層上面検出の遺構と遺物	145
	(7) XV層検出の遺構と遺物	165
	(9) 自然科学分析	201
4. 1C区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	205
	(3) VI層検出の遺構と遺物	208
5. 1D区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	218
6. 2A区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	222
7. 2B区の調査	(1) V層検出の遺構	225
8. 2C区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	226
	(3) VI層検出の遺構と遺物	250
	(5) XV層検出の遺構と遺物	267
9. 3A区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	327
	(3) 遺構外出土の遺物	346
10. 4A区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	346
	(3) VII層検出の遺構と遺物	363
11. 4B区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	379
12. 5A・5B区	(1) III・IV層検出の遺構と遺物	381
	(3) 遺構外出土の遺物	388
13.まとめ		389
写真図版		421
第5節 大野田古墳群		490
1. 調査要項		490
2. 5A区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	490
3. 6A区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	495
4. 6B区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	497
5. 6C区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	499
6. 7区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	502
7. 8A区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	532
	(2) IV層検出の遺構と遺物	539

（3）V層検出の遺構と遺物	548	（4）遺構外出土の遺物	554	
8. 8B区の調査	（1）V層検出の遺構と遺物	556		
9. 9A区の調査	（1）V層検出の遺構と遺物	558	（2）遺構外出土の遺物	572
10. 9B区の調査	（1）V層検出の遺構と遺物	576	（2）遺構外出土の遺物	581
	（3）自然科学分析	582		
11. まとめ		585		
写真図版		593		
第6節 王ノ壇古墳		615		
1. 調査要項		615		
2. 王ノ壇古墳の調査	（1）V層検出の遺構と遺物	615		
3. まとめ		621		
写真図版		623		
第7節 春日社古墳		627		
1. 調査要項		627		
2. 調査概要		627		
3. 自然科学分析		638		
4. まとめ		653		
写真図版		655		
第8節 大野田官衙遺跡		663		
1. 調査要項		663		
2. 検出された遺構と遺物		665		
3. まとめ		687		
写真図版		691		
第3章 総括		709		
引用参考文献				
報告書抄録				

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

仙台市地下鉄開通に伴い、市の南部地区を副都心として様々な都市環境を整備する事業が進む中、地下鉄富沢駅周辺でも区画整理事業を具体化する協議が始まり、仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業の係わる埋蔵文化財の調査依頼が都市整備局から平成5年10月に提出された。この区画整理の都市計画の決定は同年12月であった。調査依頼に対して、6年2月に都市計画道路及び区画道路の部分等を対象に発掘調査を実施することを回答した。

この地域は市内でも多くの遺跡が集中分布するところで、大野田古墳群、王ノ墳古墳、春日社古墳、六反田遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、元袋遺跡、袋前遺跡、大野田遺跡、皿屋敷遺跡等が知られており、時代的には縄文時代から近世までの広範囲に及んでいた。

平成6年9月から7年11月までの期間、調査対象地域の試掘調査を実施し、六反田遺跡の東北側への範囲拡大と伊古田遺跡の南東側に伊古田B遺跡を新規登録した。春日社古墳では主体部（平成19年度の調査で第1主体部としたもの）の残存を確認した。さらに、平成10年度の大野田古墳群の調査において中世の道路跡が発見されたのを受けて、平成12年3月に、大野田古墳群南側隣接地における遺構残存状況を確認するため試掘調査を実施したが、擾乱が激しく、中世道路跡の確認はできなかった。

第2節 遺跡周辺の環境

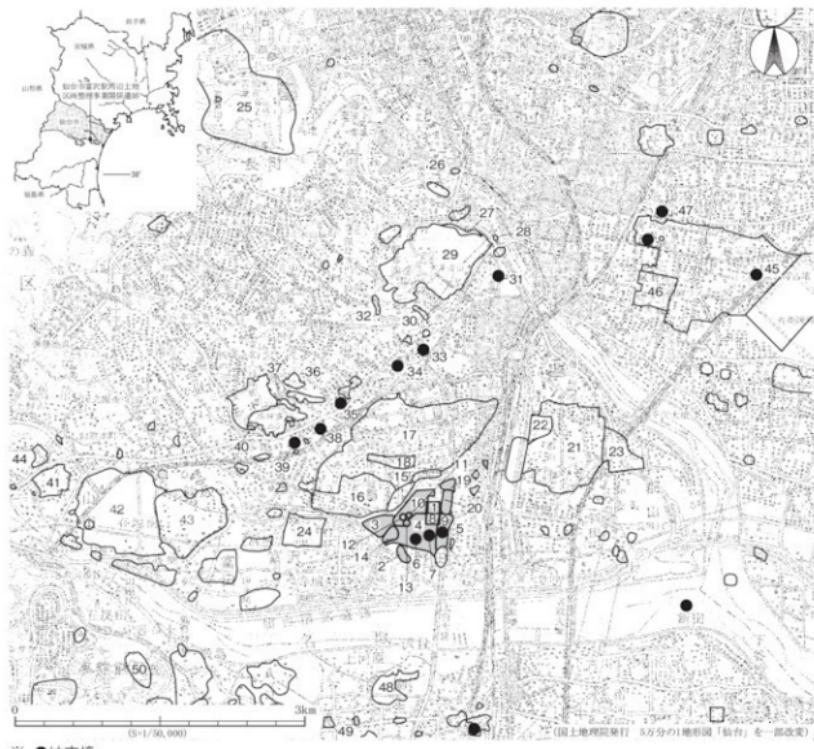
1. 遺跡の位置と地理的環境

袋前遺跡、伊古田B遺跡、大野田古墳群、王ノ墳古墳、春日社古墳、大野田官衙遺跡を含む大野田地区は仙台市の南部、太白区富沢四丁目、大野田字元袋・袋前・イコタ・千刈田・塚田・宮・宮脇・王ノ根・五反田・六反田・竹松・皿屋敷に所在する。これらの地点はJR長町駅の南西～南南西約1km～約1.7kmにあたり、遺跡は東西約500m・南北約600mの範囲に分布する。

仙台市域の地形は西部の丘陵地帯と東部の海岸平野に二分される。海岸平野の中で大野田地区を含む地域は郡山低地と呼称されている。郡山低地は南線を名取川、北線を広瀬川に囲まれた沖積地で、北西線は青葉山丘陵で区切られている。また、郡山低地の中を西北西約6.5kmの太白山に源を発する荒川などの小河川が曲流している。このため、これら河川の影響を強く受け、沖積地の中でも自然堤防・旧河道・後背湿地が複雑に入り組んだ地形となっている。調査によって後背湿地の中には縄文時代中期以前に形成されたと考えられる自然堤防状の微高地や旧河道なども発見されている。標高は10～12m前後で、遺跡の構成土壤はシルト・粘土質シルト・砂質シルト・砂が主体をしめる。調査以前の土地利用は水田畠地もしくは宅地である。大野田地区は名取川下流の北岸部にあたり、河口からは約8.8kmの位置にある。

2. 遺跡周辺の歴史的環境

大野田地区を中心とした名取川下流域は仙台市内でも数多くの遺跡が分布する地域であり、近年の都市化の進展に伴い発掘調査例も増加している。これまでの調査で旧石器時代から近世まで連続と続く人々の生活の痕跡が検出されている。本書では袋前遺跡・伊古田遺跡・下ノ内遺跡・大野田古墳群などの調査成果をもとに、大野田地区周辺の歴史的環境を概観してみたい。



※ ●は古墳

第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と周辺の遺跡

旧石器時代

青葉山丘陵が張り出した名取川北岸には上ノ原山遺跡、山田上ノ台遺跡があり、上ノ原山遺跡では約30,000年前に降下した「川崎スコリア層」を挟んだ上層と下層から石器が発見され、山田上ノ台遺跡からは石器と炭化物の集中部が検出されている。沖積地では笊川の左岸に位置する富沢遺跡から旧石器時代の針葉樹林を中心とした湿地林が発見され、焚き火跡と考えられる炭化物の集中部や石器、樹木や葉・種子などの植物遺体、シカの糞など丘陵や台地の調査では得られない貴重な資料が検出され、古環境を復元する観点からも注目を集め高い評価を得ている。

縄文時代

名取川流域では多くの遺跡が存在しており、大野田地区では名取川とその支流である旧笊川によって形成された自然堤防から早期・中期・晩期の遺跡が発見されている。早期前半では下ノ内浦遺跡が知られており、堅穴住居跡や落とし穴などの構造と日計式の押型土器、石槍、石鏃などの石器が検出され、この時期には低地部分にも生活領域が広がっていたことが明らかとなっている。中期では多数のフ拉斯コ状土坑が検出された上野遺跡のほか、山田上ノ台遺跡・北前遺跡において中期後～末葉の集落跡が確認されている。また、富沢駅周辺の遺跡群の中では、六反田遺跡で中期中葉から後期初頭の堅穴住居跡・屋外炉・土坑・配石遺構などが検出され、魚骨やオニグルミな

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	立 地	種 別	時 代
1	波前遺跡	自然堤防・集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
2	伊古田古墳群	自然堤防・御跡塚	古墳・奈良・平安	
3	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡	縄文(印)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
4	大野田古墳群	自然堤防	古墳・集落跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
5	三ノ塔古墳	自然堤防	古墳	古墳
6	春日社古墳	自然堤防	古墳	古墳
7	鳥居原古墳	自然堤防	古墳	古墳
8	大野田御置跡	自然堤防	古跡	古墳・奈良
9	王ノ壇遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文(印)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
10	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(印)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
11	五反田古墳	自然堤防	古墳	古墳
12	五反田木棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
13	五反田木棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
14	伊古田古墳群	自然堤防	集落跡	縄文・平安
15	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡・木棺墓(早・後)・古墳・奈良・平安・中世	
16	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・木田跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
17	雷沢遺跡	後背湿地	集落跡・木田跡・散石堆	田代式・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
18	東崎浦遺跡	自然堤防・後背湿地	水田跡・墓地	縄文(後)・弥生・古墳・平安
19	元気遺跡	自然堤防	集落跡	奈良・平安
20	大野田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後)・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世
21	郡山遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世
22	西台畠遺跡	自然堤防	散布地	縄文・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世
23	北元城跡	自然堤防	集落跡・木田跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
24	富田遺跡	自然堤防	城跡	中世
25	御代城跡	丘陵	城跡	近世
26	安田山城跡	丘陵	城穴墓群	古墳・奈良
27	大寺寺跡	丘陵	城穴墓群	古墳
28	宗像城跡	丘陵	城穴墓群	古墳・奈良
29	後山城跡	丘陵	城跡	中世
30	後山城跡	丘陵	城穴墓群	古墳・奈良
31	鬼塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
32	二ノ城跡	丘陵	城穴墓群	古墳・奈良
33	久保城跡	丘陵麓	古墳	古墳
34	久保城跡	丘陵麓	古墳	古墳
35	砂押古墳	丘陵	古墳	古墳
36	土子山遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
37	土子山城穴墓群	丘陵	城穴墓群	古墳・奈良
38	金井内古墳	丘陵麓	古墳	古墳
39	新野古墳	丘陵	古墳	古墳
40	笛沢古跡	丘陵斜面	集跡	古墳・奈良・平安
41	山田川ノ白鳥遺跡	丘陵	集落跡	田代式・縄文(早・後)・奈良・平安・中世・近世
42	山田赤里遺跡	後背湿地	散石堆跡	近世
43	上野古跡	丘陵	集落跡	縄文・奈良・平安
44	北前田跡	丘陵	集落跡	縄文・平安・近世
45	通見古墳	自然堤防	古墳	古墳
46	若林城跡	自然堤防	城跡	古墳・平安・中世・近世
47	法頭隈古墳	自然堤防	古墳	古墳
48	木台古跡	自然堤防跡	散石堆	奈良・平安
49	松木本遺跡	自然堤防	集落跡	平安・中世・近世
50	猪野寺跡	丘陵	城穴墓群	古墳・奈良

ど自然遺物などが出土し、生業活動を考えるうえで貴重な資料を提供している。下ノ内遺跡では中期末葉から晩期にかけての遺構・遺物が発見され、敷石住居などが検出されている。大野田遺跡では後期前半の環状集石群・配石遺構・土坑墓・埋設土器遺構などが検出された他、300点近い土偶片も出土している。伊古田遺跡では後期の大規模な遺物包含層が確認され、多数の土器・石器と共に19体分の土偶も出土し、その中で土偶4点は仙台市有形文化財（考古資料）に指定されている。また、王ノ壇遺跡では後期の環状配石遺構・竪穴道構・土坑・埋設土器遺構などが検出されている。このように名取川下流域北岸の沖積地には縄文時代後期の遺跡が集中する傾向にある。

弥生時代

丘陵部から平野部まで広範囲に遺跡は分布している。丘陵部の土手内遺跡・八木山緑町遺跡・原遺跡から竪穴住居跡が検出されている。低地の自然堤防上から後背湿地にかけては下ノ内浦遺跡・富沢遺跡・山口遺跡などがあり、下ノ内浦遺跡では後期の土壙墓・土器植墓・竪穴道構などが検出され、富沢遺跡・山口遺跡では水田跡が発見されている。さらに郡山低地部には水田跡や土壙墓などが検出された郡山遺跡・西台畠遺跡の存在が知られている。水田跡の発見により生産域の様相は解明されつつあり、長町駅東遺跡で竪穴住居跡が検出される等、これらに伴う集落跡について資料が蓄積されつつある。

古墳時代

高塚古墳としては、広瀬川北岸の自然堤防上に築かれた前期末の前方後円墳である遠見塚古墳（主軸長110m・粘土櫛・割竹形木棺）が著名である。中期後半になると郡山低地に古墳が出現し、青葉山丘陵の支丘である大年寺山から三神峯丘陵にいたる丘陵縁辺部に分布する。北東から南西に兜塚古墳（帆立貝形・主軸長75m前後）・一塚古墳（円墳・径24~35m・朝抜石棺）・二塚古墳（前方後円墳・主軸長約30m・朝抜石棺）・砂押古墳（円墳・直径約29m）・金洗沢古墳（円墳・直径約15m）・裏町古墳（前方後円墳・主軸長50m・竪穴式石室）が並ぶ。また、原遺跡では円墳12基・方墳2基が検出され、国内最北の埴輪棺墓も1基検出されている。名取川中流域の大野田地区にも古墳は集中し、その多くに埴輪が伴い、自然堤防上から後背湿地にかけて分布する。1976年と翌年に実施された六反田遺跡の調査で五反田古墳（円墳?・径20m前後）・五反田木棺墓・五反田石棺墓が発見された。現在までに

40基を超える古墳が調査・確認され、東西約800m・南北約450mの範囲に古墳群が形成されている。大野田古墳群のほぼ中央には春日社古墳（径46.6m）、前方後円墳（主軸長37m）の鳥居塚古墳、円墳（径19m）の王ノ壇古墳があり、その周辺には中小規模の円墳が群集していたことが明らかになってきた。それら、大野田古墳群の大半の墳丘は大部分が削平されており、周溝のみが発見される場合が多い。北西の三神峯丘陵南斜面では、埴輪を焼成した富沢窯跡の存在も知られている。

大野田地区周辺の集落跡は、前期の住居跡（塙釜式期）が大野田古墳群の他に伊古田遺跡・六反田遺跡・下ノ内遺跡で数軒検出されている。続く中期（南小泉式期）の集落跡は前期同様に検出例が少なく、これまでに下ノ内遺跡で2軒が検出されているのみである。この他には、大野田地区の北西約2.0kmの土手内遺跡で前期～中期の住居跡が8軒、同じく約0.9kmの泉崎浦遺跡で中期の住居跡1軒が検出されている。一方、生産域としては大野田地区の北側に位置する富沢遺跡で、各時代の水田跡が重層的に検出され、その北東部では古墳時代中期の小区画水田跡も確認されている。

古墳時代末期（飛鳥時代）には郡山低地東部の郡山遺跡に大規模な官衙が2時期にわたり造営される。I期官衙は南北約600m、東西約300mの規模を有し、造営時期は7世紀中頃とされる。II期官衙は一辺四町（428m）のほぼ正方形の地割で造られ、I期官衙の取り壊し後、7世紀末頃から8世紀初頭に国府として造営されたと考えられている。また、II期官衙の南側には同時期に郡山庵寺も造られており、当時、名取川中流域の郡山低地が律令体制の拠点として極めて重要な地域であったことが判明している。この時期には大年寺山から三神峯丘陵にいたる丘陵縁辺部斜面に愛宕山・大年寺山・宗禅寺・茂ヶ崎・二ッ沢・土手内横穴墓群が造られた。また土手内横穴墓と重複し、それより古い土手内窯跡（須恵窯）も営まれた。

古代

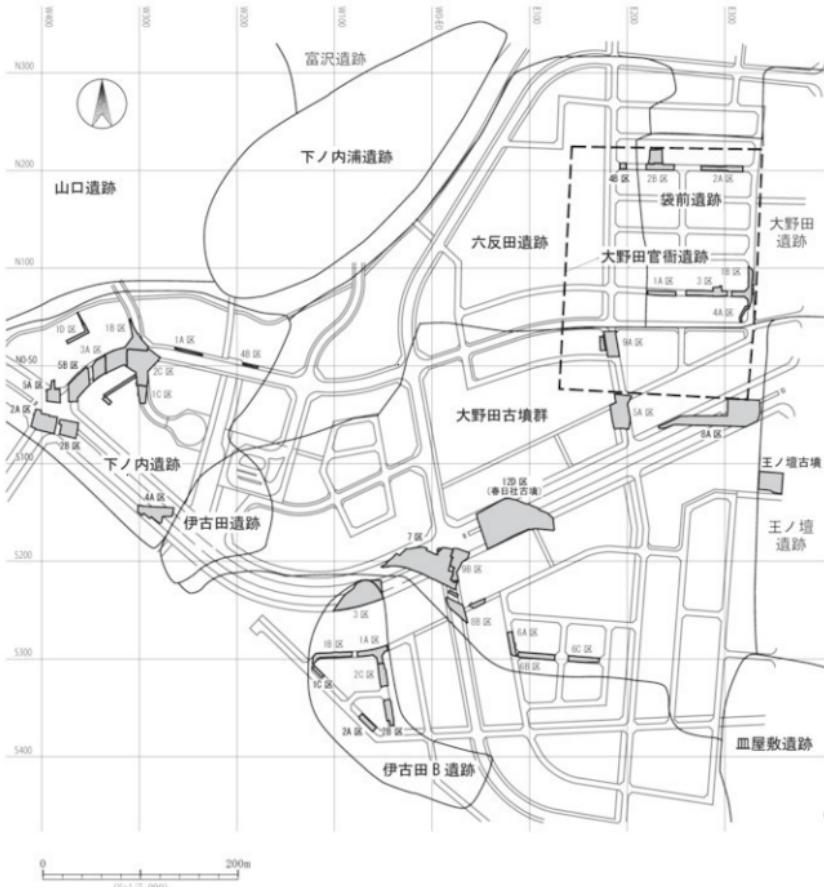
8世紀前半に国府多賀城が造営され、8世紀中頃には広瀬川北岸の自然堤防上に陸奥国分寺・国分尼寺も造られることにより、仙台平野一带は陸奥国の中心地となった。郡山低地では多くの集落跡が発見され、大野田地区周辺でも、これまでに伊古田遺跡・下ノ内遺跡・六反田遺跡・山口遺跡・下ノ内浦遺跡・元袋遺跡・王ノ壇遺跡で奈良時代から平安時代の住居跡や掘立柱建物跡が多数検出されている。生産遺跡としては北西側丘陵斜面の三神峯地区に瓦を焼成した富沢窯跡が所在する。大野田地区的生産遺構としては、平安時代の水田跡の他、地区のほぼ全域で検出され畑跡の可能性が想定される小溝状遺構群がある。これまでに大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡・富沢遺跡・山口遺跡・下ノ内遺跡・下ノ内浦遺跡・伊古田遺跡・袋前遺跡・元袋遺跡などで奈良時代から平安時代にかけての小溝状遺構群が多数検出されている。

中世

文治五年（1189年）、奥州合戦は幕を閉じ、源頼朝はその後、鎌倉御家人に陸奥国の所領を与えている。この時期に郡山低地では大野田地区に武士の屋敷跡が営まれる。王ノ壇遺跡（1次調査）では12世紀から14世紀にわたる屋敷跡が発見され、南北約400mにも及ぶ大溝が走り、さらに、その内側からは一辺約50mの大溝で囲まれた方形の屋敷地が発見された。その敷地からは多数の掘立柱建物跡・井戸跡・池跡の他、塚墓・火葬墓・土葬墓などの宗教関係遺構も検出されている。建物跡は大規模な主屋を中心として馬屋・倉庫・作業場などがあったと想定され、主な出土遺物には在地産及び渥美・常滑・瀬戸産の中世陶器の他、中国産の綠釉陶器・青磁・青白磁・白磁などがあり、さらに板碑・宝鏡印塔なども出土している。王ノ壇遺跡では屋敷跡の西側で「奥大道」と考えられる路幅2.8～42mの幹線道路跡を長さ約360mにわたって検出し、屋敷跡への枝道も確認している。また、屋敷跡の南側から名取川の旧河道が検出されており、当時、屋敷跡は水運と陸運の結節点に位置していたと考えられ、屋敷跡は在地領主の居館的性格が想定される。なお、屋敷跡周辺には「北屋敷」・「皿屋敷」や「宿在家」などの小字名が南北に連なって残っている。同時期の大野田地区周辺の屋敷跡では、山口遺跡・富沢遺跡・下ノ内遺跡で掘立柱建物跡・

堅穴造構・井戸跡・土坑・堅穴造構・溝跡などが検出されている。また、城館跡では、西約1.2kmの自然堤防上に富沢館跡、北約2kmの丘陵上に茂ヶ崎城跡が知られている。

一方、大野田地区の対岸にあたる名取川下流域南岸の柳生地区の自然堤防上には柳生台畠遺跡・松木遺跡がある。柳生台畠遺跡では屋敷跡を構成する掘立柱建物跡・区画溝・井戸跡の他、土坑墓が多数検出され、12世紀から14世紀頃の遺物が出土している。この地区は仙台市宮城野区の岩切地区に次いで板碑が多く分布する地域で、日向古碑群を中心に45基が分布する。西方の名取市高館丘陵には中世熊野信仰の中心地である名取熊野三社があり、その西側斜面の大門山遺跡ではこれまでに250基ほどの板碑が確認され、さらに数百基の板碑が土中に埋もれるとされている。



第2図 グリッド及び調査区配置図

第3節 調査経過

近世

名取川北岸の山田条里遺跡からは屋敷跡の一部と考えられる堀跡と掘立柱建物跡が発見され、堀には入り口や洗い場と考えられる部分も確認されている。大野田地区周辺では、元袋遺跡で一辺約100m規模の堀に囲まれた屋敷跡が見つかり、掘立柱建物跡・井戸跡・池跡・排水溝などが検出され、三時期の変遷が確認された。また、下ノ内浦遺跡からは掘立柱建物跡3棟が検出され、富沢遺跡では近世墓・堅穴建物跡・掘立柱建物跡・溝跡などの屋敷跡が確認され、16世紀末から17世紀初頭の下級武士の屋敷跡と推定されている。その他には、大野田地区の東方約18kmの広瀬川南岸には伊達政宗が仙台城入城まで居住したことで知られる北目城跡、北西約4.5kmの広瀬川南岸の青葉山及びその麓には仙台城跡、北東約3.0kmの広瀬川北岸には政宗が晩年を過ごしたと言われる若林城跡などの城郭がある。

第3節 調査経過

当区調査区に伴う本調査は平成7年5月、大野田古墳群1A区から着手した。平成10年11月まで王ノ塙古墳、六反田遺跡、伊古田B遺跡、袋前遺跡の調査を行い、平成10年度に実施した伊古田B遺跡・袋前遺跡を除く調査成果は「大野田古墳群・王ノ塙古墳・六反田遺跡-仙台市富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I-」(仙台市文化財調査報告書第243集・平成12年3月)として刊行されている。

平成13・15年度の袋前遺跡、平成17年度の六反田遺跡の調査などで大きな掘立柱建物跡や区画溝ではないかと思われる官衙風の遺構が発見されて、(仮称)大野田官衙遺跡として取り扱っていたものは、調査資料の蓄積により、発見地区から東約1.5kmに位置する国指定史跡の郡山II期官衙の後半時期と密接な関係がある遺構群と考えられるようになったことから、平成21年度に大野田官衙遺跡として新規登録した。

また平成19年度には春日社古墳の調査を行い、発見された革盾などは保存処理されて、既に、遺跡から程近い仙台市富沢遺跡保存館で公開されている。

以下、当区画整理に関わる遺跡毎の調査次数と、平成22年度までの年度毎の調査区を、第2表と第3表にまとめる。

第2表 富沢駅周辺 調査区一覧

調査 年度	大野田 古墳群 5次調査	春日社古墳 2次調査	六反田 5次調査	王ノ塙 2次調査	王ノ塙古墳 2次調査	伊古田 3次調査	伊古田B 1次調査	下ノ内 6次調査	袋前 1次調査	元袋 4次調査	大野田 3次調査	屋敷 2次調査
H 7	1A~1F											
H 8	2A~21			1								
H 9	3A~3C		1A~1C	道路遺構								
H10	4A~4C						1A~1C			1A~1B		
H11									1A~1D			
H12	5A							2A~2C				
H13	6A~6C							3	2A~2B			
H14	7A~7E						2	4A~4B				
H15	8A~8B				王ノ塙古墳			5A~5B	3			
H16	9A~9B						3		4A~4B			
H17	10		2A~2B			1		6		1		
H18	11A~11D		3A~3C		2A~2B			7A~7B				
H19	12A~12D	春日社古墳	4A~4B					8	5	2		
H20	13A~13F		5A~5D					9		3A~3B	1	1
H21	14A~14E		6A~6G			3	4A~4D	10				
H22	15A~15C		7A~7G			4A	5		6	4		

*表に記載されている以外に、大野田官衙遺跡に関係するのは、大野田古墳群5A・9A・13B・13C・14B区、六反田遺跡2B・5C・6A区、袋前道路2A・2B・3区がある。

第3表 富沢駅周辺 遺跡別調査次数

調査 次数	大野田 古墳群	春日社古墳	六反田	王ノ塙	王ノ塙古墳	伊古田	伊古田B	下ノ内	袋前	元袋	大野田	置屋敷
1次	市道・108集	市道・108集	共住・34集	川棚墓・28集	川棚墓・29集	共住・83集	当区画整理	地鉄・136集	当区画整理	共住・103集	川棚墓・整埋中	川棚墓・29集
2次	ヨミセ・15集	当区画整理	地鉄・199集	当区画整理	当区画整理	地鉄・193集	共住・326集	共住・未報告	共住・301集	共住・188集	川棚墓・232集	当区画整理
3次	共住・83集		給食室	共住・238集		当区画整理		共住・未報告		川棚墓・272集	当区画整理	
4次	共住・138集			共住・102集	共住・238集			共住・未報告		当区画整理		
5次	当区画整理				当区画整理	共住・268集			共住・163集		共屋付借・301集	
6次	個住・266集							当区画整理		共住・341集		
7次	GS・287集							共住・266集				
8次	はまの丸・290集							共住・320集				
9次	共住・291集											
10次	個住・301集											
11次	個住・301集											
12次	個住・326集											
13次	共住・319集											
14次	保育所・338集											
15次	園林・347集											
16次	保育所・372集											
17次	たんぽぽ・355集											
18次	複合施設・360集											
19次	個住・371集											

*第2・3表の△印掛け表示は、本報告書で報告があることを示す。

第4節 報告書の作成

本報告書は、第2表、第3表に示した調査のうち、スクリーン・トーン部分を対象としている。各発掘調査の要項は、第2章の節ごとに記述している。報告書作成は平成22年度に株式会社玉川文化財研究所に平成22年度仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ作成刊行業務として委託して行っており、その整理体制は、以下のとおりである。

平成22年度

・整理担当 仙台市教育委員会文化財課調査指導係

　　結城慎一　主濱光朗　工藤信一郎　鈴木　隆　水野一夫　庄子裕美

・整理室 株式会社玉川文化財研究所仙台作業事務所（仙台市太白区富田字八幡中15）

・整理期間 平成22年6月14日から平成23年3月31日

・整理体制 主任調査員 小山裕之

　　調査員 麻生順司　河合英夫　北平朗久

　　調査補助員 太田雅晃　西本正憲　齊藤武士

第2章 本調査報告

第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序

本報告書における富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の調査区は36地点（春日社古墳、平成17年度以降大野田官衙遺跡を除く）と広範囲に及ぶ。ここでは各地点における遺存状況の良好な土層を基本層序とし、検討した。

整理の都合上、袋前遺跡1A・1B・2A・2B・3・4A・4B区、大野田古墳群5A・8A・9A区、王ノ壇古墳を北東部、伊古田B遺跡1A～C・2A～C・3区、大野田古墳群6A・6B・7・8B・9B区を南西部、下ノ内遺跡1A～D・2A～C・3A・4A・4B・5A・5B区を西部と記載することもある。

I層：現代の畑・水田耕作で、2層に細別される。

北東部では、Ia層はオリーブ灰色ないしは暗オリーブ灰色シルトの酸化鉄を少量含む旧水田耕作土で、層厚は4～36cm。Ib層にはにい黄橙色粘土質シルトにマンガン粒を含む水田下層の床土で、層厚4～8cmである。

南西部から西部では、Ia層は褐色砂質シルト・にい黄橙色シルト、層厚4～60cmの畑の耕作土が広がり、Ib層は灰色ないしは明緑灰色粘土質シルトで、下層に酸化鉄粒を多量に含む。層厚4～24cmの旧水田耕作土である。

II層：褐色・灰黃褐色・暗褐色など褐色系の炭や酸化鉄を若干含む粘土質シルトで、層厚は2～16cmである。

III層：中・近世や、若干ではあるが10世紀前半以降の古代遺構の検出面である。褐色・浅黄橙色などを呈する粘土質シルトで、層厚は4～24cmである。マンガン粒・酸化鉄を含み、層の中位に灰白色火山灰の小ブロックを含む箇所も認められる。

IV層：暗褐色・黒褐色シルトで、マンガン粒・炭を含む層厚は4～64cmの層であるが、南西部では2層に分層されるところが認められる。

IVa層は暗・黒褐色シルトで共通であるが、IVb層はそれに褐色細砂をブロック状に含む層である。IVb層は特に伊古田B遺跡3区の南半中央付近で顕著である。

V層：一部、所により古代の遺構の掘り込みが確認できる面でもあり、V層上面で検出される小溝状遺構の耕作土でもある。

V層：上面が古墳時代・大野田官衙関連遺構を含む古代（10世紀前半以前）の検出面である。にい黄褐色・褐色シルトにマンガン粒・酸化鉄を若干含む、層厚6～40cmの層である。この層も南西部の調査区では、2層に分層されるところがある。

Va層は南西部に共通してみられ、色調・含有物は上記と同様であるが、粘土質シルトである。Vb層は伊古田B遺跡2A～C・3区、大野田古墳群8B区に分布する黄褐色粘土質シルトである。

VI層：北東部の調査区では、にい黄褐色砂質シルトでマンガン粒・酸化鉄を少量含む層厚10～36cmの層として確認される。南西部では、暗褐色粘土質シルトでマンガン粒・酸化鉄を少量含む層厚6～30cmの層として認められる。西部の調査区の多くでは、層厚10～64cmの灰黃褐色から褐色の砂質シルト層として確認され、古墳時代と古代遺構の検出面となっている。

VII層：東北部調査区では、にい黄褐色砂に、大き目のマンガン粒を含む層厚16～62cmの層である。南西部においては、褐色砂に同色の粗砂をブロック状に含む層厚8～48cmの層として認められる。ただし伊古田B遺跡2B・C区、大野田古墳群7区-1では疊層となっており、それ以上の掘り下げは行っていない。西部の調査区では绳文後期遺構の検出面となっており、にい黄橙色砂質シルトからなる層厚16～40cmの層である。

VIII層：東北部では、にい黄橙色砂に同色の砂質シルトのブロックを多量に含む層厚は8～64cmの層である。南西部では、大野田古墳群7区-2・8B区で確認される暗褐色砂疊層で、層厚は18～38cmである。西部では、灰黃

褐色粘土質シルトに礫を少量含む層厚12~36cmの層で、上面が縄文中期末葉の遺構検出面となっている。

IX層：北東部では袋前遺跡1B・2A区、大野田古墳群5A・8A区で確認されている。にぶい黄褐色シルトに砂質シルトのブロックを多量に含む層で、層厚8~62cmである。西部ではこの層も縄文中期末葉遺構の検出面となり、下ノ内遺跡1A・1B・2C・3A・4A区で確認される、にぶい黄褐色粘土質シルト層で、層厚10~22cmを計る。

X層：北東部の袋前遺跡1A・3区で確認される、にぶい黄橙色砂で層厚は8~10cmの層である。また南西部では下ノ内遺跡1A・1B・2C・3A・4A区でみられる。灰黄褐色粘土質シルトに炭片を含む層厚8~10cmの層である。

XI層：北東部は袋前遺跡3区で確認している。にぶい黄褐色粘土質シルトに、にぶい黄橙色粘土質シルトを縦状に含む層で、層厚は60~64cmである。西部の下ノ内遺跡1A・1B・2C・3A・4A区では、この層も縄文中期末葉の層として確認された。にぶい黄橙色砂質シルトで層厚8~20cmである。

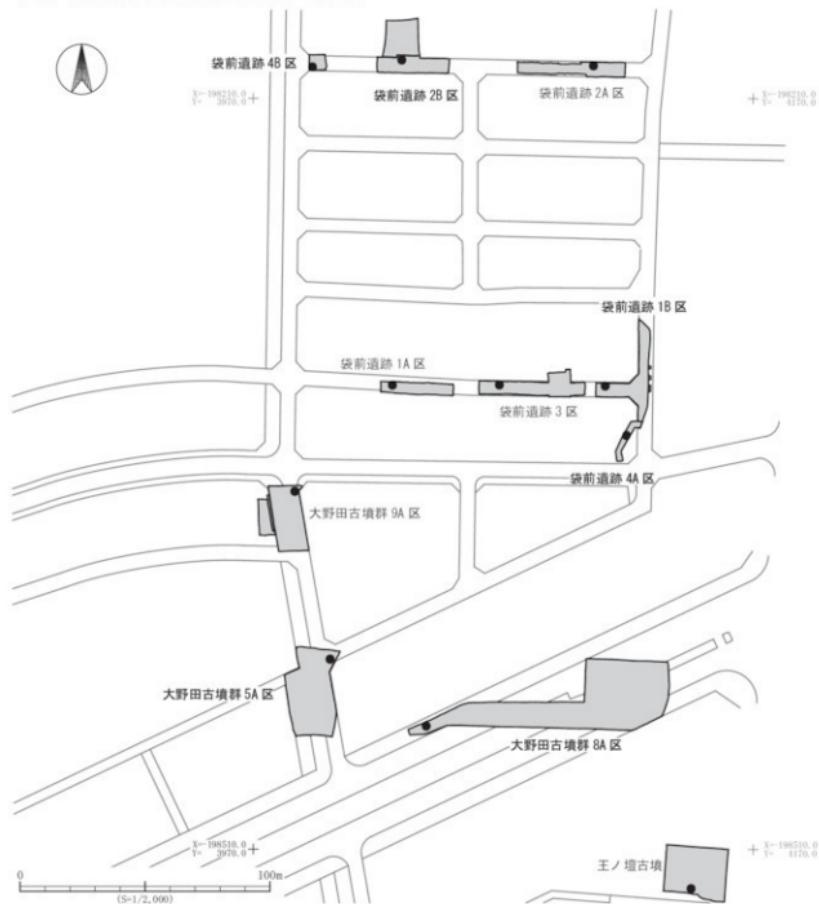
XII層：北東部の袋前3区で確認された褐色粘土質シルト層で、層厚は不明である。西部の下ノ内遺跡1B・2C区では、層厚70~74cmのマンガン粒を斑状に含む明黄褐色砂質シルト層で、本層上面も縄文中期末葉の遺構検出面である。

XIII層：下ノ内遺跡1B区で確認された。にぶい黄橙色細砂で非常に硬くしまっており、マンガン粒を斑状に含む層厚12~16cmの層である。

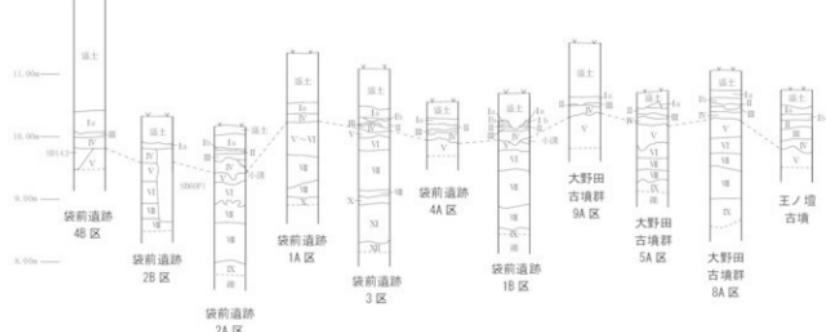
XIV層：下ノ内遺跡1B区で確認した。にぶい黄褐色粗砂で、マンガン粒を斑状に含んでいる。層厚は不明である。

XV層：下ノ内遺跡1B区で確認した。灰黄褐色砂の層で、5cm以下の礫を含んでいる。層厚は不明である。

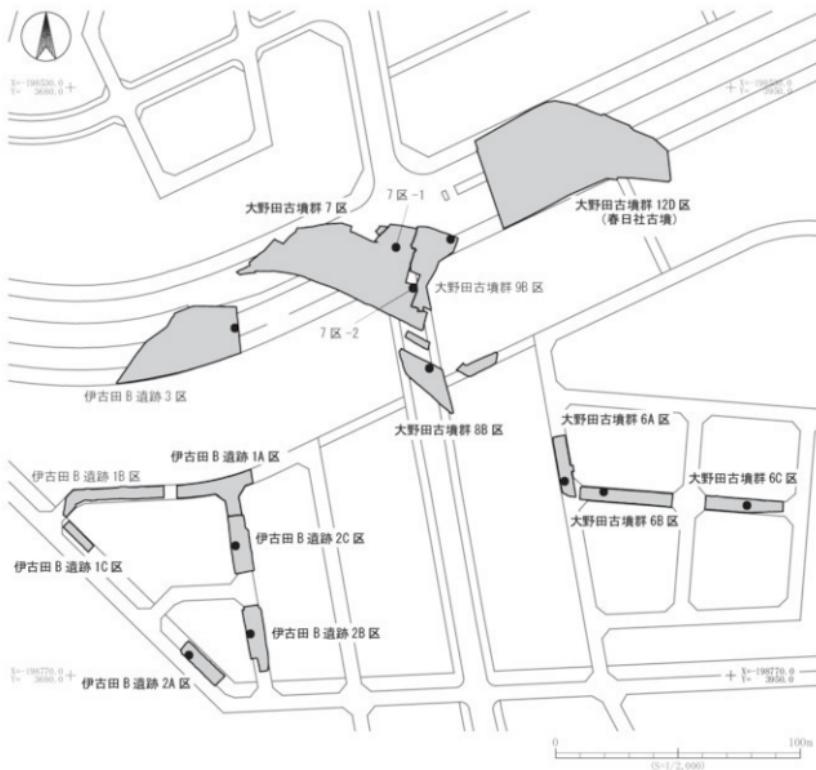
第1節 富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡の基本層序



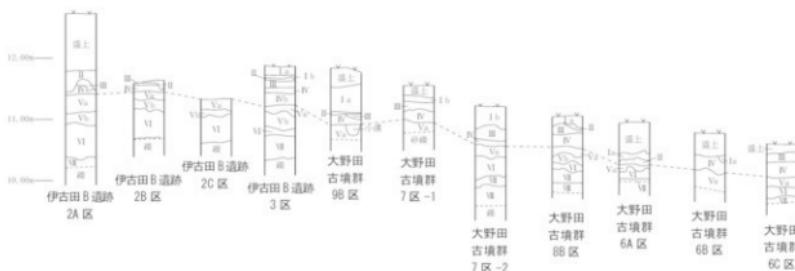
第1図 富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡（北東部）基本層序位置図



第2図 富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡（北東部）基本層序

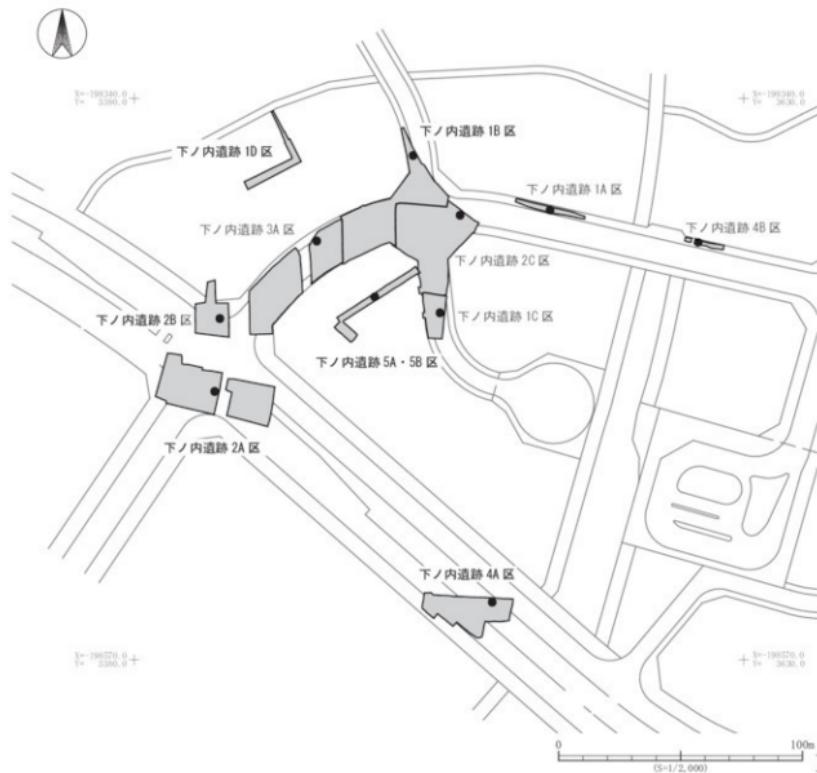


第3図 富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡（南西部）基本層序位置図

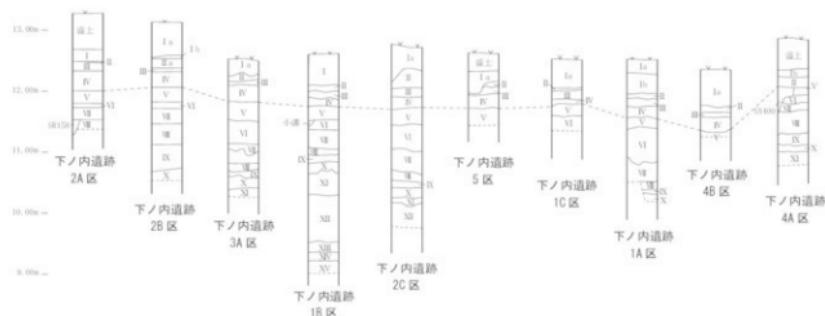


第4図 富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡（南西部）基本層序

第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係道路の基本層序



第5図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係道路（西部）基本層序位置図



第6図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係道路（西部）基本層序

第2節 袋前遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：袋前遺跡（宮城県遺跡登録番号01439）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字袋前、竹松、六反田
- (3) 調査面積：約1,150m²
 - ・平成10年度：約400m²（1A・1B区）
 - ・平成13年度：約440m²（2A・2B区）
 - ・平成15年度：約220m²（3区）
 - ・平成16年度：約90m²（4A・4B区）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員
 - ・平成10年度：渡辺 誠・渡部 紀
 - ・平成13年度：篠原信彦・阿部博朗
 - ・平成15年度：佐藤 淳・橋本顯嗣
 - ・平成16年度：荒井 格・木幡賀一
- (7) 調査期間
 - (野外調査) ・平成10年度：平成10年4月9日～11月12日
 - ・平成13年度：平成13年10月12日～平成14年1月24日
 - ・平成15年度：平成15年5月6日～6月26日
 - ・平成16年度：平成16年6月7日～10月28日
 - (整理作業) 各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。
 - ・平成22年6月18日～平成23年3月31日

2. 1A区の調査

1A区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡1棟、土坑9基、性格不明遺構4基、溝跡5条、ピット88基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) V層検出の遺構と遺物（第1図、図版1）

1) 掘立柱建物跡

SB237掘立柱建物跡（第2図、図版1） E230・N80グリッドで検出した。P69・P71・P75・P97・P100により構成されているが、ピット番号をそれぞれSB237のP1～P5に変更している。調査区内での検出では東西柱穴間は2間と短いことから、南北方向に桁行きを持つ建物跡である可能性が考えられる。東西柱穴列間は2間（P2からP3が2.20m + P3からP4が2.70m、総長4.90m）、南北柱穴列間は2間以上（西列のP4からP5が1.70m + P5から調査区北壁まで0.90m、総長2.60m・東列のP2からP1が1.20m + P1から調査区北壁まで1.30m、総長2.50m）で、P2・P1を基準とするならば、方向はN-12°-Eである。柱穴平面形はP3が楕円形の他は、ほぼ円形であり、径25～30cm、深さ45～50cmである。P1～P4では柱痕跡が確認された。遺物は、P4より古代の須恵器甕小片が出土した。

第2節 袋前遺跡1A区の調査

E250

Y=4050

E240

Y=4040

Y=4035

E230

Y=4030

Y=4025

E220

Y=4020



+

+

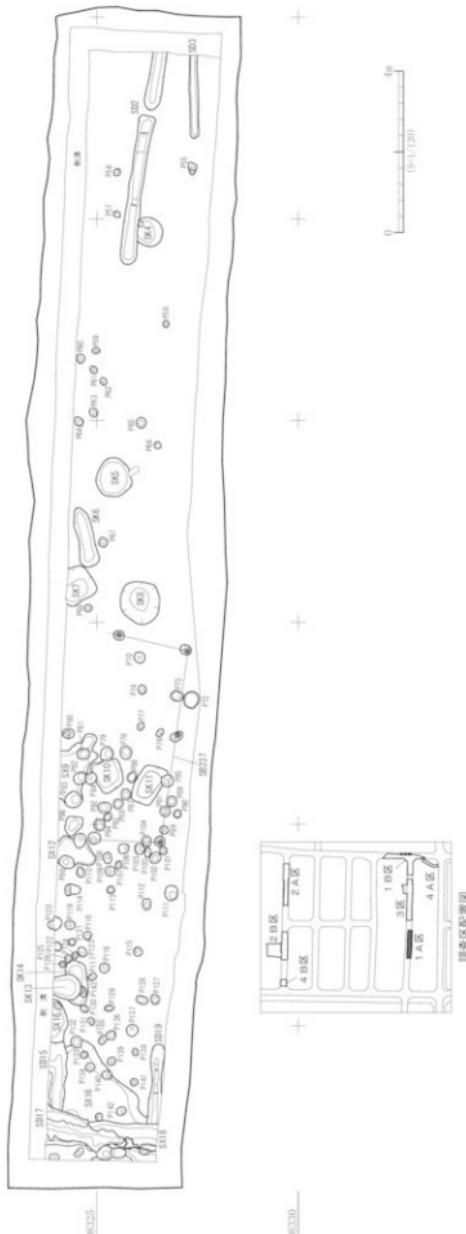
+

+

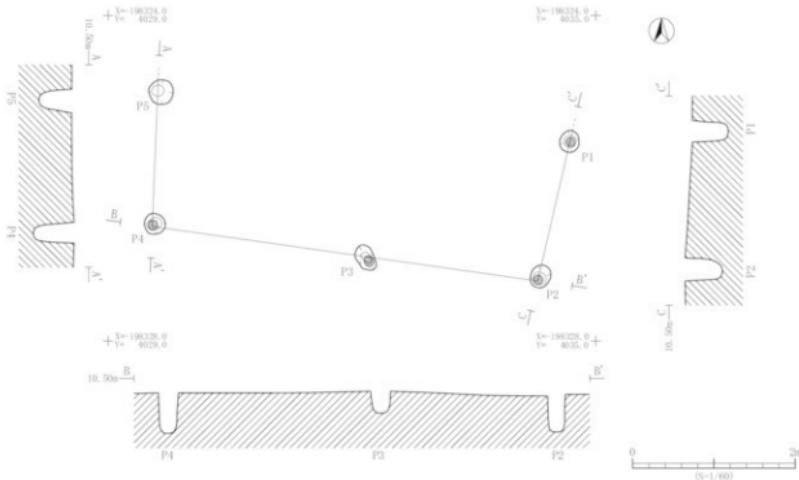
+

+

+



第1図 袋前遺跡1A区V層遺構配置図



第2図 SB237 挖立柱建物跡平面図・断面図

2) 土 坑

SK 4 土坑（第3図、図版2） E240・N 80グリッドで検出した。SD 2と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形と思われ、規模は径72cm、深さ9cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面にはわずかに凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK 5 土坑（第3図、図版2） E230・N 80グリッドで検出し、南側の一部を擾乱により削平されている。平面形はほぼ円形で、規模は径99cm、深さ19cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK 6 土坑（第3図、図版2） E230・N 80グリッドで検出した。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-78°-Eである。規模は長軸152cm、短軸39cm、深さ11cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は、土師器甕小片が出土した。

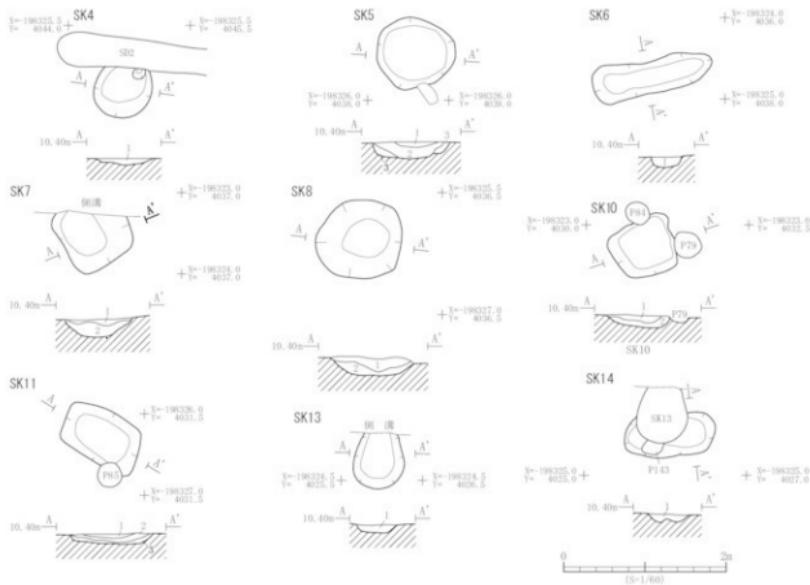
SK 7 土坑（第3図、図版2） E230・N 80グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と思われ、長軸方向はN-26°-Wである。規模は長軸83cm、短軸75cm、深さ20cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面は鉢鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK 8 土坑（第3図、図版2） E230・N 80グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径110cm、深さ25cmである。壁面は比較的緩やかに立ち上がり、断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK10 土坑（第3図、図版2） E230・N 80グリッドで検出した。P79・P84と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整な隅丸方形で、方86cm、深さ14cmである。壁面はやや急角度で立ち上がり、断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK11 土坑（第3図、図版2） E230・N 80グリッドで検出した。P85と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。規模は長軸98cm、短軸65cm、深さ14cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

第2節 袋前遺跡1A区の調査



遺構	層位	主色	主性	備考	遺構	層位	主色	主性	備考
SK4	1 19130-42-1 黄褐色	砂質	陶灰色砂質シート及びマンガニ鉄を含む。		SK10	1 19YR4-1 暗灰色	粘土質シート	マンガニ鉄を含む。粗研磨わずかに含む。	
	2 19YR4-1 暗褐色	砂質	粘土質シート ブロック・マンガニ鉄を含む。		2 19YR6-6C-1 黄褐色	砂質シート	陶灰色粘土質シートの小ブロックを含む。		
SK5	1 20YR5-2B 黄褐色	粘土質シート	粘土質シート ブロック・マンガニ鉄を含む。		SK11	1 19YR3-1 暗褐色	粘土質シート	粘土質シート マンガニ鉄を含む。粗研磨わずかに含む。	
	2 19YR5-2B 黄褐色	粘土質シート	粘土質シート ブロックを含む。炭化物・マンガニ鉄を含む。		2 19YR4-1 暗褐色	砂質シート	陶灰色粘土質シートの小ブロックを含む。		
SK6	1 19YR3-2A 黄褐色	粘土質シート	粘土質シート ブロックを含む。下部に19YR4-2B 黄褐色		SK13	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質シート	粘土質シート ブロックを含む。炭化物・マンガニ鉄を含む。	
	2 19YR3-2A 黄褐色	粘土質シート	粘土質シート ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。		2 19YR3-2B 黄褐色	砂質シート	陶灰色粘土質シートの小ブロックを含む。		
SK7	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロック・マンガニ鉄を含む。		SK14	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質シート	粘土質シート ブロックを含む。	
	2 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。						
SK8	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロック・マンガニ鉄を含む。						
	2 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。炭化物・マンガニ鉄を含む。						
SK10	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。						
	2 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。炭化物を含む。						
SK11	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロック・マンガニ鉄を含む。						
	2 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。炭化物を含む。						
SK13	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロック・マンガニ鉄を含む。						
	2 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。炭化物を含む。						
SK14	1 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。						
	2 19YR3-2B 黄褐色	砂質	粘土質シート ブロックを含む。						

第3図 SK4～8・10・11・13・14土坑平面図・断面図

SK13土坑（第3図）E220・N80グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。SK14、P143と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形と思われ、長軸方向はN-2°-Eである。規模は長軸方向の検出長88cm、短軸64cm、深さ13cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK14土坑（第3図、図版2）E220・N80グリッドで検出した。SK13、P143と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-89°-Eである。規模は長軸114cm、短軸52cm、深さ12cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は、土師器小片が出土した。

3) 性格不明遺構

SX9 性格不明遺構（第4図）E230・N80グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。P81～83と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、規模は長軸方向の検出長179cm、短軸方向の検出長93cm、深さ9～14cmである。断面形は皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX12 性格不明遺構（第4図）E220・N80グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。P97・98と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、規模は長軸方向の検出長95cm、短軸62cm、深さ4～7cmである。底面

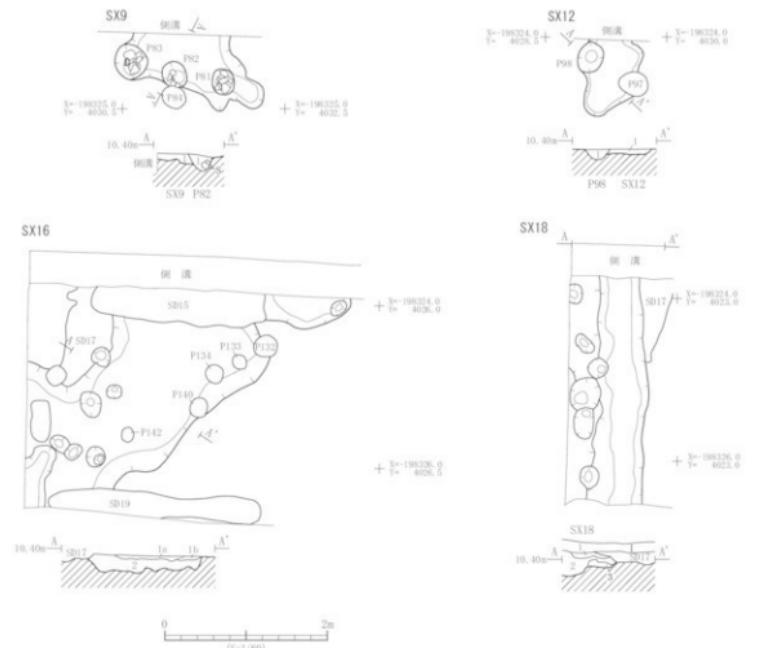


図4 SX9・12・16・18性格不明遺構平面図・断面図

には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

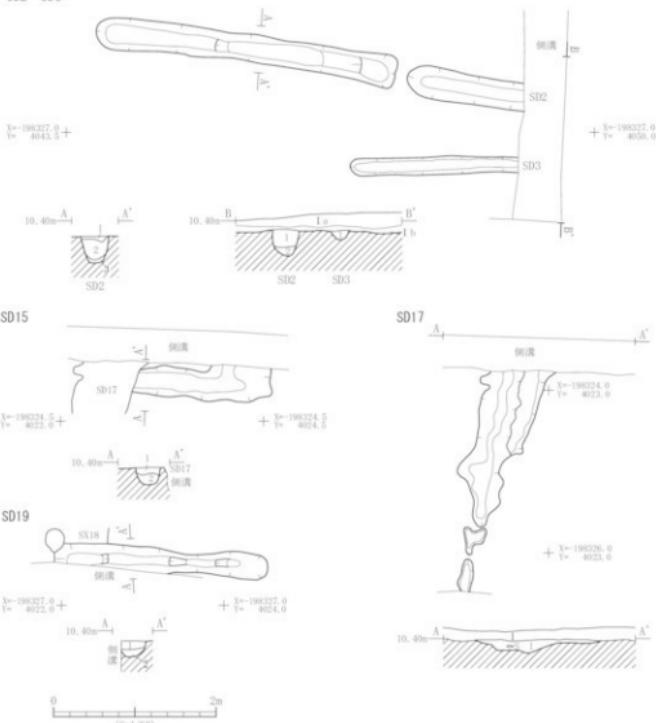
SX16性格不明遺構（第4図）E220・N80グリッドで検出した。SX18、SD15・17・19、P132～134・140・142と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、規模は長軸方向の検出長420cm、短軸95cm、深さ4～10cmで、底面の凹凸が著しい。堆積土は2層に分層され、1層は細分される。遺物は出土していない。

SX18性格不明遺構（第4図）E220・N80グリッドで検出し、大半は調査区外へ延びる。SX16、SD17・19と重複関係にあり、SD17より古く、他の遺構より新しい。平面形は溝状に近い不整形で、規模は検出長273cm、検出幅85～98cm、深さ5～25cmで、底面には凹凸がある。堆積土は3層に分層される。遺物は、土師器内黒斑の小片が出土している。

4) 溝跡

SD2溝跡（第5図）E240・N80グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。SK4と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-82°-Wで、部分的に途切れている。検出した長さは5.40m、幅32～42cm、深さ11～28cmで、

SD2・SD3



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SD2	1	10YR4/3-7褐色	粘土質シルト	V層を小プロック状に含む。	SD17	1	10YR6/1褐色	粘土質シルト	砂・マンガン粒・礫をわずかに含む。下間に少
	2	10YR3/3-7褐色	粘土質シルト	V層を小プロック状に含む。		2	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	5mm程の腐化貝壳混入。
	3	10YR7/3黒褐色	砂質シルト	砂・灰・黒褐色地に青いルートを含む。	SD19	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	V層小プロック・マンガン粒を含む。
SD3	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	V層を小プロック状に含む。		2	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	V層小プロックの混在層。
	2	10YR4/1褐色	角土質シルト	マンガン粒・V層小プロックを含み、炭化物片をわずかに含む。					
SD15	1	10YR4/1褐色	角土質シルト	V層小プロックを含む。					
	2	10YR3/1褐色	角土質シルト	V層小プロックを含む。					

第5図 SD2・3・15・17・19溝跡平面図・断面図

断面形はU字形である。堆積土は3層に分層され、基本層V層のブロックとマンガン粒を含む。遺物は出土していない。

SD3溝跡（第5図）E240・N80グリッドで検出し、遺構の一部は東側の調査区外へ延びる。主軸方向はほぼ東西正方位で、検出した長さは21.0m、幅19~24cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD15溝跡（第5図）E220・N80グリッドで検出した。SD17、SX16と重複関係にあり、SD17より古く、SX16より新しい。溝の形状はL字形で、主軸方向は東西正方位、屈曲して南北正方位で、そのまま調査区外へ延びる。検出した長さは1.60m、幅27~72cm、深さ11~25cmで、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器小破片が出土した。

SD17溝跡（第5図） E220・N80グリッドで検出し、両端は調査区外へ延びる。SD15、SX16・18と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-8°-Eで、検出した長さは2.85m、幅10~78cm、深さ8~15cmであり、部分的に途切れる。断面形は緩やかなU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD19溝跡（第5図） E220・N80グリッドで検出した。SX16・18と重複関係にあり、SK18より古く、SX16より新しい。主軸方向はほぼ東西正方位で、両端は搅乱を受け、西側は調査区外へ延びる。検出した長さは2.55m、幅24~32cm、深さ18~32cmで、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

5) ピット（第1図）

88基のピット（P55~142）が検出され、調査区全面に分布しているが、調査区西側のE220~230・N80グリッドに集中する傾向がある。遺物は、P67・84・85・93・116・136よりロクロ土師器小破片が出土した。

3. 1B区の調査

1B区ではⅡ・Ⅲ層上面（古代～近世の遺構検出面）において、溝跡1条、ピット55基、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑10基、性格不明遺構1基、小溝状遺構群2群、ピット325基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

（1）Ⅱ・Ⅲ層検出の遺構と遺物（第7図）

1) 溝 跡

SD1溝跡（第6図） E320・N80~90グリッドで検出した。主軸方向は南北正方位で、検出した長さは7.50m、深さ50cm前後で、幅は不明である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

2) ピット（第7図）

55基（P1~P54・793）のピットが検出され、E320・N90~100グリッド、E320・N80グリッドに分布している。遺物は、須恵器小片が出土した。

（2）V層検出の遺構と遺物（第8図、図版3）

1) 土 坑

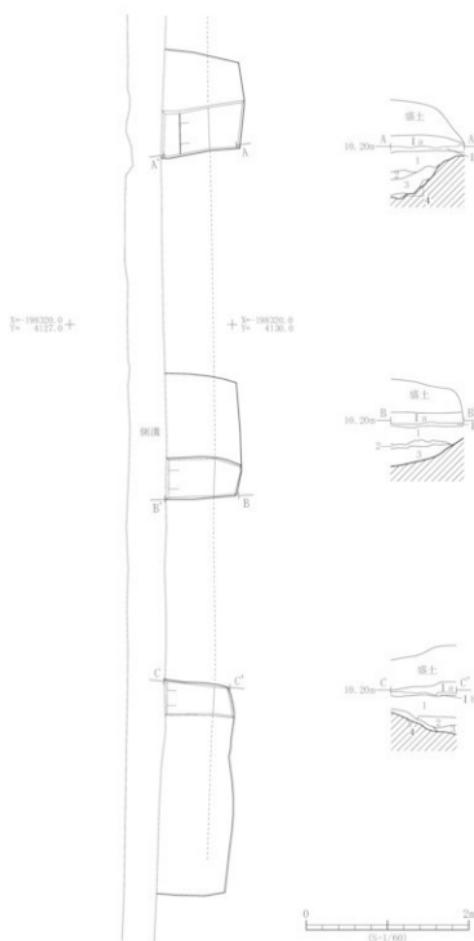
SK20土坑（第9図） E320・N70~80グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。SK21、小溝状遺構I-30と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は円形あるいは梢円形と思われる。規模は南北80cm、東西の検出長40cm、深さ30cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。遺物は、土師器小片が出土した。

SK21土坑（第9図、図版3） E320・N80グリッドで検出した。SK20、小溝状遺構I-29・30、P167と重複関係にあり、SK20・P167より古く、他の遺構より新しい。平面形は梢円形で、長軸方向はほぼ南北正方位である。規模は長軸170cm、短軸120cm、深さ75~110cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層され、それぞれ細分される。遺物は、土師器小片が出土した。

SK22土坑（第9図、図版3） E320・N80グリッドで検出した。P231~235・272・P461と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は梢円形で、長軸方向はN-2°-Wである。規模は長軸115cm、短軸82cm、深さ41cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層され、1層は細分される。遺物は出土していない。

SK23土坑（第9図、図版3） E320・N80グリッドで検出した。P251・252・254・312・492と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整円形で、規模は径130cm、深さ35cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層され、1層は細分される。遺物は出土していない。

SK24土坑（第9図、図版3） E320・N90グリッドで検出した。SD28、P266・269・298・452・462と重複関



遺構	層位	土色	土性	備考
SD 1	1	10YR5/1褐色	粘土	Ⅱ崩土体・酸化鉄・マンガン鉄を斑状に多量含む。ジルコニアに少量・鉄をブロック状に少量含む。
	2	10YR5/2褐色	粘土	酸化鉄を斑状に少量含む。
	3	10YR4/2褐褐色	粘土	Ⅱ崩土体・酸化鉄を斑状に多量、Ⅲ崩土をブロック状に少量含む。
	4	10YR5/4に近い褐色	粘土質シート	Ⅳ崩土体・V崩土体・灰褐色粘土をブロック状に多量、酸化鉄を斑状に多量含む。

第6図 SD 1溝跡平面図・断面図

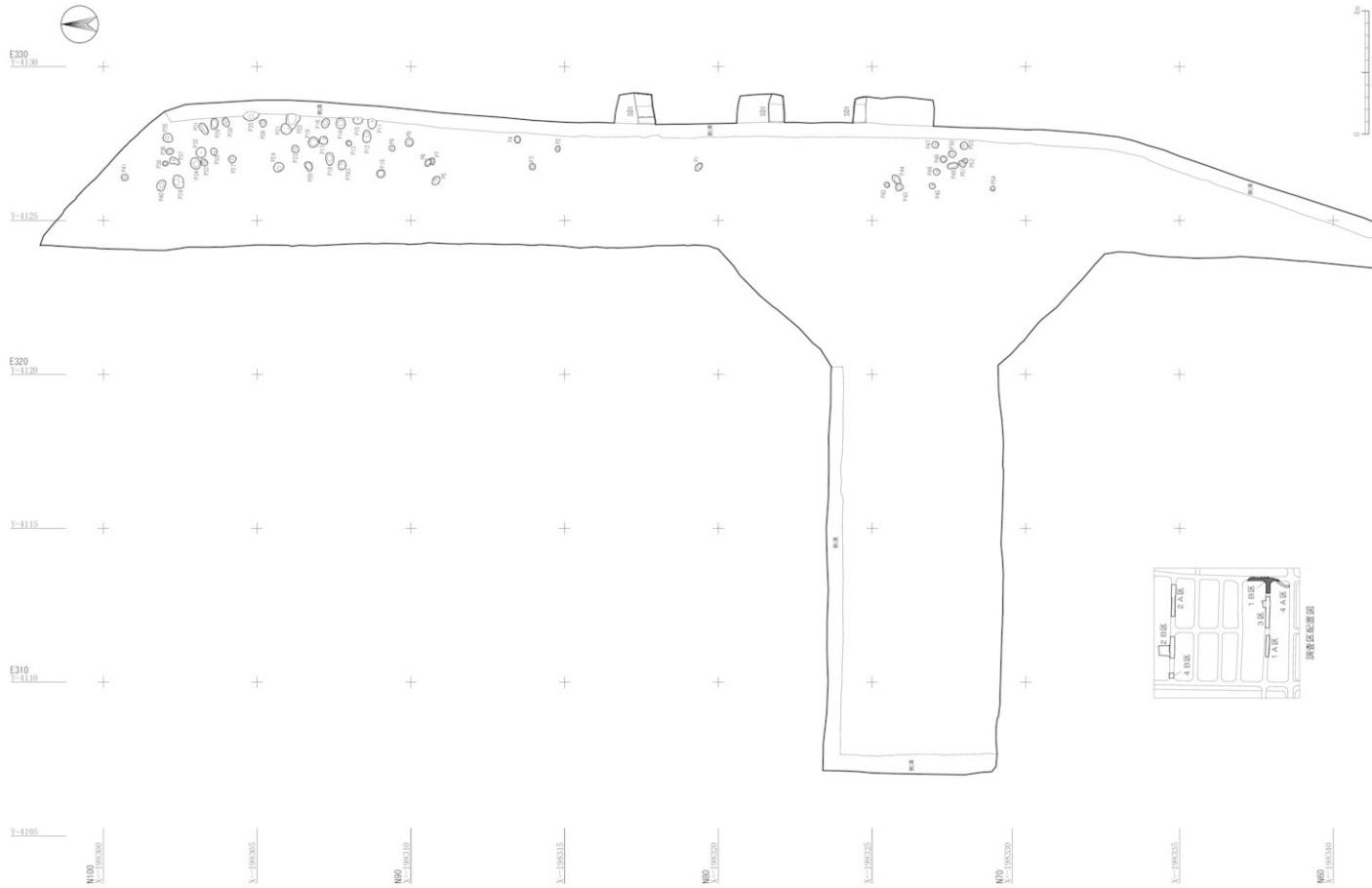
係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形で、規模は径145cm、深さ8cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK25土坑（第9図） E320・N90グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。P269・424と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形と思われ、規模は南北105cm、東西の検出長45cm、深さ10cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面には若干凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK27土坑（第9図、図版4） E320・N90グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。P323・324・427・474と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は円形あるいは楕円形と思われ、規模は南北55cm、東西の検出長50cm、深さ10~14cmである。壁面は比較的緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には若干凹凸がある。堆積土は2層に分層され、遺物は出土していない。

SK28土坑（第9図、図版4） E320・N100グリッドで検出した。P277・286・287・373・453~455・487・491と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はほぼ南北正方位である。規模は長軸125cm、短軸95cm、深さ35~56cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK29土坑（第9図、図版4） E320・N100グリッドで検出した。小溝状遺構 I-9、P282・388・456・485・489と重複関係にあり、I-9・P489より新しく、他の遺構より古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN~4°~Wである。規模は長軸170cm、短軸110cm、深さ35~50cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は逆台形を基調とするが、底面は北側



第7図 袋前道路1B区・III層地帯配置図

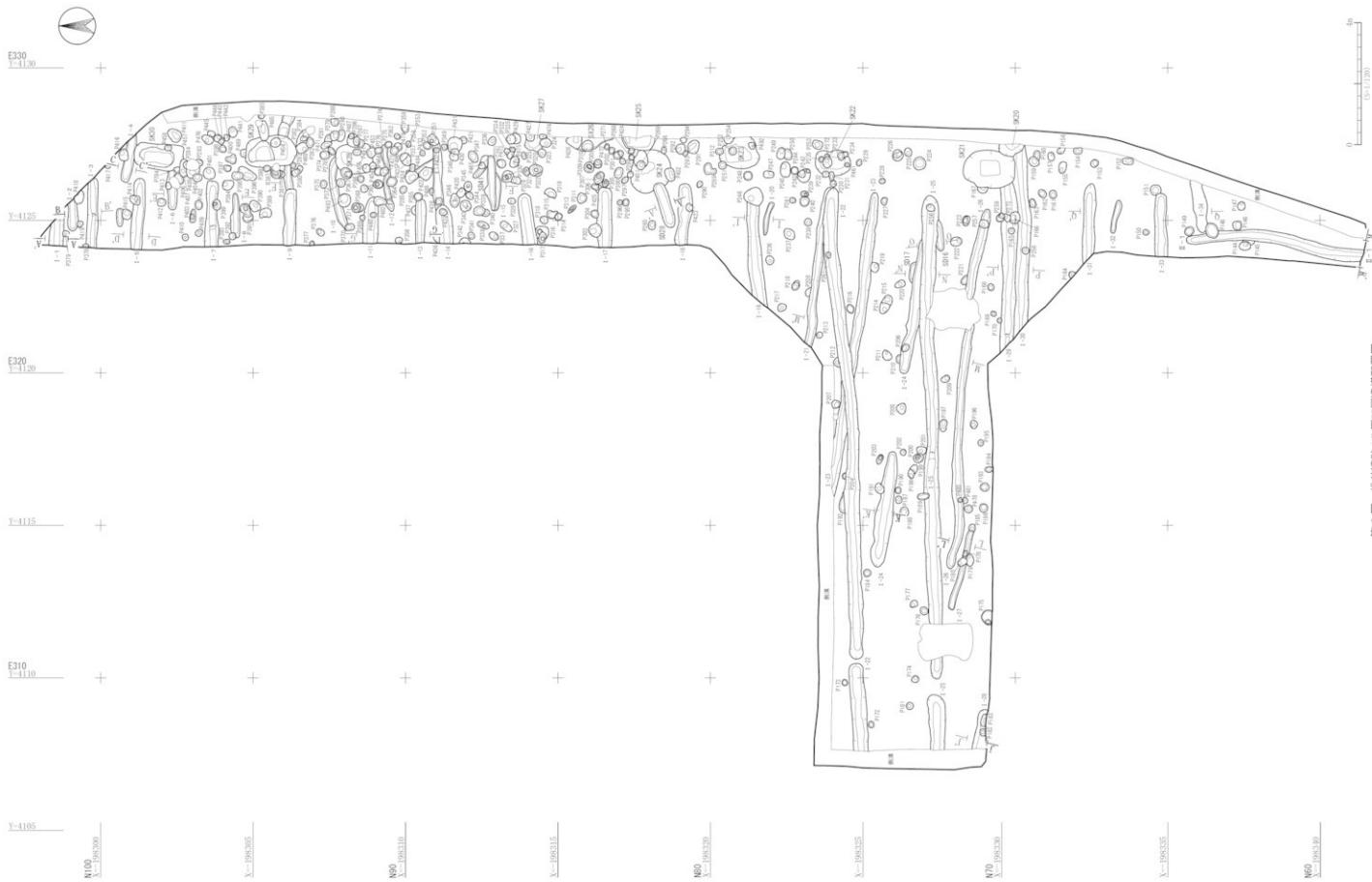
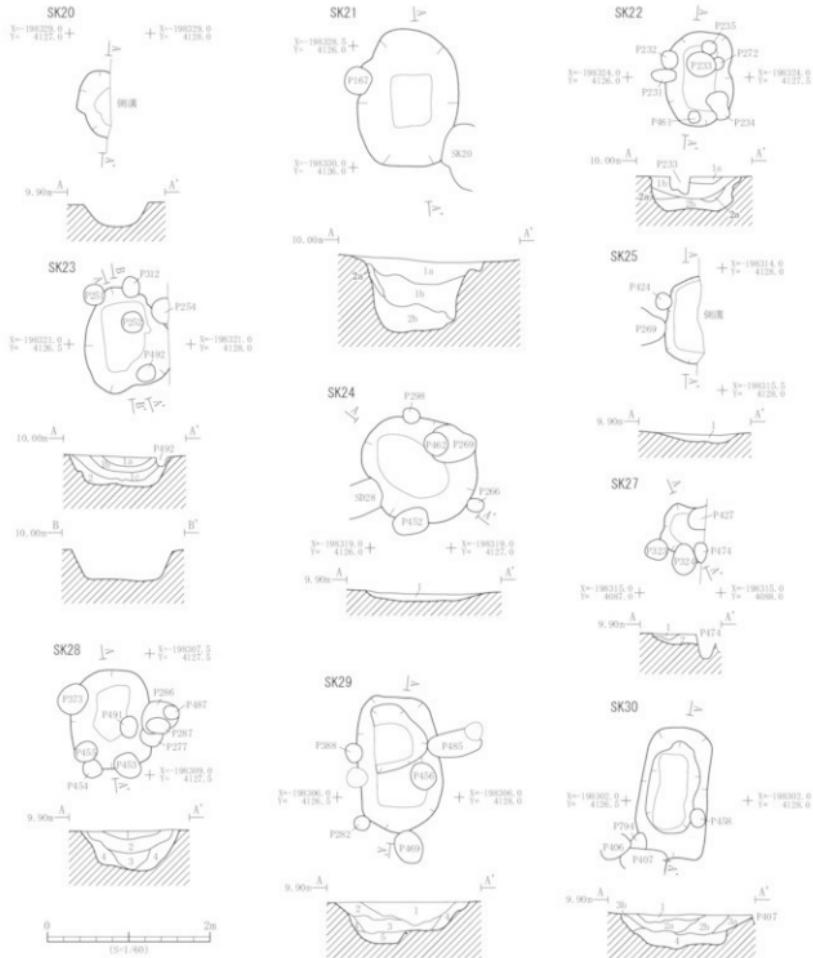


図8 図 袋前道路1B区V面調査配置図



遺構	層別	土色	土性	備考
SK21	1a	10YR3-3M褐色	粘土質シルト	砂質土体。廻灰化粘土と共に、黄褐色粘土質シルト。(A層) 全層に多少含む。
	1b	10YR3-3M褐色	粘土質シルト	粘土質シルト。A層より、約1~3mの距離物を堆积に多少含む。
	2a	10YR4/3G-5L-黃褐色	粘土質シルト	堅密漂浮。V型土体。廻灰化粘土質シルト(砂層)。シラコラック状に多少含む。
SK22	1a	10YR5-2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。廻灰化粘土質シルト(下層)をプロック状に含む。
	1b	10YR4/2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。廻灰化粘土質シルト体。にぶい黃褐色の小プロックを含む。
SK23	2a	10YR4-1褐紅色	粘土質シルト	廻灰化粘土質シルト体。にぶい黃褐色の小プロックを含む。
	2b	10YR5-2K-黃褐色	粘土質シルト	廻灰化粘土質シルト体。にぶい黃褐色の小プロックを含む。
SK24	1a	10YR5-2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。廻灰化粘土質シルト体。にぶい黃褐色の小プロックを含む。
	1c	10YR4-1褐紅色	粘土質シルト	砂質土体。廻灰化粘土質シルト体。にぶい黃褐色の小プロックを含む。
SK25	2	10YR4-1褐紅色	粘土質シルト	廻灰化粘土質シルト体。にぶい黃褐色の小プロックを含む。
	1	10YR4-2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。
SK26	1	10YR4-1褐紅色	粘土質シルト	砂質土体。
	2	10YR5-2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。
SK27	1	10YR4-1褐紅色	粘土質シルト	砂質土体。
	2	10YR5-2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。
SK30	1	10YR4-1褐紅色	粘土質シルト	砂質土体。
	2	10YR5-2K-黃褐色	粘土質シルト	砂質土体。

第9図 SK20~25・27~30土坑平面図・断面図

SK28~30土層計記

遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK28	1	10YR5-25K 黄褐色	粘土質シルト	礫化鉄鉱を含む。	SK30	1	10YR4-7褐色	粘土質シルト	10mmほどの黄色シルトブロックが点在する。
	2	10YR4-1褐色	粘土質シルト	黄色シルト(地山)の小ブロックが点在する。		2a	10YR4-7褐色	粘土質シルト	
	3	10YR3-1褐色	粘土質シルト	粘性はあるが、練まりが弱い。		2b	10YR3-1褐色	粘土質シルト	
SK29	4	10YR4-1褐色	粘土質シルト	粘土質シルトブロックと黄色シルトブロックの混在層。		3a	10YR3-1褐色	粘土質シルト	黑色粘土質シルトブロックと黄色シルトブロックの混在層。
	1	10YR4-1褐色	粘土質シルト	V層の小ブロックを含む。		3b	10YR4-3にぶい黃褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
	2	10YR4-1褐色	粘土質シルト	1mmほどのV層ブロックが点在する。		4	10YR4-1褐色	粘土質シルト	40cm地盤に黄褐色シルトブロックの混在層。
	3	10YR4-25K 黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト(地山)のV層ブロックを含む。					
	4	10YR4-25K 黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト主体。V層ブロックを含む。					
	5	10YR8-4浅褐色	粘土質シルト	粘土質シルト主体。灰褐色色土ブロックを含む。					

が低く、南側が高い。堆積土は5層に分層される。遺物は出土していない。

SK30土坑（第9図、図版4） E320・N100グリッドで検出した。小溝状遺構I-4、I-6、P284・407・794と重複関係にあり、小溝状遺構より古く、他の遺構より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。規模は長軸170cm、短軸87cm、深さ44cmで、断面形はU字形を基調とするが、壁面は不整形で、底面には凹凸がある。堆積土は4層に分層され、2・3層は細分される。遺物は出土していない。

2) 性格不明遺構

SX26性格不明遺構（第10図） E320・N90グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。P310・428と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、規模は南北の検出長125cm、東西の検出長45cm、深さ4~8cmで、断面形は皿状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向からI・II群に分けられる。

I群（第8・11図） ほぼ調査区全域で検出した。東西方向の遺構群であり、34条の小溝で構成されている。一部に掘り直しと考えられる小溝の重複もある。大枠としてI群として把握した。方向はN-74°-W~N-81°-Eで、断面形はU字形である。検出長1.10~18.48m、幅10~60cm、深さ2~42cm、小溝の間隔は2.0m程度である。堆積土は黒褐色・灰褐色・褐灰色・灰色・黄灰色・暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は、I-17から微細な骨片とI-7より土師器壺脚部小片が出土した。

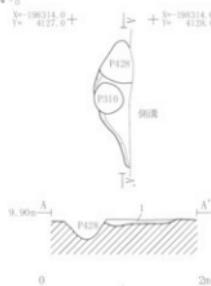
II群（第8・11図） E320・N60グリッドで検出した南北方向の小溝である。1条のみであるが、調査区東西外に同方向を向く小溝状遺構群が存在すると推定し、群として扱った。方向はN-8°-Eで、検出長5.85m、幅25~46cm、深さ7~15cmである。堆積土は暗褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

4) ピット（第8図）

325基（P144~157・159~170・172~254・256~259・261・264~269・271~332・334~349・351~353・355~359・362・364~371・373~385・387~425・427~439・441~445・448~462・464・465・469・471~492）のピットを検出した。調査区全域で検出したが、E30・N80~100グリッドにやや多く分布している。遺物は出土していない。

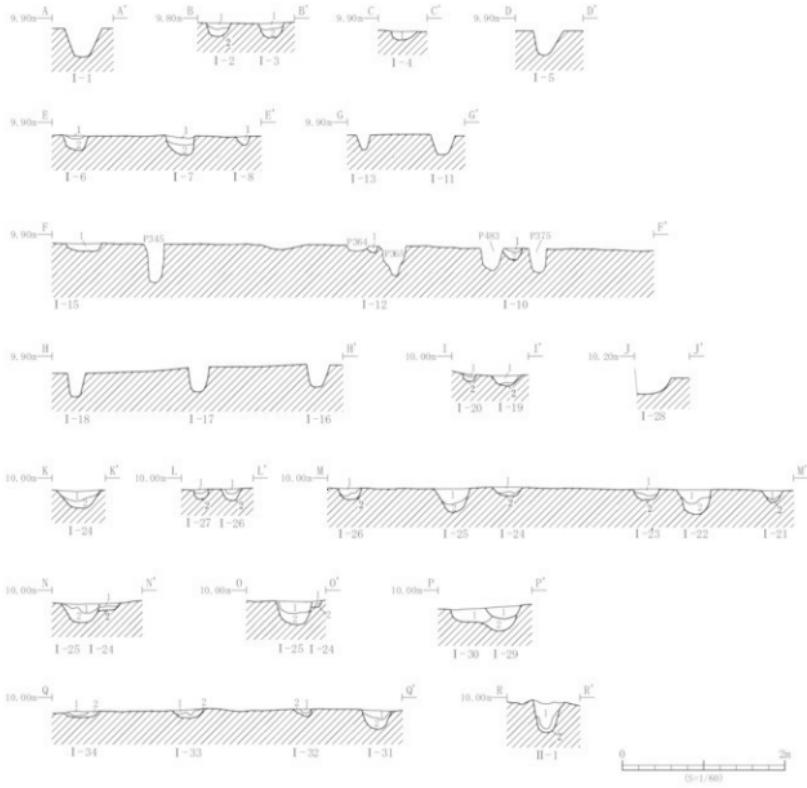
（3）遺構外出土の遺物（第12図、図版9）

基本層II・III・IV・V層の遺構外から遺物が出土しており、土師器壺1点、壺1点、須恵器壺1点、壺1点を第12図に示した。1は二重口縁壺の口縁部・頭部片である。口縁部、段端部にハケメ状工具による刻みが2~3mm置きではば等間隔に施されている。2は台付壺の脚部である。3は須恵器壺の胴部小片である。2条1組の沈線が上下2段に施されている。器厚も薄く、壺の可能性もある。4は須恵器壺の頭部片である。



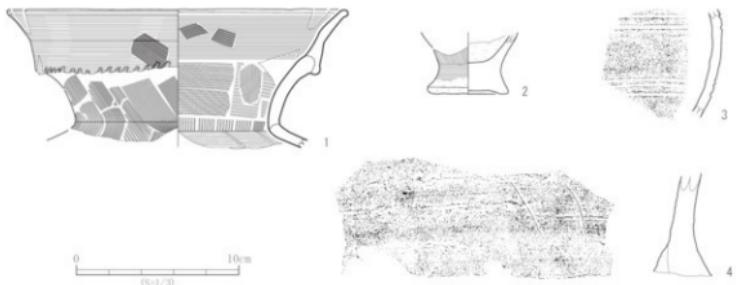
遺構	層位	土色	土性	備考
SX26	1	10YR4-1褐色	粘土質シルト	△20~30mmの粘土質シルトとV層ブロックの混在層。

第10図 SX26性格不明遺構
平面図・断面図



造塊	部位	土色	性質	備考	
				造塊	被覆
1-2	1 10YR 3R-25 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成、V型干し造塊に多量含む。ややグリ化。	1-23	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成を採用に多量含む。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-3	1 10YR 3S-25 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成、V型を採用に多量含む。ややグリ化。	1-24	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成を採用に多量含む。ややグリ化。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-4	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成、V型干し造塊にV型プロックの混在層。	1-25	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。
1-6	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト		1-26	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-7	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト		1-27	1 10YR 3S-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。V型干し造塊にV型プロックの混在層。
1-8	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト		1-28	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。
1-10	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト		1-29	1 10YR 2S-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。V型干し造塊にV型プロックの混在層。
1-12	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト		1-30	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-15	1 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト		1-31	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 10YR 4B-24 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊にV型プロックの混在層。	2 10YR 25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-19	1 25Y/4 黄褐色	粘土質シルト	粘土化含む。グリ化が少し。	1-32	1 10YR 2B-25 黄褐色
	2 25Y/4 黄褐色	粘土質シルト	粘土化含む。グリ化が少し。	2 10YR 3S-25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-20	1 25Y/4 黄褐色	粘土質シルト	粘土化含む。グリ化が少し。	1-33	1 10YR 3S-25 黄褐色
	2 25Y/4 黄褐色	粘土質シルト	粘土化含む。グリ化が少し。	2 10YR 3B-25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-21	1 10YR 3S-25 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成を採用に多量含む。ややグリ化。	1-34	1 10YR 3S-25 黄褐色
	2 10YR 3B-25 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成を採用に多量含む。ややグリ化。	2 10YR 3B-25 黄褐色	セメント粒状に多量含む。ややグリ化。
1-22	1 10YR 3-26 黄褐色	粘土質シルト	塑性化成を採用に多量含む。	1-35	1 10YR 3-26 黄褐色
	2 10YR 3-26 黄褐色	粘土質シルト	V型干し造塊に少量含む。	2 10YR 3-26 黄褐色	セメント粒状に少量含む。
II-1				1-36	1 10YR 3-25 黄褐色
				2 10YR 3-25 黄褐色	セメント粒状に少量含む。ややグリ化。

第11圖 小漢代遺構群斷面圖



No.	登錄番号	場所	遺構・グリッド	種別	器種	寸法×底径×器高(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真回数
1	C-1	V	E320・N90	土器	二重口沿	(117×84)×80	ヨコナギ・ヘラナギ・ハケヌメ、 桶状工具による削目	ヨコナギ・ヘラナギ・ハケヌメ		9-1
2	C-2	N	E320・N100	土器	台付壺形	×4.6×83.8	ヨコナギ・チヂ	-		9-2
3	H-1	II	E320・N90	土器	壺	×8.7×87.0	ロクロナギ・並行沈縫	ロクロナギ	壺の可能性あり。	9-3
4	H-2	II	E320・N80	土器	壺	×8.7×87.7	ロクロナギ	ロクロナギ		9-4

第12図 遺構外出土遺物

4. 2 A区の調査

2 A区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡1棟、土坑5基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ピット46基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

（1）V層検出の遺構と遺物（第13図）

1) 掘立柱建物跡

SB31掘立柱建物跡（第13図） 大野田官衙遺跡の遺構であることから、詳細は第8節を参照されたい。

2) 土坑

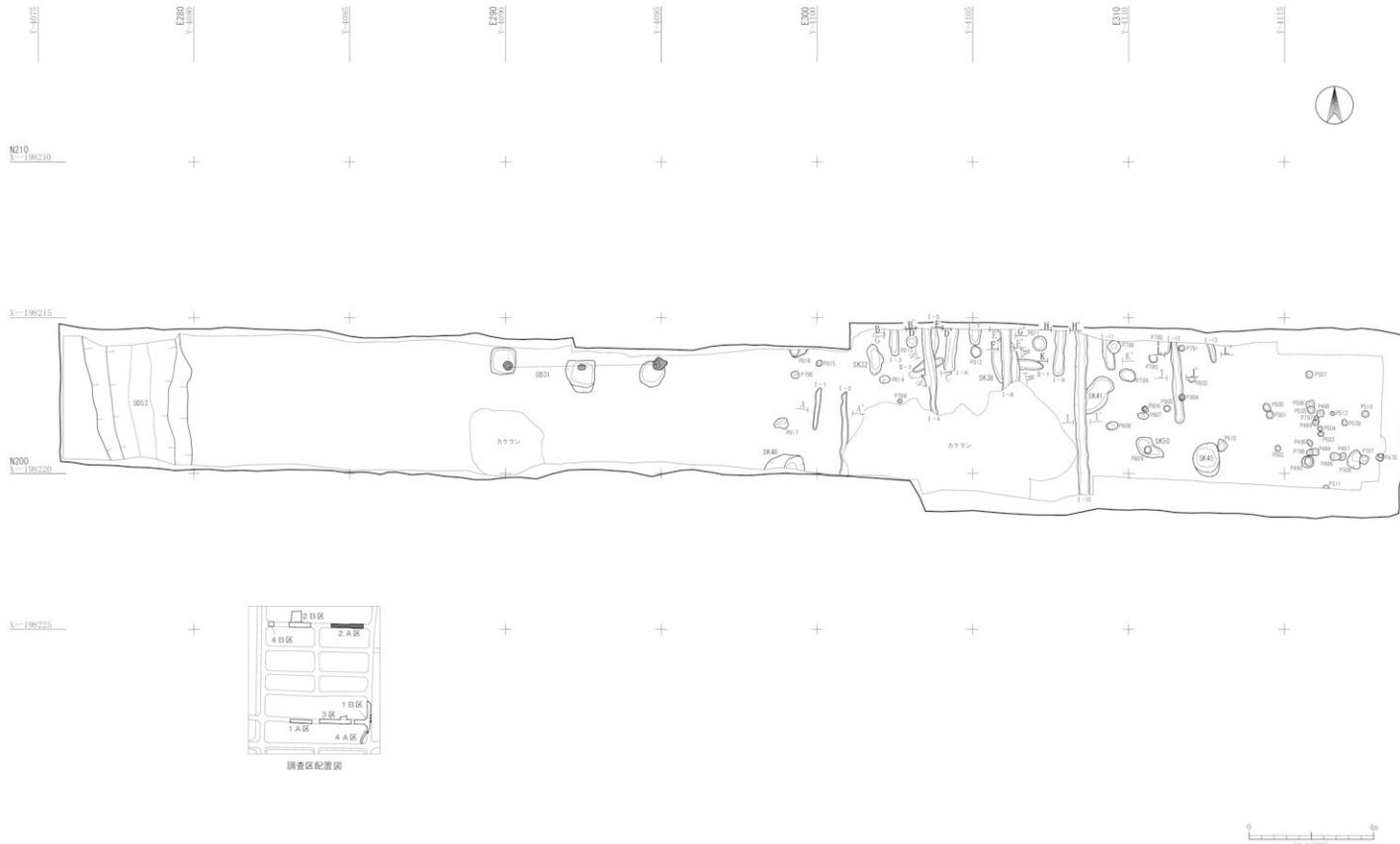
SK32土坑（第14図） E300・N210グリッドで検出した。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-8°-Wである。規模は長軸98cm、短軸46cm、深さ28cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK38土坑（第14図） E300・N210グリッドで検出した。小溝状遺構I-8、II-1と重複関係にあり、I-8より古く、II-1より新しい。また、遺構の南部の一部を擾乱で削平されている。平面形は楕円形で、規模は長軸方向の検出長146cm、短軸85cm、深さ26cmで、長軸方向はN-7°-Wである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

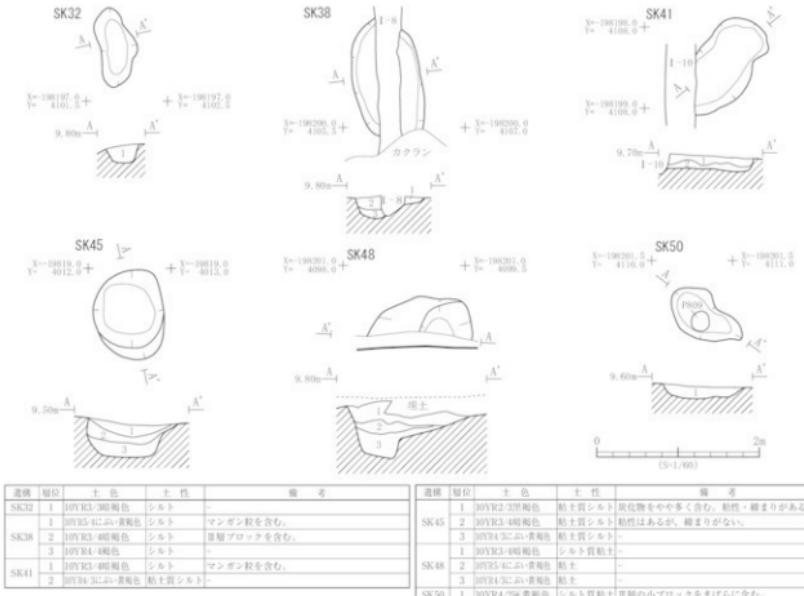
SK41土坑（第14図） E300・N210グリッドで検出した。小溝状遺構I-10と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整な楕円形と思われ、長軸方向はN-36°-Eである。規模は長軸方向の検出長130cm、短軸75cm、深さ16cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK45土坑（第14図） E310・N210グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-3°-Wである。規模は長軸110cm、短軸86cm、深さ39cmで、断面形はU字形を基調とするが、壁面は不整形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は、土器器壺、甕の小破片が出土した。

SK48土坑（第14図） E290・N210グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-88°-Eである。規模は東西方向の検出長128cm、南北方向の検出長44cm、深さ60cmで、壁面は急角度で立ち上がるが、西側の上部は緩やかになる。断面形は柄杓状であり、底面は擂鉢状で、西側にテラスを有する。



第13図 袋前遺跡2A区V層遺構配置図



第14図 SK32・38・41・45・48・50土坑平面図・断面図

堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK50土坑（第14図） E310・N210グリッドで検出した。P809と重複し、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-55°-Wである。規模は長軸102cm、短軸57cm、深さ15cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面には若干凹凸がある。堆積土は单層である。遺物は出土していない。

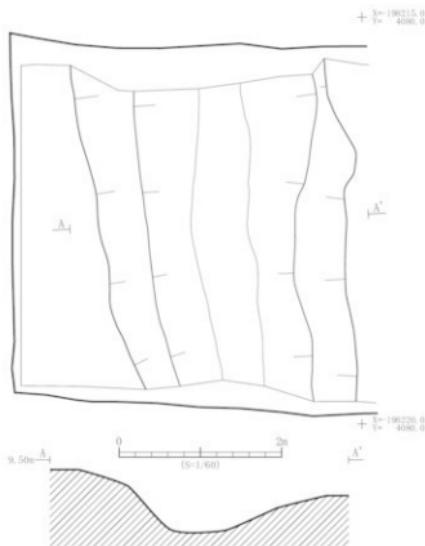
3) 槽跡

SD53溝跡（第15図） E270・N210グリッドで検出し、調査区外に延びている。方向はN-4°-Wで、検出した長さは420m、幅2.60~3.20m、深さ71~80cm、断面形は逆台形である。遺物は出土していない。

4) 小溝状遺構群

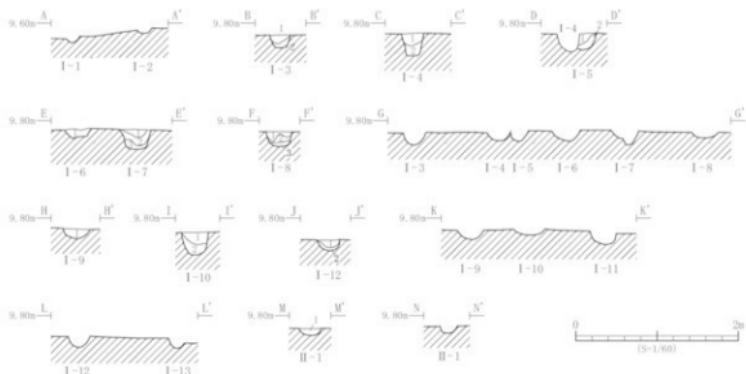
畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向からI・II群に分けられる。

I群（第13・16図） E290~310・N210グリッドで検出した。南北方向の遺構群であり、13条の小溝で



第15図 SD53溝跡平面図・断面図

第2節 袋前遺跡2A区の調査



遺構	土色	土性	施 考
I-3	1 10YR4/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを含む。
	2 10Y5/4-6/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを少量含む。
	3 10YR2/2褐色	シルト	黄褐色が少額混入。
I-4	1 10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトと黄褐色砂質シルトを含む。
	2 10YR2/2褐色	シルト	黒褐色を少量含む。
I-5	1 10YR2/2褐色	シルト	黒褐色を少量含む。
	2 10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトと黄褐色砂質シルトを含む。
I-6	1 10YR4/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを含む。
	2 10YR2/2褐色	シルト	黒褐色を少量含む。
I-7	1 10Y5/4-6/4褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトと黄褐色砂質シルトを含む。
2 10Y5/4-6/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを少量含む。	

遺構	層位	土色	土性	施 考
I-8	1 10YR4/4褐色	シルト	泥化物を少量含む。	
2 10YR2/2褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトと黄褐色砂質シルトを含む。		
3 10Y5/4-6/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを少量含む。		
I-9	1 10YR4/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを含む。	
2 10YR2/2褐色	シルト	泥化物を少量含む。		
I-10	1 10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトと黄褐色砂質シルトを含む。	
2 10YR4/4褐色	シルト	黒褐色シルトを少量含む。		
I-12	1 10Y5/4-6/4褐色	砂質シルト	黒褐色シルトを少量含む。	
2 10Y5/4-6/4褐色	シルト	黒褐色シルトを含む。		
III-1	1 10YR3/4-6/4褐色	シルト質粘土		

第16図 小溝状遺構群断面図

構成されている。一部に掘り直しと考えられる小溝の重複もある。方向はN-7°-E～N-11°-Wで、断面形はU字形である。検出長0.50～5.20m、幅12～38cm、深さ3～31cm、小溝の間隔は0.40m～3.00mとばらつきがあるが、掘り直しによる結果と考えられる。堆積土は褐色粘土質シルト・砂質シルト、にぶい黄褐色砂質シルト、黒褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

II群（第13・16図） E300・N210グリッドで検出した東西方向の小溝で、1条のみであるが、調査区北外に同方向を向く小溝状遺構群が存在すると推定し、群として扱った。方向は東西正方位であるが、中間が遺構間の重複などにより約2.40mほど途切れ、西側はやや南方に曲がる。断面形はU字形で、検出長は4.15m、幅15～34cm、深さ4～11cmである。堆積土は暗褐色シルト質粘土の単層である。遺物は出土していない。

4) ピット（第13図）

46基のピット（P470・493～512・787～792・795～797・799・803～817）が検出され、E290～310・N210グリッドに分布している。遺物は、P470からロクロ土器小破片が出土した。

(2) 遺構外出土の遺物（第17図、図版9）

基本層Ⅲ層・Ⅳ層より出土した縄文時代の石器6点を図示した。

1は有茎石器である。両側縁が直線状に開き、返し部の角度はほぼ水平である。茎部の作り出しは顕著で細い尖頭状である。2～4は凹石で、器体の表裏に2ヶ所あるいは3ヶ所の凹みが認められ、4は下端部にも敲打痕が認められる。5は敲石で、下端部と右側縁の突端部に敲打痕が認められる。6は砥石で扁平蝶の平坦面に研磨痕が観察される。



No.	登錄番号	層位	遺構・グリッド	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考	写真回数
1	K-c-a-1	Ⅲ	E-280-N210	打削石器	石器	珪質頁岩	3.4×1.5×0.5	13	有朱石器、両面に調整加工。	9-5
2	K-c-b-1	-	-	砸石器	閃石岩	安山岩	11.9×7.1×4.2	5190	Pn3+2,	9-6
3	K-c-b-2	Ⅲ	E-290-N210	砸石器	閃石岩	安山岩	(11.8)×(6.4)×(4.4)	(226.0)	Pn2+2、下部欠損。	9-7
4	K-c-b-3	Ⅲ	E-290-N210	砸石器	閃石岩	安山岩	(8.1)×(5.6)×(3.6)	(251.0)	Pn2+2、最下1、上部欠損。	9-8
5	K-c-c-1	Ⅲ	E-280-N210	砸石器	燧石	安山岩	12.7×9.3×4.4	6880	0.3×1個1。	9-9
6	K-c-d-1	Ⅲ	-	砸石器	砾石	安山岩	(19.0)×15.6×8.5	(21600)	0.1×1個1、下部欠損。	9-10

第17図 遺構外出土遺物

5. 2B区の調査

2B区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡1棟、土坑9基、性格不明遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群3群、ピット202基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

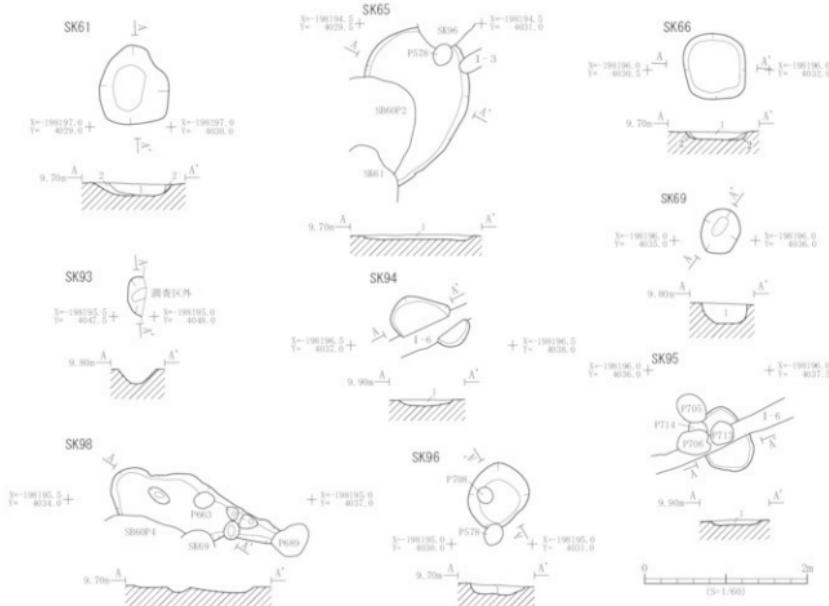
(1) V層検出の遺構と遺物（第19図、図版4）

1) 掘立柱建物跡

SB60掘立柱建物跡（第19図） 大野田官衙道跡の遺構であることから、詳細は第8節を参照されたい。

2) 土坑

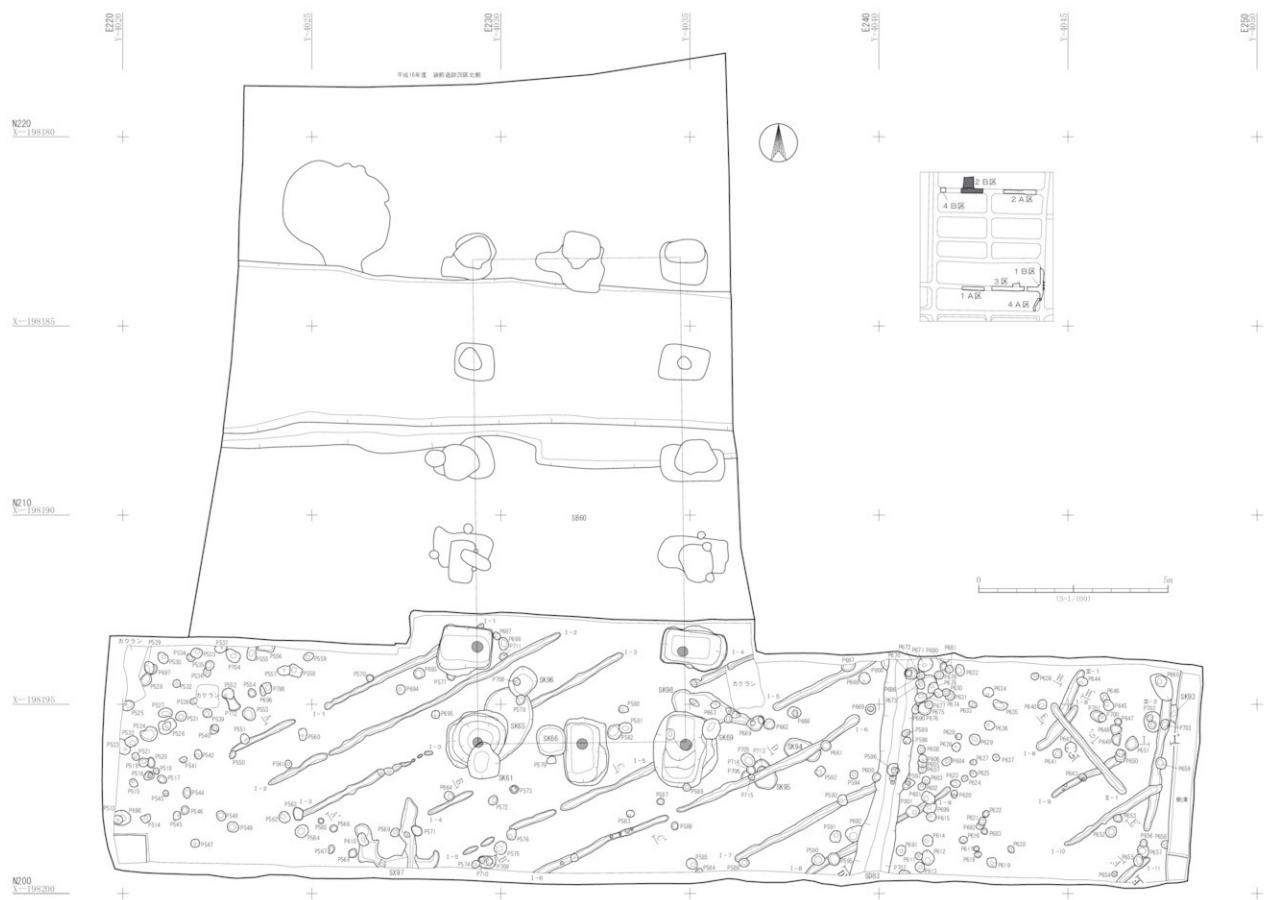
SK61土坑（第18図） E220-N210グリッドで検出した。SB60のP2、SK65と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-4°-Wである。規模は長軸95cm、短軸85cm、深さ15cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK61	1	25Y7.2K褐色	シルト質粘土・褐色シルト質粘土ブロックを含む。	
	2	0Y34.3C-2.5H褐色	粘土・マンゴン粘土を多く含む。	
SK65	1	80YR3.3H褐色	シルト質粘土・炭化物・酸化鉄・黄褐色シルトブロックを含む。	
	2	25Y7.2K褐色	シルト質粘土・褐色シルト質粘土ブロックを含む。	
SK66	2	0Y34.3C-2.5H褐色	マンゴン粘土を多く含む。	

遺構	層位	土色	土性	備考
SK69	1	10YR3.3H褐色	粘土・褐褐色粘土主体・黒褐色粘土を含む。	
SK94	1	10YR3.4H褐色	粘土質シルト・褐色シルトブロックを含む。	
SK95	1	10YR3.4H褐色	粘土質シルト・褐色シルトブロックを含む。	
SK96	1	10YR4.3C-2.5H褐色	炭化物を少量含む・黒褐色粘土質シルトを含む。	

第18図 SK61・65・66・69・93～96・98土坑平面図・断面図



第19図 袋前遺跡2B区V層遺構配置図

SK65土坑（第18図） E220~230・N210グリッドで検出した。SB60のP2、SK61、小溝状遺構I-3、P578と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-32°-Eである。規模は長軸方向の検出長190cm、短軸130cm、深さ4cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK66土坑（第18図） E230・N210グリッドで検出した。SB60のP3と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形で、規模は長軸80cm、短軸74cm、深さ10cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層である。遺物は出土していない。

SK69土坑（第18図） E230・N210グリッドで検出した。SB60のP4、SK98と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径55cm、深さ24cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK93土坑（第18図） E240・N210グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。規模は検出長で径46cm、深さ18cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK94土坑（第18図） E230・N210グリッドで検出した。小溝状遺構I-6と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-75°-Wである。規模は長軸95cm、短軸55cm、深さ8cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は緩やかな鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK95土坑（第18図） E230・N210グリッドで検出した。小溝状遺構I-6、P705・706・713・714と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。規模は長軸84cm、短軸60cm、深さ7cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK96土坑（第18図） E230・N210グリッドで検出した。SK65、P578・708と重複関係にあり、SK65より新しく、他の遺構より古い。平面形はほぼ円形で、規模は径74cm、深さ12cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には若干凸凹がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

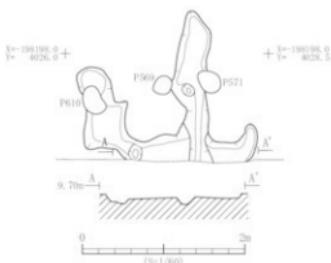
SX98土坑（第18図） E230・N210グリッドで検出した。SB60のP4、SK69、P663・689と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-74°-Wと思われる。規模は長軸方向の検出長230cm、短軸の検出長210cm、深さ9cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

3) 性格不明遺構

SX97性格不明遺構（第20図） E220・N210グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。P569・571・610と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は枝状で、規模は東西方向の検出長240cm、南北方向の検出長185cm、深さ18cmである。断面形は皿状で、遺物は出土していない。

4) 溝跡

SD83溝跡（第21図、図版5） E230~240・N210グリッドで検出した。P596~600・670~674・677・690・692・800、小溝状遺構I-7・8と重複関係にあり、P800、I-7・8より新しく、他の遺構より古い。方向はN-7°-Eで、検出した長さは5.70m、幅65~96cm、深さ24~44cmである。断面形は逆台形で、壁上半は掘り直しと思われる段差がみられる。堆積土は5層に分層され、そのうち1層は掘り直しの溝の堆積土である。遺物は出土していない。



第20図 SX97性格不明遺構平面図・断面図

5) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からⅠ～Ⅲ群に分けられる。

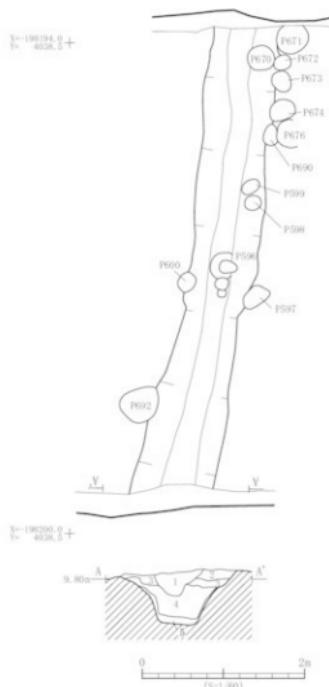
Ⅰ群（第19・22図） ほぼ調査区全域で検出した。北東・南西方向の遺構群で、11条の小溝で構成されている。方向はN-53°～65°-Eで、検出長1.00m～12.05m、幅10～35cm、深さ1～12cm、断面形はU字形で、小溝の間隔は1.2～1.7mである。遺物は、I-7から瓦小破片が出土した（第23図、図版9）。平瓦であり、両端縁は欠損しているが、側縁は残存している。調整は四面糸切り・布目痕、凸面がナデのち縄叩きである。四面に檜板圧痕を確認できることから、桶巻作りと思われる。

Ⅱ群（第19・22図） E240・N210グリッドで検出した。北西・南東方向の小溝群で、1条のみであるが、調査区北東・南東外にも存在すると推定し、群として扱った。方向はN-43°-Wで、検出長3.05m、幅18～25cm、深さ6～13cm、断面形はU字形である。遺物は、ロクロ土師器小破片が出土した。

Ⅲ群（第19・22図） E240・N210グリッドで検出した。北東・南西方向の小溝で、2条と少ないが、調査区北東・南東外に展開しているものと推定し、群として扱った。方向はN-10°～25°-Eで、検出長1.35～3.50m、幅18～32cm、深さ4～9cm、断面形はU字形である。遺物は出土していない。

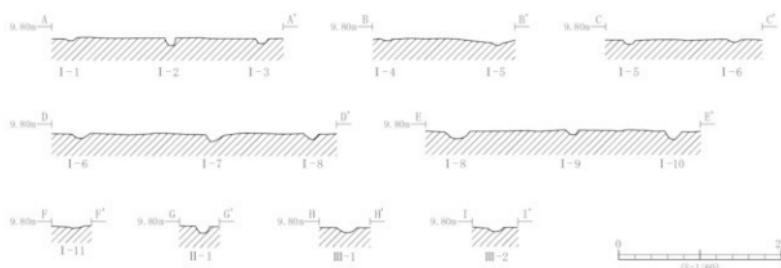
6) ピット（第19図）

202基のピット（P513～608・610～664・666～683・686～715・798・800・801）を検出した。ほぼ



第21図 SD83溝跡平面図

遺構	層位	土色	土性	備考
SD83	1	10YR 4/4-5/4褐色	シルト質粘土	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR 3/2-3/0褐色	シルト質粘土	-
	3	10YR 3/2-4/0褐色	粘土	-
	4	10YR 2/2-2/0褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土の小ブロックをわずかに含む。
	5	10YR 4/4褐色	シルト	黒褐色シルト質粘土ブロックをわずかに含む。



第22図 小溝状遺構群断面図

調査区全域に分布しているが、E220・N210グリッドとE240・N210グリッド付近に集中する傾向がある。遺物は、P569・610・637・644・668・674・678・702・703・709・704からロクロ土師器小破片が出土した。

6. 3区の調査

3区ではV層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土坑4基、溝跡1条、小溝状遺構3群、ピット42基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。なお、SB121北側部分は調査区を拡張して確認調査のみを行った。

（1）V層検出の遺構と遺物（第25図、図版5）

1) 堅穴住居跡

SI136住居跡（第24図、図版6・7）

【位置】 E260・N80グリッドに位置し、西側の調査区外へ延びる。

【新旧関係】 小溝状遺構II-4、P743と重複関係にあり、本住居跡が古い。

【規模・形態】 大半が調査区外へ延びるため、詳細は不明であるが、平面形は方形ないしは長方形と思われる。検出規模はカマドが敷設されている北東壁が4.00m、南東壁が2.80mである。

【主軸方位】 南東壁でN~43°-Eである。

【堆積土・構築土】 堆積土は10層に分層され、1～6層は住居内堆積土、7層は周溝内堆積土、8層はピット1堆積土、9・10層は掘り方理土である。

【壁面】 壁高は住居跡東隅付近の検出面から床面まで50cmであり、周溝の底面からほぼ垂直に立ち上がる。

【柱穴】 配置・規模からP1～3が主柱穴と考えられる。規模は径67～74cm、深さはP1が60cmである。P2・P3については調査区壁際のために完掘できず、深度は不明である。また、柱痕跡は確認されていない。

【周溝】 南東壁と北東壁の東隅付近、カマドの北側で検出した。断面形はU字形で、規模は幅10～27cm、深さ5～7cmである。

【カマド】 住居跡北東壁の調査区北壁際に位置している。構造・規模は両袖部が壁面から並行して延び、袖部の長さは左袖が64cm、右袖が76cm、高さは床面から30cm程残存している。燃焼部に焼け面や火熱を受けた痕跡は確認できなかった。煙道部は長さ163cm、幅28～37cm、深さ14～40cmで、先端部に向かい緩やかに上がり、先端部はほぼ垂直に立ち上がる。

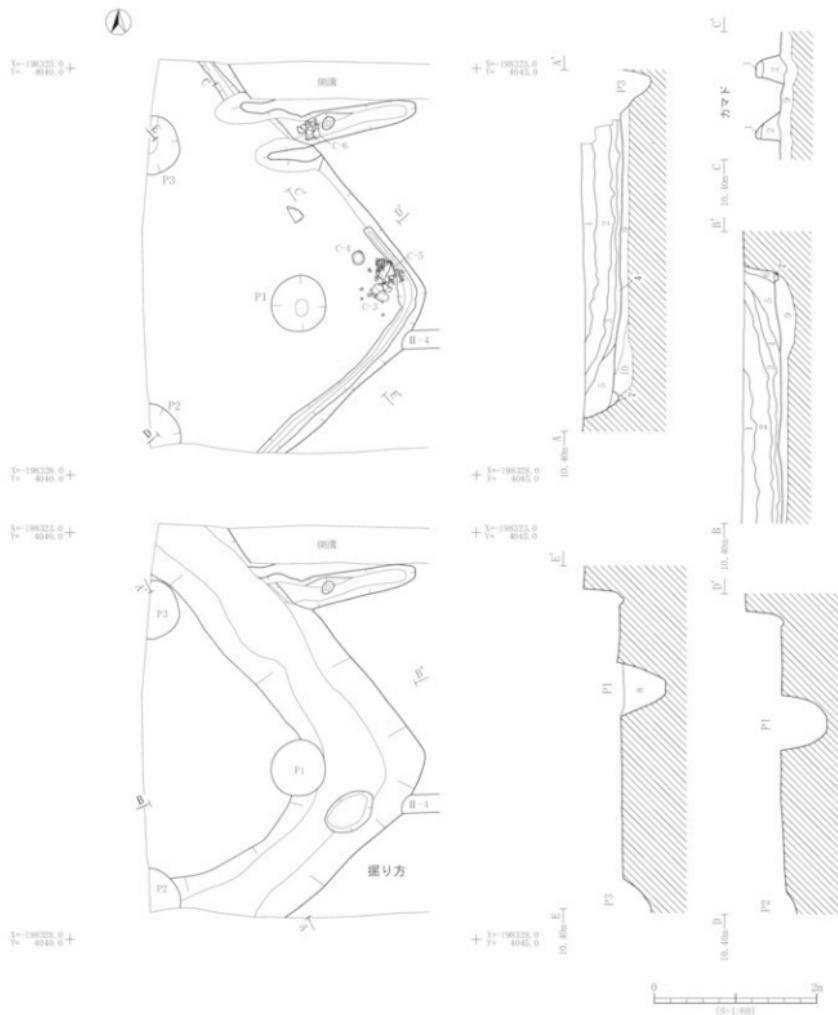
【掘り方】 深さ8～23cmである。中央がやや高まる形状で、その周囲は幅30～40cmの溝状に掘り込まれている。

【出土遺物】 住居跡内堆積土、コーナー付近の床面直上、煙道部から土師器壺が出土し、そのうち4点を第26図に図示した。1は土師器壺である。球胴形で底部平底である。2は土師器壺口縁部～肩部片である。3は底部片である。2・3ともに作りが薄く、暗褐色の胎土でハケメが細かい。4は土師器壺である。体部が直線的に外傾し、口縁部が外反する。底部は欠損しているが、甌の可能性もある。器形的な特徴から5世紀中葉～後葉の遺物と考えられる。1～3の土師器は、球胴形・細かいハケメといった諸々の特徴から、5世紀前半の年代が考えられる。



第23図 小溝状遺構I-7 出土遺物

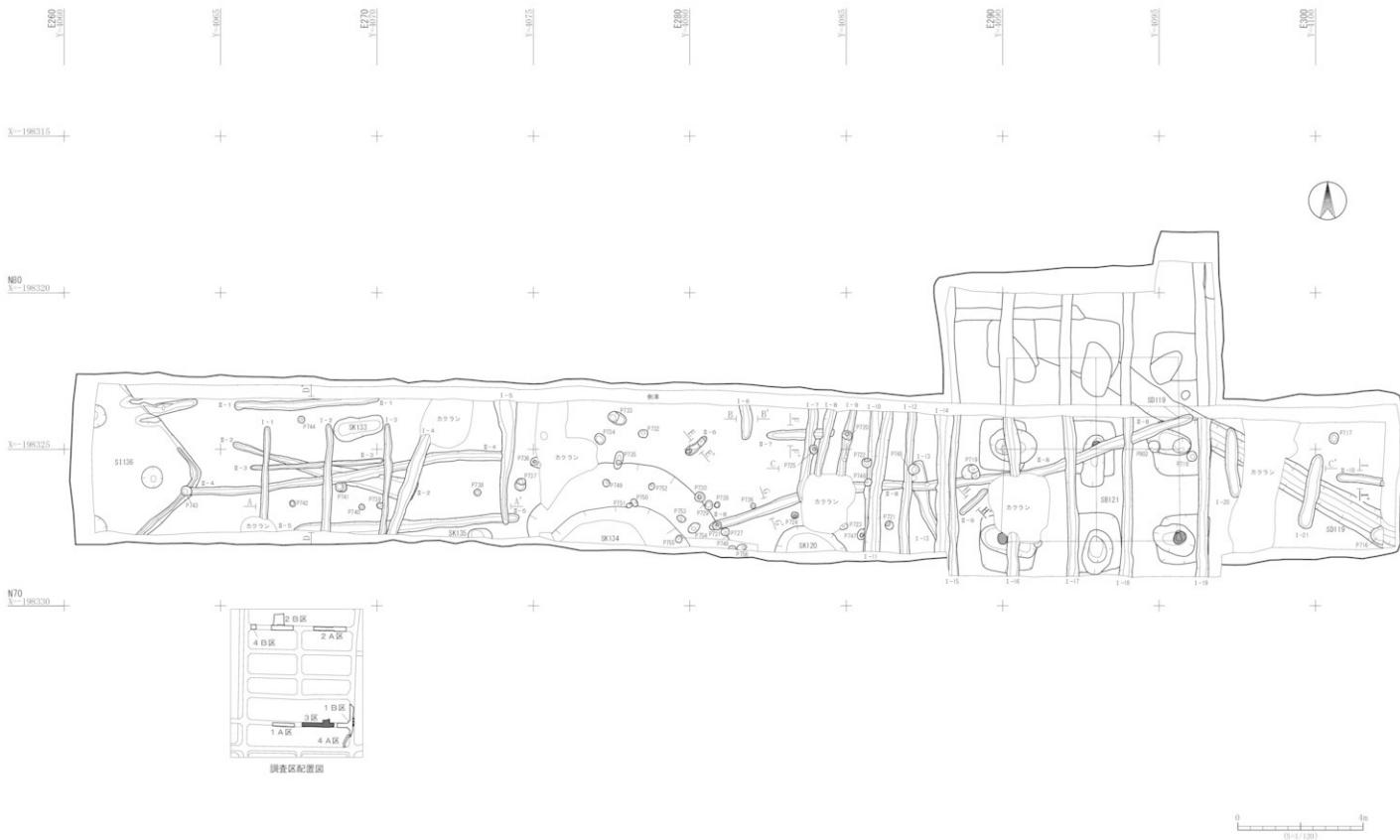
第2節 袋前遺跡3区の調査



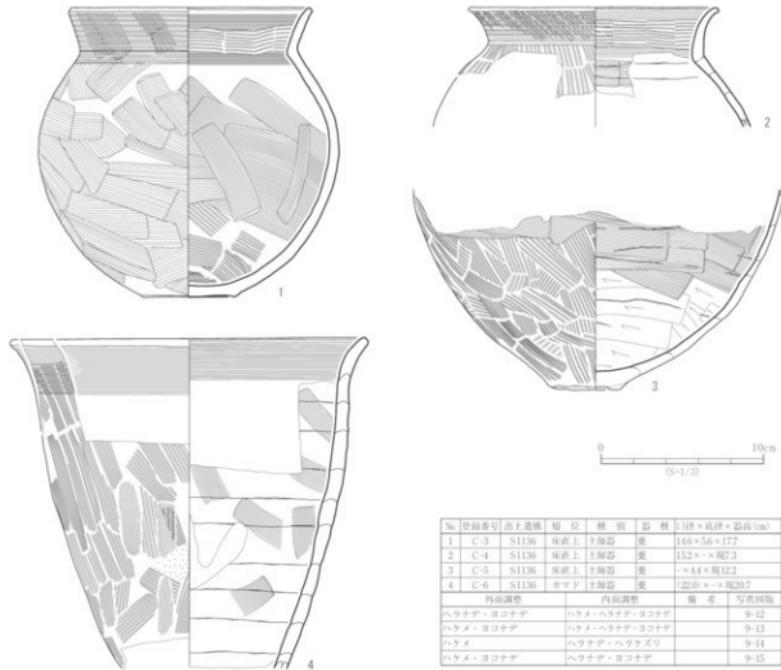
遺構	層位	土色	土性	備考
S1136	1	10YR3-380褐色	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒を少量含む。
	2	10YR3-380褐色	粘土質シルト	マンガン粒及び焼成跡を斑状に少量含む。
	3	10YR5-4-5赤い黄褐色	粘土質シルト	焼成跡を斑状に多く含む。V型削除部。
	4	10YR4-29.5黄褐色	粘土質シルト	V型削除部の小トロックを少量含む。
	5	10YR4-4褐色	粘土質シルト	V型に施して削り出す。
	6	10YR3-48褐色	粘土質シルト	5層より下や暗い。
	7	10YR3-48褐色	粘土質シルト	焼成跡・マンガン粒を少量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
S1136	8	10YR4-4褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。
	9	20YR3-2-55.5紫褐色	粘土質シルト	焼成跡を微量含む。(掘り方)
	10	20YR3-2-55.5紫褐色	粘土質シルト	焼成跡を斑状に多く含む。(掘り方)
S1136	1	20YR4-2-55.5紫褐色	粘土質シルト	焼成跡・マンガン粒を微量含む。(掘部)
	2	10YR4-4褐色	粘土質シルト	焼成跡・マンガン粒を少量含む。(掘部)

第24図 S1136竪穴居跡平面図・断面図、掘り方平面図



第25図 袋前遺跡3区 V層遺構配置図



第26図 SI136堅穴住居跡出土遺物

2) 掘立柱建物跡（第25図）

SB121掘立柱建物跡 大野田官衙遺跡の遺構であることから、詳細は第8節を参照されたい。

3) 土 坑

SK120土坑（第27図、図版7） E280・N80グリッドで検出し、南側の調査区外へ延び、北側の一部を搅乱で削平されている。平面形は円形あるいは楕円形と思われ、検出した規模は東西230cm、南北83cm、深さ35～55cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は凹凸がある。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

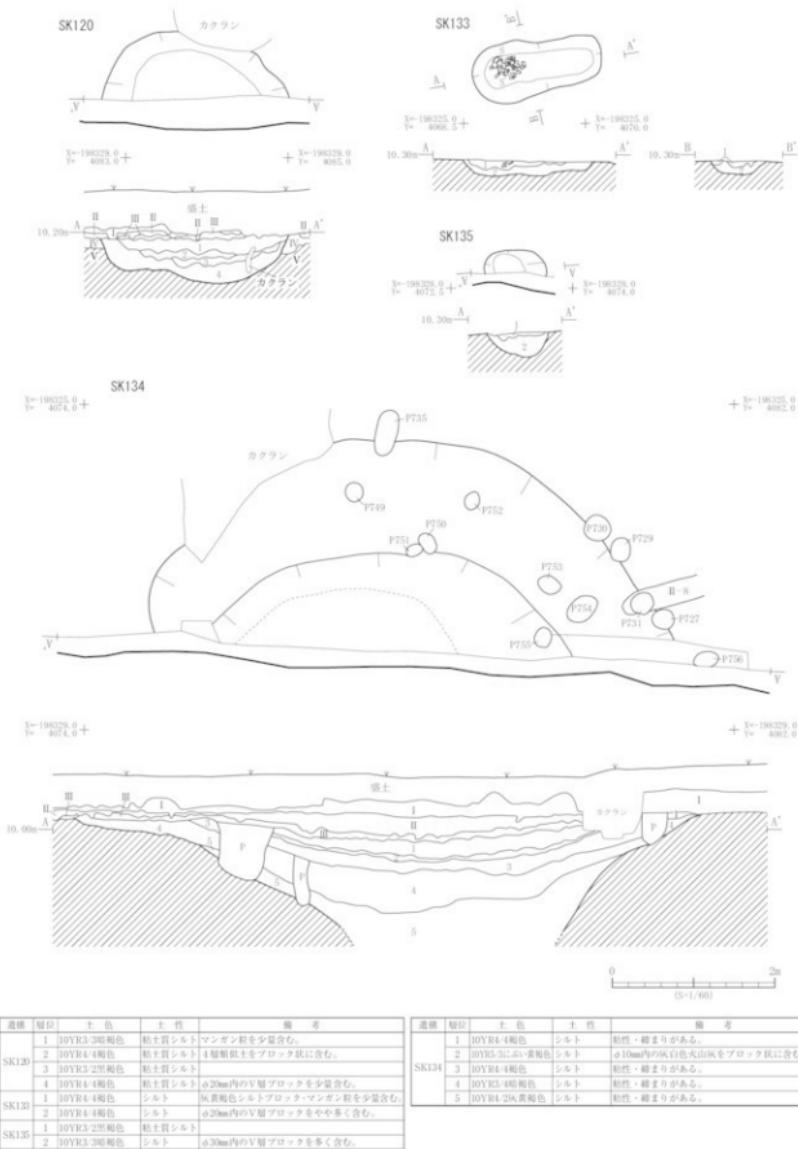
SK133土坑（第27図、図版7） E260～270・N80グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN~80°～Eである。規模は長軸160cm、短軸58～75cm、深さ20cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器甕や内黒土師器壺等が出土し、土師器甕1点を第28図1に図示した。長胴形で口縁部に括れがみられるもので、栗闊式あるいは国分寺下層式と思われる。7世紀～8世紀前半と思われる。

SK134土坑（第27図、図版7） E270～280・N80グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。小溝状遺構II-8、P727・729～731・735・749～755と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は円形あるいは楕円形と思われる。検出された規模は東西645cm、短軸260cmである。深さについては調査区壁際に位置するため、検出面から120cmま

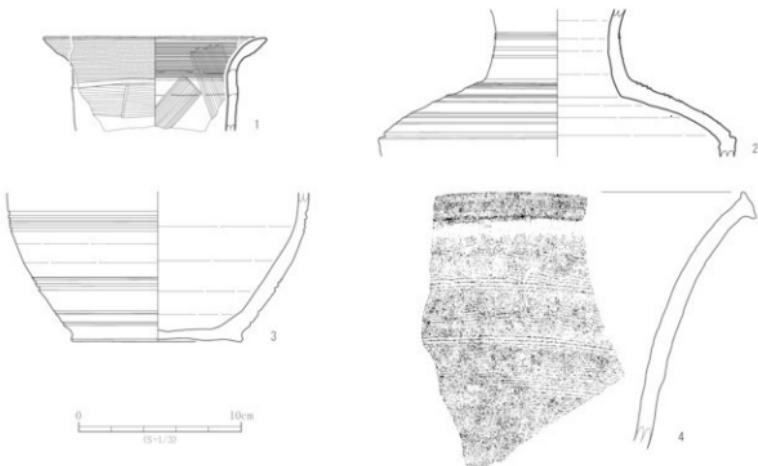
No	登錄番号	出土遺物	類	種	記	口径×底径×高さ(cm)
1	C-3	SI136	床面上	土師器	甕	146×56×177
2	C-4	SI136	床面上	土師器	甕	152×87×73
3	C-5	SI136	床面上	土師器	甕	-×44×現12.2
4	C-6	SI136	カマド	土師器	甕	(22.0)×(22.0)×現20.7

外周調整	内面調整	備 考	写真回数
ハナダ・ヨコナデ	ハナメ・ハナダ・ヨコナデ		9-12
ハナメ・ヨコナデ	ハナメ・ハナダ・ヨコナデ		9-13
ハナメ	ハナダ・ハナダアリ		9-14
ハナダ・ヨコナデ	ハナダ・ヨコナデ		9-15

第2節 袋前遺跡3区の調査



第27図 SK120・133～135土坑平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺物	規 格	種 別	器 物	口径×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備 考	写真図版
1	C-7	SK133	-	土師器	壺	(6.9) × × 高5.7	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	9-16	
2	E-3	SK134	-	須恵器	長頸壺	- × × 高9.2	ロクロナデ・沈縮	ヨコナデ・ヘラナデ	9-18	
3	E-4	SK134	-	須恵器	壺	- × (10.4) × 高9.2	ロクロナデ・沈縮	ヨクロナデ	9-19	
4	E-5	SK134	-	須恵器	壺	- × × 高15.2	ヨコナデ・ヘラナデ・平行沈縮・横屈	ロクロナデ	9-17	

第28図 SK133・134土坑出土遺物

で掘り下げたが、底面までは確認していないため断面形は不明である。堆積土は5層に分層される。遺物は、土師器の壺や内黒坏、須恵器壺等が出土し、須恵器長頸壺1点、須恵器壺体部下半1点、須恵器壺頭部1点を第28図2～4に図示した。2・3の壺片外面には1～4条が1組となる平行沈線が、4の頭部には横書き波状文と平行沈線が3組施文されており、7世紀以降のものと思われる。

SK135土坑（第27図、図版7） E270・N80グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。平面形は梢円形と思われ、検出規模は東西の検出長75cm、南北の検出長25cm、深さ28cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は浅い擂鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

4) 溝跡

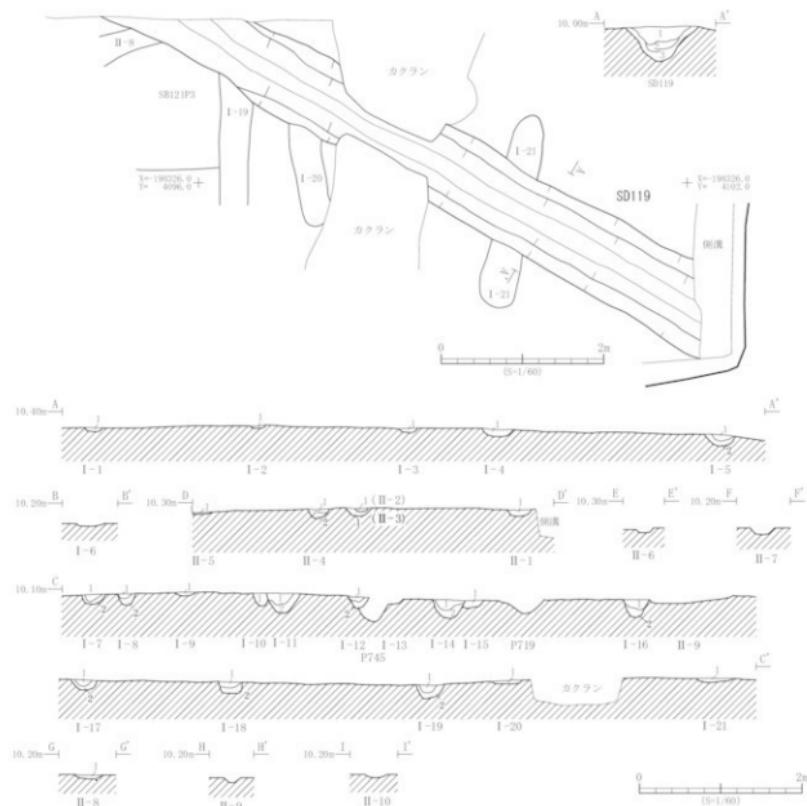
SD119溝跡（第29図） E290～300・N80グリッドで検出した。SB121、小溝状遺構I-19～21、II-8、P716と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-61°-Wで、検出長8.40m、幅85～100cm、深さ36～44cmである。断面形はU字形を基本とするが、壁の中位で屈折して緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分層される。遺物は、ロクロ土師器小破片が出土した。

5) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向からI・II群に分けられる。SB121と重複し、小溝状遺構群が新しい。また、E240・N210グリッドでの重複関係から、II群からI群への時期変遷が考えられる。

I群（第25・29図） ほぼ調査区全域で検出したが、E270・N80グリッドではやや稀薄である。南北方向の遺構群で、21条の小溝で構成されている。方向はN-1～17°-W、N-1～20°-Eで、検出長1.10m～5.05m、幅15～75cm、深さ1～31cm、小溝の間隔は調査区西部と東部では1.0m程度であるが、中央付近では小溝の間隔が30～40cmと密になる。堆積土は褐色粘土質シルト・シルト、暗褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は、I-1～5・

第2節 袋前遺跡3区の調査



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
I-1	1	10YR4/4褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を少量含む。	I-17	1	10YR4/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。
I-2	1	10YR3/4褐色	粘土質シルト	V型ブロックを多く含む。	2	10YR4/4褐色	シルト		
I-3	1	10YR4/4褐色	シルト	マンガン鉄をやや多く含む。	3	10YR3/4褐色	シルト		
I-4	1	10YR3/4褐色	粘土質シルト	粘土質シルトをやや多く含む。	4	10YR4/4褐色	シルト		
I-5	1	10YR4/4褐色	シルト	V型ブロックを少額。マンガン鉄を多く含む。	5	10YR3/4褐色	シルト		
I-6	2	10YR4/3-4褐色	砂質シルト	砂質シルトをV型ブロックを多く含む。	6	10YR4/4褐色	シルト		
I-7	1	10YR3/4褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。	7	10YR4/4褐色	シルト		
2	10YR3/4褐色	シルト			8	10YR3/4褐色	シルト	V型ブロックをやや多く含む。	
I-8	1	10YR4/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックを多く含む。	9	10YR4/4褐色	シルト		
I-9	2	10YR4/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックをやや多く含む。	10	10YR4/4褐色	シルト		
I-10	1	10YR4/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックをやや多く含む。	11	10YR3/4褐色	シルト		
I-11	1	10YR3/4褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。	12	10YR4/4褐色	シルト		
I-12	1	10YR3/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックを多く含む。	13	10YR4/4褐色	シルト		
I-13	1	10YR4/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックを多く含む。	14	10YR3/4褐色	シルト		
I-14	2	10YR4/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックを多く含む。	15	10YR4/4褐色	シルト		
I-15	1	10YR4/4褐色	シルト	V型ブロックをやや多く含む。	16	10YR3/4褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。	
I-16	2	10YR4/4褐色	シルト	0.3m内のV型ブロックを多く含む。	SD119				

第299図 SD119溝跡平面図・断面図・小溝状構造断面図

7~11・14・16~20からロクロ土師器小破片が出土した。

II群（第25・29図） ほぼ調査区全域で検出したが、分布はやや稀薄である。東西方向を中心とした遺構群で、10条の小溝で構成されている。方向はN-75~84°-W、N-46~89°-Eで、検出長0.85m~15.85m、幅14~70cm、深さ3~36cm、小溝の間隔は調査区西部と東部では1.0m程度であるが、中央付近では30~40cmと密になり、重複する溝も観察される。堆積土はにぶい黄褐色シルト・粘土質シルト・暗褐色・褐色シルトを主体とする。遺物は、II-1・2・4・8・9からロクロ土師器小破片が出土した。

6) ピット（第25図）

42基のピット（P716~756・802）を検出した。調査区内に散漫な分布状況を示している。遺物は、P719・725・736・745・746・749・750・755・756からロクロ土師器小破片が出土した。

7. 4 A区の調査

4 A区ではⅢ層上面（平安時代～近世の遺構検出面）において、土坑1基、性格不明遺構1基、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、性格不明遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット13基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) Ⅲ層検出の遺構と遺物（第33図）

1) 土 坑

SK138土坑（第30図） E310・N60グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径75cm、深さ40cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はV字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

2) 性格不明遺構

SX137性格不明遺構（第31図、図版7） E310・N60グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形は不整形の掘り込みが東西に連なるもので、その方向はN-80°-Eである。検出規模は長軸270cm、短軸10~60cm、深さ3cmと浅い。遺物は出土していない。

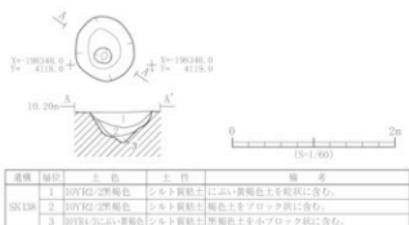
(2) V層検出の遺構と遺物（第34図、図版8）

1) 性格不明遺構

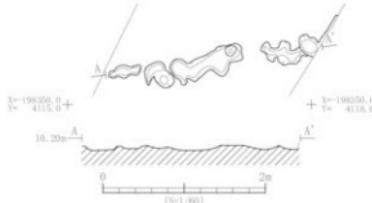
SX140性格不明遺構（第32図） E320・N60グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。平面形は梢円形と思われ、検出規模は東西方向で34cm、南北方向で27cm、深さ47cmである。断面形はU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

2) 溝 跡

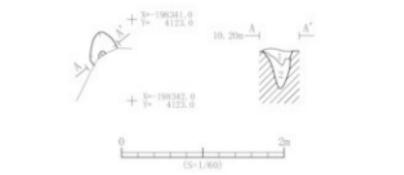
SD142溝跡（第34図） E310・N50グリッドで検出した。小溝状遺構I-1・2、P767・768と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は東西正方位で、検出した長さは2.30m、幅70~80cm、深さ26~28cmである。



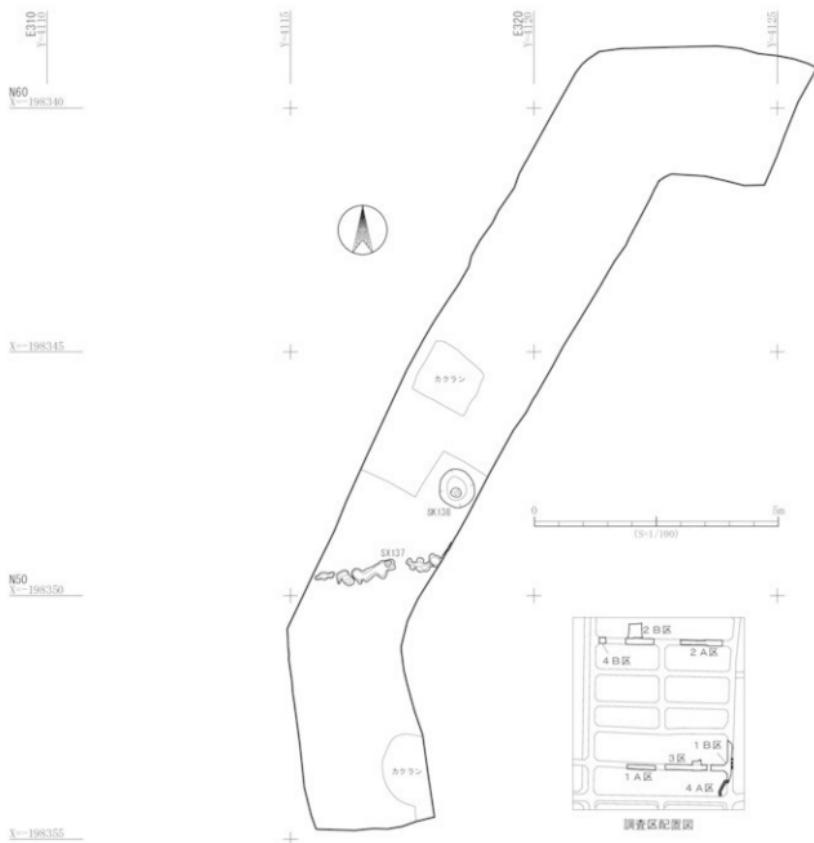
第30図 SK138土坑平面図・断面図



第31図 SX137性格不明遺構平面図・断面図



第32図 SX140性格不明遺構平面図・断面図



第33図 袋前遺跡4A区Ⅲ層遺構配図

断面形は緩やかなU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

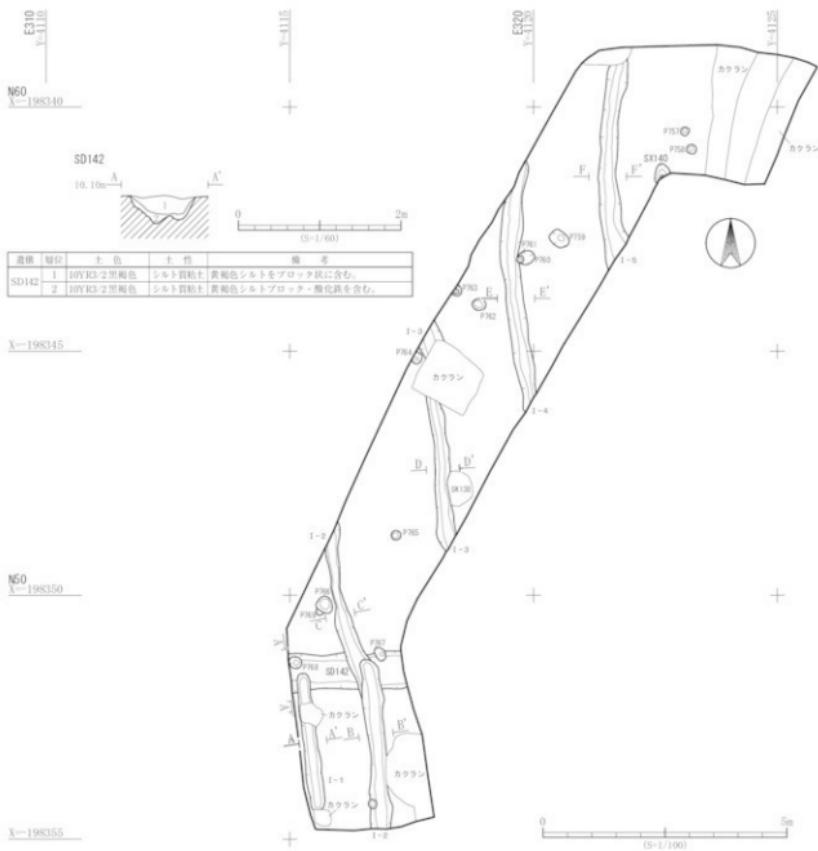
3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、群として把握したものは1群である。

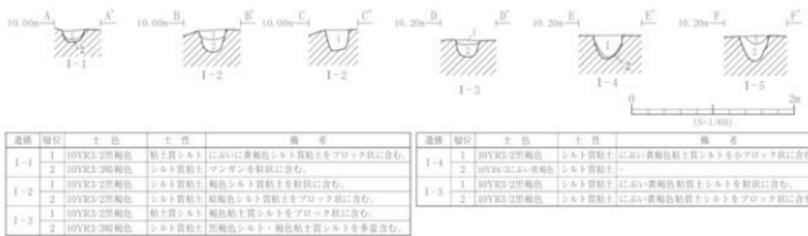
I群（第34・35図）ほぼ調査区全域で検出した。南北方向の遺構群で、5条の小溝で構成されている。方向はN-1°~10°-Wで、検出長2.80~6.35m、幅18~55cm、深さ7~35cm、小溝の間隔は0.9~2.0mである。堆積土は黒褐色粘土質シルト・シルト質粘土、暗褐色シルト質粘土、にい黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

4) ピット（第34図）

13基（P757~769）のピットを検出した。分布状況は調査区全域に散漫に分布し、その性格については不明である。遺物は出土していない。



第34図 袋前遺跡4A区V層遺構配置図



第35図 小溝状遺構群断面図

8. 4B区の調査

4B区ではⅢ層上面（平安時代～近世の遺構検出面）において、ピット列1列とピット4基、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット13基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) Ⅲ層検出の遺構と遺物（第38図）

1) ピット列

1号ピット列（第36図） E190・N210グリッドで検出した。方向はN-70°-Wで、検出したピット列の長さは2.25mで、4基の楕円形のピットが概ね75cm間隔で並んでいる。各ピットの規模は長軸36～55cm、短軸20～30cmで、深さは7～20cmである。柱痕跡は検出されず、堆積土は暗褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は出土していない。

2) ピット（第38図）

4基のピットを検出した。調査区南側に散漫に分布し、建物跡や柵列などを構成するには数が少なく、性格は不明である。遺物は出土していない。

(2) V層検出の遺構と遺物（第38図、図版8）

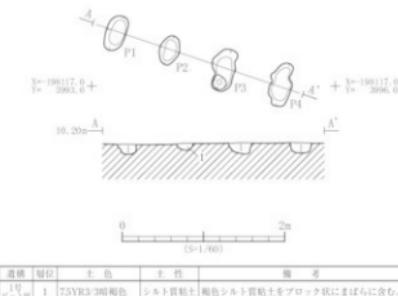
1) 溝跡

SD143溝跡（第37図、図版8） E190・N210グリッドで検出した。小溝状遺構I-2、P784・786と重複関係にあり、P784より古く、他の遺構より新しい。溝跡の平面形は逆L字状にはば直角に屈折しており、方向は東西方向でN-87°-W、南北方向でN-3°-Eである。検出した長さは3.90m、幅90～140cm、深さ37～41cmである。断面形はV字形で、底面はほぼ平坦であるが、部分的にブリッジ状の高まりが認められる。堆積土は2層に分層され、1層は細分される。遺物は出土していない。

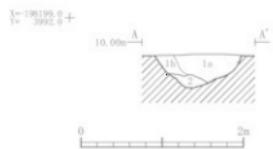
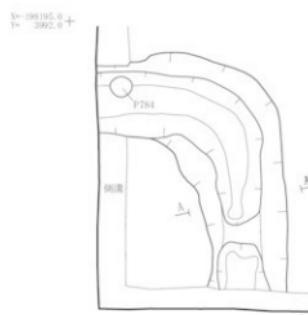
2) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、群として把握したものはI群である。

I群（第38・39図） ほぼ調査区全域で検出した。南北方向の遺構群で、4条の小溝で構成されている。方向はN-5°-E、N-3～5°-Wで、検出長1.28～5.56m、幅8～35cm、深さ3～16cm、小溝の間隔は1.30～1.70mである。堆積土は暗褐色、褐色、黒褐色粘土を主体とし、I-4には工具痕跡が残っている。遺物は出土していない。

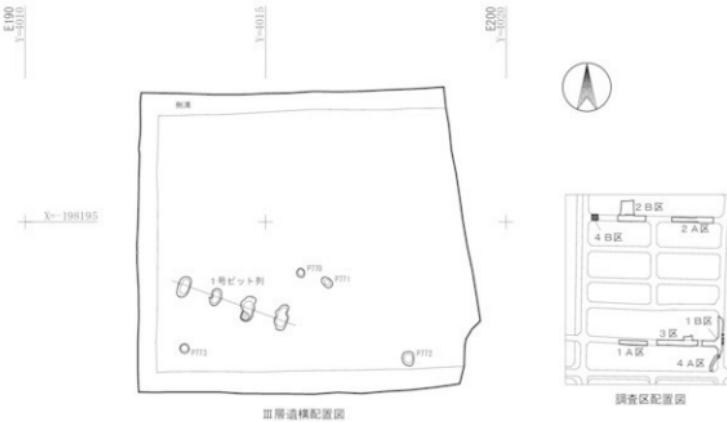


第36図 1号ピット列平面図・断面図

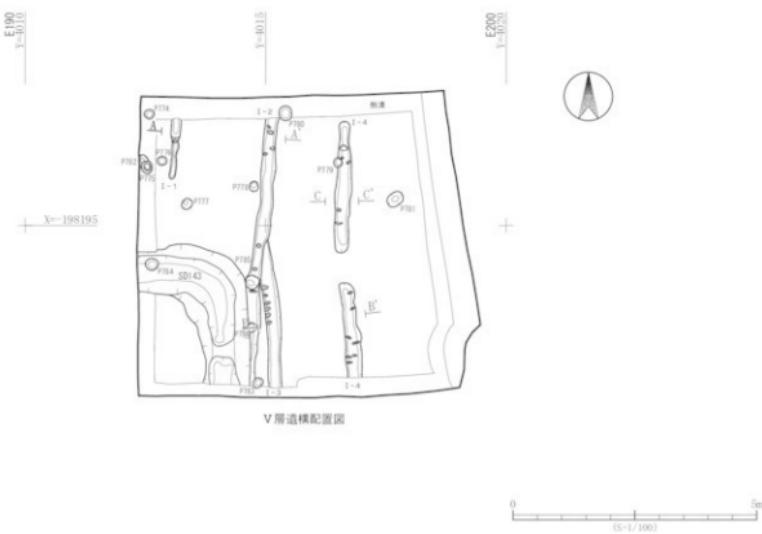


遺構	層位	土色	土性	備考
1群	1a	10YR3/25褐色	粘土	マンガン斑をまばらに含む。
1群	1b	10YR3/25褐色	粘土	褐色粘土ブロック(φ30mm前後)をまばらに含む。
1群	2	10YR4/26A黄褐色	粘土	黒褐色粘土を軽灰に多く含む。

第37図 SD143溝跡平面図・断面図



III層造構配置図



V層造構配置図

第38図 袋前遺跡 4B区III層・V層造構配置図

第2節 袋前遺跡試掘トレンチ出土の遺物



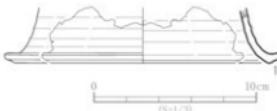
第39図 小溝状遺構群断面図

3) ピット (第38図)

13基 (P769~786) のピットを検出した。分布状況は調査区全域に散漫に分布する。性格については不明である。遺物は出土していない。

(3) 遺構外出土の遺物 (第40図、図版9)

4 B区Ⅲ層からの出土遺物として須恵器の脚部片1点を図示した。壺の脚部と考えられる。

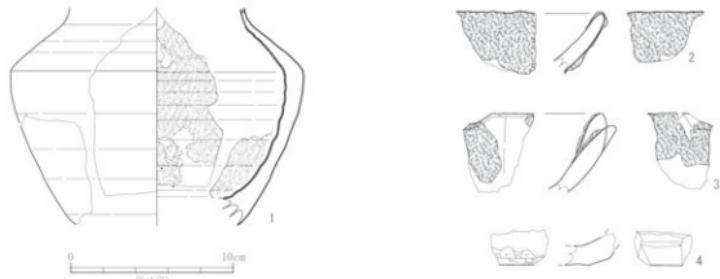


No.	登録番号	層位	遺構・グリッド	種 別	形 様	日付×底径×器高(cm)	外向調整	内面調整	備 考	写真図版
1	E-6	Ⅲ層	1320・N06	須恵器	壺	11/20×15.6×33.1	-	-	-	9-20
				外向調整	内面調整					
				ワクロナデ	ワクロナデ					

第40図 遺構外出土遺物

9. 試掘トレンチ出土の遺物 (第41図、図版9)

袋前遺跡では本調査前に1区と2区付近に試掘トレンチを設定して調査を行った。その際に平箱2箱分の土師器、須恵器、鉄滓、とりべ片が出土し、そのうち4点を第41図に図示した。1は須恵器短頸壺である。口縁部及び底部を欠く。内面全体に暗褐色の漆と考えられる付着物がおよそ0.5mmの厚さで被膜している。この物質は肩部及び底部付近の破片断面にも付着しており、2次的な付着あるいは塗布である可能性が考えられる。2・3はとりべの口縁部破片である。このうち3は片口部分が一部残存している。2点とも内外面に溶解物が付着している。4はとりべの底部破片である。



No.	登録番号	出土トレンチ	層 位	種 別	器 形	日付×底径×器高(cm)	外向調整	内面調整	備 考	写真図版
1	E-7	4T	-	須恵器	短頸壺	11/20×13.3	ワクロナデ	ワクロナデ	内面付着物	9-21
2	P-1	4T	-	土製品	とりべ	11/20×36	-	-	-	9-22
3	P-2	4T	-	土製品	とりべ	11/20	-	-	片口残存	9-23
4	P-3	4T	-	土製品	とりべ	11/20×22	ヘラケズリ	ヘラケズリ	底面平滑	-

第41図 試掘トレンチ出土遺物

10. ま と め

袋前遺跡は仙台市太白区字袋前、竹松、六反田にあり、自然堤防に立地する。標高は10.40～10.80mである。平成10年度、平成13年度、平成15年度、平成16年度に計1,150m²の調査を行ない、古墳時代から古代、中世、近世の遺構群を検出した。

(1) 遺構について

1) 古代～近世の遺構は基本層Ⅱ・Ⅲ層上面で検出された。

1 B区－溝跡1条、ピット55基

4 A区－土坑1基、性格不明遺構1基

4 B区－ピット列1列、ピット4基

2) 古墳時代～古代の遺構は各区V層上面で検出した。

1 A区－掘立柱建物跡1棟、土坑9基、性格不明遺構4基、溝跡5条、ピット88基

1 B区－土坑10基、性格不明遺構1基、小溝状遺構群2群、ピット325基

2 A区－掘立柱建物跡1棟、土坑6基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ピット46基

2 B区－掘立柱建物跡1棟、土坑9基、性格不明遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群3群、ピット202基

3 区－堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土坑4基、溝跡1条、小溝状遺構群3群、ピット42基

4 A区－性格不明遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット13基

4 B区－溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット13基

なお、2 A区・2 B区・3 区V層で検出した掘立柱建物跡(SB31・SB60・SB121)は大野田官衙遺跡の遺構である。

3) 古墳時代の遺構としては3区V層より堅穴住居跡1軒が検出された。

4) 小溝状遺構群は、1 A区を除く調査区から検出されており、当遺跡内には畑が広がっていたと考えられる。

(2) 遺物について

袋前遺跡からの出土遺物は平箱11箱である。全体として小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

1) 縄文時代

2 A区より縄文時代の石器（石鏃・凹石・敲石）が出土している。

2) 古墳時代

3区の堅穴住居跡SI136から古墳時代後期の甕と瓶が出土している。

第1表 道構一覧表(1)

1区区版 袋前道路				建物延長(m)	時期
道構番号	位置(グリッド)	主軸方位	沿線開数		
SD237	E230-N80	(N12°-E)	街行2面以上×道行2面	490m×?	
土坎					
道構番号	位置(グリッド)	主軸方向	規格(cm)	平面形・断面形	時期
SK4	E240-N80	-	W72×深59	U字形	
SK5	E230-N80	-	W99×深519	U字形・適合形	
SK6	E230-N80	N-78°-E	長軸52×短軸59×深511	U字形	
SK7	E220-N80	N-26°-W	長軸83×短軸75×深520	U字形	
SK8	E220-N80	-	W101×深525	U字形	
SK10	E220-N80	-	W96×深514	U字形	
SK11	E220-N80	N-62°-W	長軸80×短軸65×深514	U字形	
SK13	E220-N80	N-2°-E	長軸95×短軸64×深513	U字形	
SK14	E220-N80	N-89°-E	長軸114×短軸82×深512	U字形	

地盤不整地帯

道構番号	位置(グリッド)	方 向	規 格(cm)	平面形・断面形	時 期
SN 9	E220-N80	-	長軸179×短軸93×深511~14	U字形	
SN12	E220-N80	-	長軸65×短軸62×深51~7	U字形	
SN16	E220-N80	-	長軸420×短軸95×深54~10	U字形	
SN18	E220-N80	-	長51273×幅95~98×深5~25	U字形	

地盤不整地帯

道構番号	位置(グリッド)	方 向	規 格(cm)	平面形・断面形	時 期
SD12	E240-N80	N-82°-W	長5140×幅632~642×深511~28	U字形	
SD13	E240-N80	U字東西	長51210×幅619~624×深50~55	U字形	
SD15	E220-N80	東北~南北	長51160×幅627~672×深511~95	U字形	
SD17	E220-N80	N-8°-E	長51285×幅610~678×深510~15	U字形	
SD19	E220-N80	U字東西	長52555×幅628~632×深518~32	U字形	

1区区版・基層

道構番号	位置(グリッド)	方 向	規 格(cm)	子地面・断面形	時 期
SD1	E220-N80-90	U字南北	長5150~幅は不明×深50~50前後	直線・不明	

1区区版・土木

道構番号	位置(グリッド)	方 向	規 格(cm)	平面形・断面形	時 期
SD20	E220-N70-80	-	長5140~幅600~700×深520~70	U字形	
SD21	E220-N70	U字南北	長軸120×幅60~70×深575~130	U字形	古墳~古代
SD22	E220-N80	N-2°-W	長軸115×幅600~650×深5~41	U字形	
SD23	E220-N80	-	W130~深5~55	適合形	
SD24	E220-N90	-	W145~深5~58	適合形	
SD25	E220-N90	-	W165~東西45°×深5~10	適合形	
SD27	E220-N90	-	W180~東西50°×深5~10~14	適合形	
SD28	E220-N100	-	W195~東西50°×深5~35~56	適合形	
SD29	E220-N100	U字南北	長軸120×幅60~70×深5~55~56	U字形	
SD30	E220-N100	N-4°-W	長軸120~幅60~70×深5~55~56	U字形	
SD30	E220-N100	N-10°-E	長軸170×幅60~70×深5~54	適合形	

地盤不明地帯

道構番号	位置(グリッド)	方 向	規 格(cm)	平面形・断面形	時 期
SN20	E220-N80	-	南北125°×東西45°×深5~8	U字形	

小段落地帯

道構番号	位置(グリッド)	方 向	規 格(cm)	平面形・断面形	時 期
I-1	E220-N110	N-89°-W	長51230×幅64~140×深50~55~0.36	U字形	
I-2	E220-N110	東西	長51105×幅628~635×深50~14~0.15	U字形	
I-3	E220-N110	東西	長51126×幅632~636×深50~11~0.27	U字形	
I-4	E220-N100	N-87°-W	長51307×幅618~633×深50~0.05~0.11	U字形	
I-5	E220-N100	N-89°-W	長51231×幅634~644×深50~528~0.32	U字形	
I-6	E220-N100	東西	長51314×幅621~625×深50~14~0.19	U字形	
I-7	E220-N100	N-88°-W	長51210×幅628~635×深50~20~0.36	U字形	
I-8	E220-N100	N-88°-W	長51348×幅611~628×深50~7~0.16	U字形	
I-9	E220-N100	N-89°-E	長51421×幅630~633~0.43×深50~15~0.25	U字形	
I-10	E220-N100	N-84°-E	長51248×幅618~628×深50~10~0.13	U字形	
I-11	E220-N100	N-89°-W	長51154×幅630~640~0.43×深50~16~0.24	U字形	
I-12	E220-N100	N-84°-E	長51226×幅618~628×深50~7~0.11	U字形	
I-13	E220-N90	東西	長51441×幅625~625~0.35×深50~18~0.19	U字形	
I-14	E220-N90	N-87°-E	長51323×幅625~632~0.32×深50~0.04~0.42	U字形	
I-15	E220-N90	N-88°-E	長51425~幅632~635~0.36×深50~0.04~0.13	U字形	
I-16	E220-N90	N-81°-E	長51177×幅614~648~0.17~0.33	U字形	
I-17	E220-N90	N-87°-W	長51395×幅638~650~0.29~0.31	U字形	
I-18	E220-N90	N-85°-W	長51209×幅630~631~0.48×深50~29~0.30	U字形	
I-19	E220-N80	N-84°-E	長51350×幅630~630~0.48×深50~0.02~0.25	U字形	
I-20	E220-N80	N-74°-W	長51310×幅630~630~0.18~深50~0.04~0.06	U字形	
I-21	E220-N80	N-82°-W	長51225×幅620~620~0.36×深50~0.09~0.14	U字形	
I-22	E220-N20-N80	N-87°-E	長512848×幅638~635~0.25~深50~21~0.36	U字形	
I-23	E220-N20-N80	N-82°-W	長5110941×幅628~635~0.38~深50~0.09~0.17	U字形	
I-24	E220-N20-N80	N-82°-W	長512080×幅620~620~0.38~深50~0.07~0.24	U字形	
I-25	E220-N20-N80	N-89°-E	長5118141×幅631~660~0.2~深50~21~0.33	U字形	
I-26	E220-N20-N80	N-84°-W	長511814×幅620~620~0.48~深50~11~0.19	U字形	
I-27	E220-N80	N-87°-W	長5265~幅618~620~0.35~深50~0.04~0.11	U字形	
I-28	E220-N80	N-81°-W	長51095~幅624~624~0.26~深50~0.04~0.06	U字形	
I-29	E220-N80	N-89°-E	長51560~幅640~655~深50~18~0.31	U字形	
I-30	E220-N70	N-89°-W	長51326~幅640~650~深50~18~0.23	U字形	
I-31	E220-N70	N-86°-W	長51255~幅620~620~0.4~深50~20~0.28	U字形	
I-32	E220-N70	N-75°-W	長51319~幅630~635~0.22~深50~20~0.08	U字形	
I-33	E220-N70	N-89°-E	長51209~幅630~635~0.42~深50~13~0.16	U字形	
I-34	E220-N70	N-81°-E	長51214~幅632~646~深50~0.07~0.15	U字形	
B-1	E220-N60~70	N-8°-E	長51685~幅625~625~0.42~深50~16~0.34	U字形	

第2表 遺構一覧表(2)

2区V層
斜柱建物群

遺構番号	位置(グリッド)	主軸方位	柱間数	建物面積(m ²)	時期
(大野田官衙跡の遺構を参照のこと)					
土坑					
SK32	E300~N210	N~8°~W	長軸95×短軸45×深さ28		不整角円形・U字形
SK38	E300~N210	N~7°~W	長軸146×短軸85×深さ26		楕円形・U字形
SK41	E300~N210	N~36°~E	長軸130×短軸75×深さ16		(不整角円形)・逆台形
SK45	E310~N210	N~3°~W	長軸101×短軸68×深さ39		楕円形・U字形
SK46	E290~N210	(N~68°~E)	東西128×南北44×深さ60		(楕円形)・楕円状
SK30	E310~N210	N~55°~W	長軸102×短軸57×深さ60		不整形・楕円形・U字形

遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
	E240~N210	N~4°~W	長さ142×幅62~2.8×深さ71~0.8	直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
E290~300~N210	N~7°~E	長さ136×幅62~0.8×深さ0.4~0.05	直線・U字形		
1~2	E300~N210	N~1°~E	長さ120×幅612~0.2×深さ74~0.3~0.06	直線・U字形	
1~3	E300~N210	南北	長さ105×幅622~0.3~深さ54~0.14	直線・U字形	
1~4	E300~N210	N~7°~W	長さ120×幅616~0.36~深さ70~0.11~0.27	直線・U字形	
1~5	E300~N210	N~2°~E	長さ109×幅620~0.38~深さ53~0.13	直線・U字形	
1~6	E300~N210	N~7°~E	長さ136×幅632~0.26~深さ50~0.07~0.14	直線・U字形	
1~7	E300~N210	南北	長さ105×幅620~0.41~深さ50~0.21	直線・U字形	
1~8	E300~N210	N~1°~W	長さ135×幅628~0.28~深さ50~0.20	直線・U字形	
1~9	E300~N210	N~2°~W	長さ143×幅630~0.25~深さ50~0.10~0.12	直線・U字形	
1~10	E300~N200~210	N~1°~W	長さ150×幅620~0.40~深さ50~0.31	直線・U字形	
1~11	E300~N210	N~4°~E	長さ106×幅625~0.28~深さ50~0.13~0.20	直線・U字形	
1~12	E310~N210	N~3°~W	長さ126×幅618~0.34~深さ50~0.03~0.13	直線・U字形	
1~13	E310~N210	N~11°~W	長さ107×幅615~0.22~深さ50~0.05~0.12	直線・U字形	
II~1	E300~N210	東西	長さ145×幅635~0.31~深さ50~0.11	(注記範囲)(西側がやかく曲がる)・U字形	

2区V層

斜柱建物群

遺構番号	位置(グリッド)	主軸方位	柱間数	建物面積(m ²)	時期
(大野田官衙跡の遺構を参照のこと)					
土坑					
SK61	E220~N210	N~4°~W	長軸95×短軸45×深さ15		不整角円形・幅広のU字形
SK65	E220~230~N210	N~32°~E	長軸130×幅63~深さ54		(楕円形)・壁状
SK66	E230~N210	~	長軸95×短軸74×深さ310		椭丸形・逆台形
SK69	E230~N210	~	径55×深さ54		(1:2)円形・U字形
SK80	E240~N210	~	(径)約1メートル		不明・U字形
SK94	E220~N210	N~75°~W	長軸95×短軸55×深さ28		楕円形・壁状
SK95	E220~N210	N~20°~W	長軸95×短軸60×深さ27		楕円形・壁状
SK96	E220~N210	~	(径)74×深さ52		(1:2)円形・逆台形
SK98	E220~N210	(N~74°~W)	長軸120×短軸20×深さ59		(不整形)・壁状

柱状不明遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
S039	E220~N210	~	東西120×南北185×深さ518	枝状・壁状	

遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
S083	E230~N210	N~7°~E	長さ157.0×幅60.5~0.96×深さ24~0.44	直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
1~1	E220~N210	N~65°~E	長27.50×幅610~0.22×深さ20~0.06	直線・(U字形)	
1~2	E220~230~N210	N~63°~E	長58.70×幅610~0.25×深さ20~0.12	直線・U字形	
1~3	E220~230~N210	N~63°~E	長59.50×幅610~0.22×深さ20~0.09	直線・U字形	
1~4	E220~230~N210	N~64°~E	長55.30×幅611~0.24×深さ20~0.01~0.04	直線・(U字形)	
1~5	E220~230~N210	N~65°~E	長51.00×幅612~0.25×深さ20~0.07	直線・U字形	
1~6	E230~N210	N~65°~E	長53.50×幅612~0.30~深さ20~0.03~0.07	直線・U字形	
1~7	E230~N210	N~63°~E	長49.40×幅610~0.24×深さ20~0.08	直線・U字形	
1~8	E230~240~N210	N~61°~E	長50.45×幅613~0.25~深さ20~0.07	(1:2)円形・U字形	
1~9	E230~N210	N~60°~E	長31.95×幅615~0.24×深さ20~0.07	直線・U字形	
1~10	E240~N210	N~50°~E	長24.00×幅612~0.24×深さ20~0.12	直線・U字形	
1~11	E240~N210	N~53°~E	長31.00×幅615~0.22×深さ20~0.08	直線・(U字形)	
B~1	E240~N210	N~45°~W	長53.00×幅613~0.25~深さ20~0.06	直線・U字形	
B~1	E240~N210	N~25°~W	長51.35×幅612~0.26~深さ20~0.08	直線・U字形	
B~2	E240~N210	N~10°~E	長3.30×幅618~0.32~深さ20~0.09	直線・U字形	

3区V層

斜柱建物群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	規 模 (m)	平面形・断面形	時 期
S4126	E260~N200	N~43°~E	北東約1400×南東約1200	(歩廊ないしは長方形)	近鉄配塗下
(斜柱建物群)					
SB121	位置(グリッド)	主軸方位	柱間数	建物面積(m ²)	時 期
(大野田官衙跡の遺構を参照のこと)					
土坑					
SK120	E280~N80	~	東西230×南北3~深さ5~55	(円形あるいは長方形)・逆台形	
SK133	E260~270~N80	N~80°~E	長軸160×短軸5~深さ20~50	楕円形・逆台形	昭和8年8月
SK134	E270~280~N80	~	東西165×南北260×深さ130	(円形あるいは長方形)・不明	昭和10年8月
SK135	E270~N80	~	東西75×南北25×深さ28	(楕円形)・U字形	

第2節 袋前道路

第3表 道構一覧表(3)

3区V層
道路

道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SD119	E290~300-N80	N-61°-W	長さ(8.40)×幅員0.85~1.00×深さ0.36~0.44	直線・U字形	
小清川道構群					
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
1-1	E280-N80	N-1°-E	長さ(2.10)×幅員0.18~0.24×深さ0.03~0.04	直線・U字形	
1-2	E280-N80	N-2°-E	長さ(3.40)×幅員0.20~0.30×深さ0.04~0.07	直線・U字形	
1-3	E270-N80	N-3°-E	長さ(3.50)×幅員0.15~0.28×深さ0.02~0.06	[1][2]直線・U字形	
1-4	E270-N80	N-20°-E	長さ(3.50)×幅員0.32~0.46×深さ0.05~0.11	直線・U字形	
1-5	E270-N80	N-1°-W	長さ(3.50)×幅員0.20~0.75×深さ0.05~0.17	[1][2]直線・U字形	
1-6	E280-N80	N-4°-W	長さ(1.10)×幅員0.25~0.35×深さ0.02~0.04	[1][2]直線・U字形	
1-7	E280-N80	N-8°-E	長さ(2.00)×幅員0.20~0.32×深さ0.08~0.24	直線・U字形	
1-8	E280-N80	N-15°-E	長さ(2.15)×幅員0.20~0.36×深さ0.15~0.22	直線・U字形	
1-9	E280-N80	N-11°-E	長さ(2.15)×幅員0.22~0.30×深さ0.07~0.14	直線・U字形	
1-10	E280-N80	N-3°-E	長さ(1.50)×幅員0.10~0.20×深さ0.04~0.15	直線・U字形	
1-11	E280-N80	N-7°-E	長さ(1.50)×幅員0.03~0.05×深さ0.19~0.30	[1][2]直線・U字形	
1-12	E280-N80	N-5°-E	長さ(1.50)×幅員0.21~0.24×深さ0.07~0.13	直線・U字形	
1-13	E280-N80	N-17°-W	長さ(2.50)×幅員0.03~0.05×深さ0.10	[1][2]直線・U字形	
1-14	E280-N80	N-3°-E	長さ(1.70)×幅員0.35~0.60×深さ0.11~0.31	直線・U字形	
1-15	E280-N80	N-2°-E	長さ(1.60)×幅員0.20~0.26×深さ0.01~0.13	直線・U字形	
1-16	E280-N80	N-1°-W	長さ(1.60)×幅員0.28~0.40×深さ0.18~0.22	[1][2]直線・U字形	
1-17	E280-N80	N-15°-W	長さ(2.50)×幅員0.20~0.37×深さ0.08~0.16	直線・U字形	
1-18	E280-N80	東北	長さ(1.60)×幅員0.21~0.24×深さ0.11	直線・U字形	
1-19	E280-N80	東北	長さ(1.50)×幅員0.31~0.38×深さ0.13~0.18	直線・U字形	
1-20	E290-N80	N-5°-W	長さ(2.25)×幅員0.31~0.40×深さ0.04~0.08	[1][2]直線・U字形	
1-21	E290~300-N80	N-11°-E	長さ(2.40)×幅員0.38~0.48×深さ0.02~0.03	直線・U字形	
2-1	E280-270-N80	N-68°-E	長さ(1.60)×幅員0.25~0.34×深さ0.03~0.07	直線・U字形	
2-2	E280-270-N80	N-75°-W	長さ(6.00)×幅員0.18~0.70×深さ0.06~0.09	直線・U字形	
2-3	E280-270-N80	N-86°-E	長さ(4.22)×幅員0.11~0.18×深さ0.02~0.05	[1][2]直線・U字形	
2-4	E280-270-N80	N-82°-E	長さ(9.95)×幅員0.22~0.36×深さ0.08~0.13	右曲り行・U字形	
2-5	E280-270-N80	N-83°-E	長さ(7.70)×幅員0.20~0.40×深さ0.04~0.10	直線・U字形	
2-6	E270-280-N80	N-49°-E	長さ(9.05)×幅員0.20~0.38×深さ0.04	[1][2]直線・U字形	
2-7	E280-280-N80	N-89°-E	長さ(12.16)×幅員0.23~0.36×深さ0.04~0.13	直線・U字形	
2-8	E280-290-N80	N-76°-E	長さ(5.65)×幅員0.26~0.40×深さ0.05~0.10	左曲り行・U字形	
2-9	E280-290-N80	N-85°-E	長さ(5.15)×幅員0.20×深さ0.06	直線・U字形	
2-10	E300-N80	N-84°-W	長さ(1.40)×幅員0.24~0.28×深さ0.03	直線・U字形	

4 A区Ⅰ層
地下式

道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SK136	E310-N400	-	幅75×深さ40	[1][2]円形・V字形	
竹崎不明道構					
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SK137	E310-N400	N-80°-E	長軸(2.70)×短軸10~80×深さ2	小整形	

4 A区V層
地下式

道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SK138	E320-N400	-	東西34×南北27×深さ5~47	(橋円形)・U字形	
道構不明道構					
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SD142	E310-N210	東西	長さ(3.30)×幅員0.70~0.80×深さ0.26~0.28	直線・楕円なしU字形	

4 B区Ⅰ層
地下式

道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SN111	E320-N400	-	東西34×南北27×深さ5~47	(橋円形)・U字形	
道構不明道構					
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SD143	E310-N210	東西	長さ(3.30)×幅員0.70~0.80×深さ0.26~0.28	直線・楕円なしU字形	
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
1-1	E280-N300	N-7°-W	長さ2.80×幅員0.25~0.35×深さ0.06~0.15	直線・U字形	
1-2	E280-N300-60	N-10°-W	長さ(1.60)×幅員0.18~0.45×深さ0.07~0.27	右曲り行・U字形	
1-3	E280-N300	N-7°-W	長さ(1.70)×幅員0.25~0.55×深さ0.15~0.35	[1][2]直線・U字形	
1-4	E280-320-N600	N-4°-W	長さ(5.15)×幅員0.28~0.46×深さ0.26~0.35	直線・U字形	
1-5	E320-N600	N-1°-W	長さ(1.20)×幅員0.35~0.55×深さ0.18~0.30	[1][2]直線・U字形	

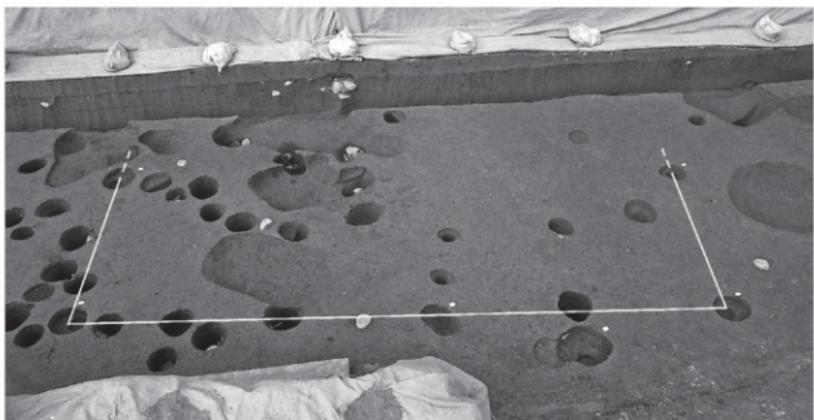
4 B区Ⅱ層
地下式

道構番号	位置(グリッド)	I輪方位	ピット数	幅員(m)	時期
1号	E190-N210	N-70°-W	14席	長さ2.25	
道構番号					
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
SD143	E190-N210	N-85°-W-N-3°-E	長さ(3.90)×幅員0.90~1.00×深さ0.37~0.41	進止状況・V字形	
道構番号	位置(グリッド)	方向	幅員(m)	平面形・断面形	時期
1-1	E190-N210	N-5°-E	長さ(1.28)×幅員0.08~0.20×深さ0.03~0.08	直線・U字形	
1-2	E190-N210	N-5°-E	長さ(1.56)×幅員0.09~0.32×深さ0.04~0.09	[1][2]直線・U字形	
1-3	E190-N210	N-5°-W	長さ(1.10)×幅員0.25~0.32×深さ0.03~0.07	[1][2]直線・U字形	
1-4	E190-N210	N-3°-W	長さ(1.32)×幅員0.20~0.35×深さ0.04~0.16	[1][2]直線・U字形	

袋前遺跡写真図版



1 A区V層全景（西より）



1 A区V層SB237（南より）

写真図版1 袋前遺跡（1）



1 A区V層SK4（南より）



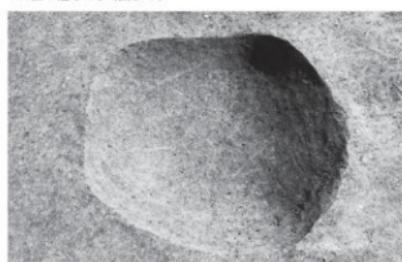
1 A区V層SK5（西より）



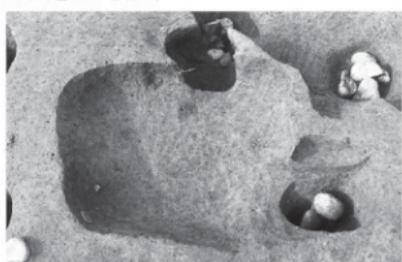
1 A区V層SK6（西より）



1 A区V層SK7（西より）



1 A区V層SK8（西より）



1 A区V層SK10（南より）



1 A区V層SK11（北西より）

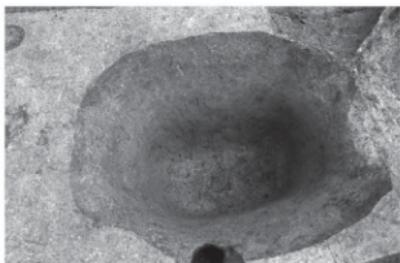


1 A区V層SK14（西より）

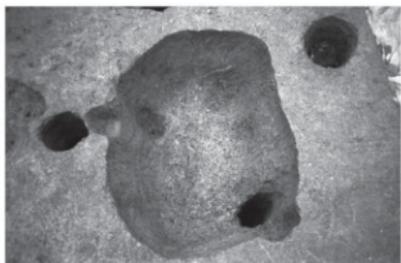
写真図版2 袋前遺跡（2）



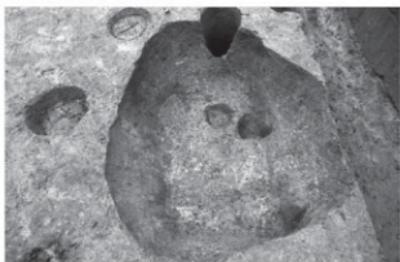
1B区V層全景（南より）



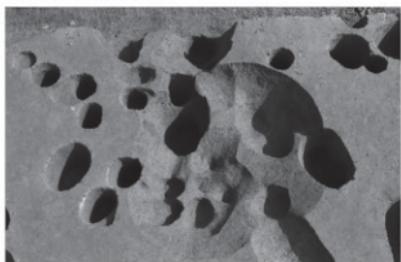
1B区V層SK21（西より）



1B区V層SK22（南より）



1B区V層SK23（南より）

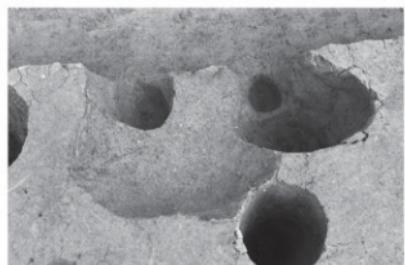


1B区V層SK24（西より）

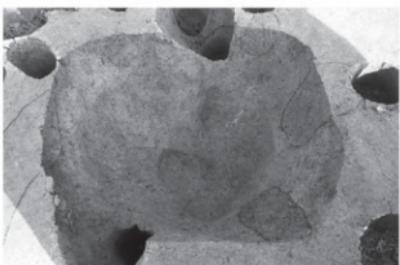
写真図版 3

袋前遺跡（3）

第2節 袋前遺跡



1B区V層SK27（西より）



1B区V層SK28（西より）



1B区V層SK29（南より）



1B区V層SK30（西より）



2B区V層全景（東より）

写真図版4 袋前遺跡（4）



2B区V層SD83（西より）



2B区V層SD83断面（西より）



3区V層全景（東より）

写真図版5 袋前遺跡（5）



3区V層SI136 (南西より)



3区V層SI136カマド (西より)



3区V層SI136カマド燃焼部 (南西より)



3区V層SI136煙道遺物出土状況 (西より)



3区V層SI136煙道 (南西より)

写真図版6 袋前遺跡 (6)



3区V層SI136床面直上遺物出土状況（南西より）



3区V層SK120（北より）



3区V層SK133（南より）



3区V層SK133遺物出土状況（南西より）



3区V層SK134（北東より）



3区V層SK134断面（北より）

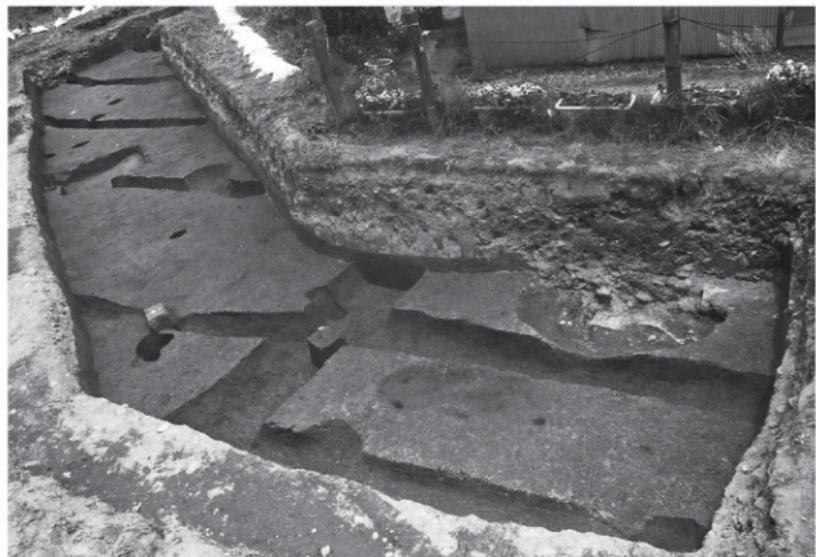


3区V層SK135（北より）



4A区Ⅲ層SX137検出状況（北東より）

写真図版 7 袋前遺跡（7）



4 A 区 V 層全景（南西より）



4 B 区 V 層全景（南より）

写真図版 B 袋前遺跡（8）



写真図版 9 袋前遺跡出土遺物

第3節 伊古田B遺跡

1. 調査要項

(1) 遺跡名：伊古田B遺跡（宮城県遺跡登録番号0119IB）

(2) 所在地：仙台市太白区大野田字イコタ

(3) 調査面積：約1,581m²

・平成10年度：約496m²（1A・1B・1C区）

・平成14年度：約170m²（2A・2B・2C区）

・平成16年度：約915m²（3区）

(4) 調査主体：仙台市教育委員会

(5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課

(6) 担当職員

・平成10年度：渡辺 誠・渡部 紀

・平成14年度：吉岡恭平・阿部博朗・宮内 周

・平成16年度：荒井 格・木幡賀一

(7) 調査期間

（野外調査）・平成10年度：平成10年4月9日～11月12日

・平成14年度：平成14年7月4日～8月2日

・平成16年度：平成16年10月14日～平成17年1月17日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。

・平成22年6月18日～平成23年3月31日

2. 1A区の調査

1A区ではⅢ層上面（古代～近世の遺構検出面）において水田跡、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、性格不明遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ピット48基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示した。

(1) Ⅲ層検出の遺構と遺物（第1図）

1) 水田跡（第1図、図版1）

畦畔がW60・S280～300グリッドで検出された。南側の段状の部分から北側の調査区外へ延びる。長さ11.80m、幅0.80～1.80m、高さ2～7cmで、方向はN-33°-Wである。

W50～60・S280～290グリッドでは、Ⅲ層を覆う火山灰の分布を東西5.20m、南北5.10mの範囲で確認した。その範囲内のⅢ層上面にはN-87°-E方向の浅い溝状の掘り込みを20～50cm間隔で検出した。火山灰は十和田a火山灰（915年）と考えられる。遺物は、須恵器壊小破片が出土した。

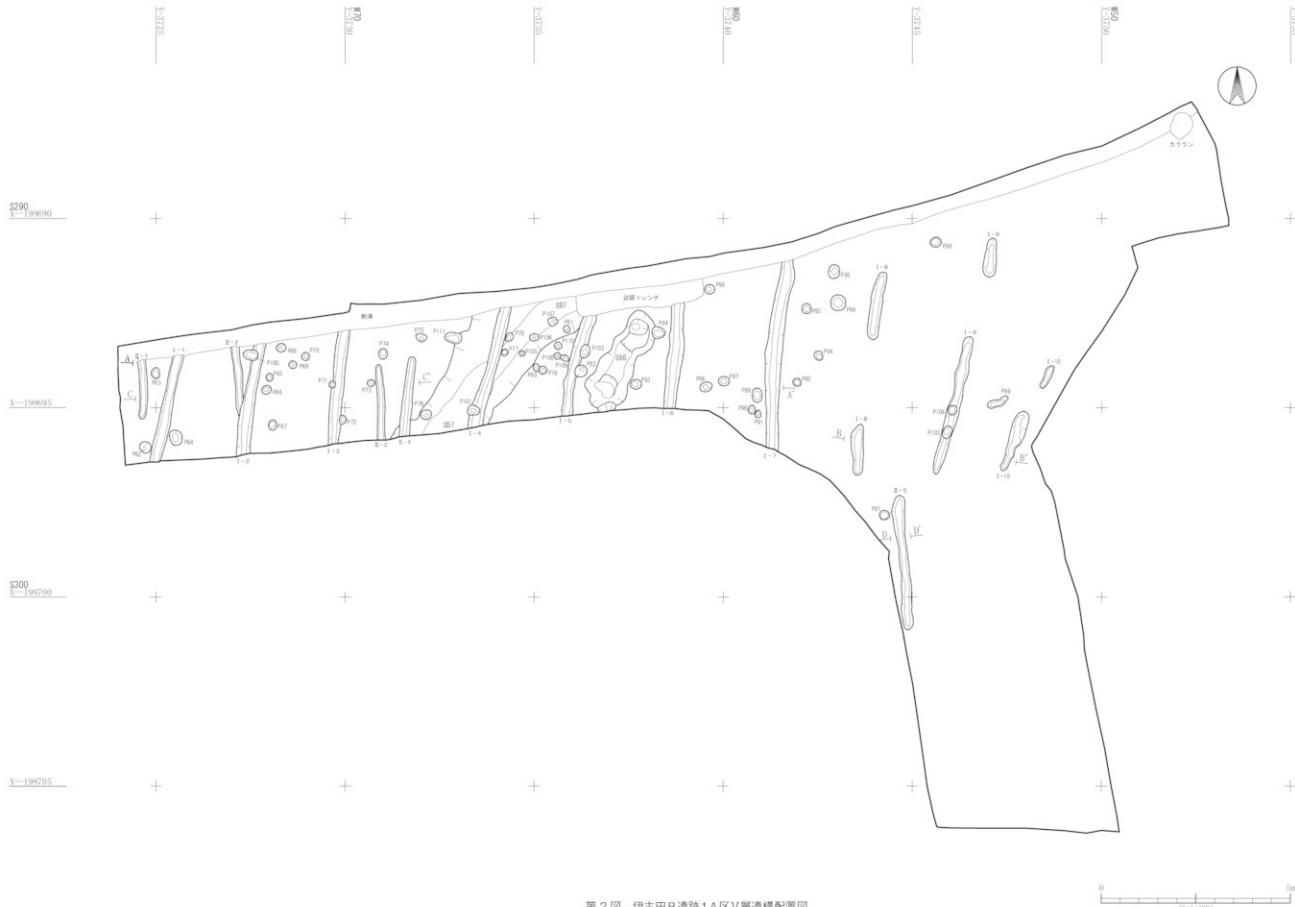
(2) V層検出の遺構と遺物（第2図、図版1）

1) 性格不明遺構

SX6 性格不明遺構（第3図） W70・S290グリッドで検出した。P84と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、方向はN-31°-Eである。規模は長軸290cm、短軸70～115cm、深さ26～42cmで、断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。



第1図 伊古田B遺跡1A区Ⅱ層遺構配置図、畦畔跡面図



第2図 伊古田B遺跡1A区V層構造配置図

2) 溝跡

SD 7溝跡（第4図） W70・S290グリッドで検出した。小溝状遺構 I-4・5、II-4、P76~78・81・101・105~107・111と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-41°-Eで、検出した長さは5.10m、幅1.60~2.90m、深さ20~28cmである。断面形は浅い鉢鉢形で、堆積土は2層に分層され、I層は細分される。遺物は出土していない。

3) 小溝状遺構群

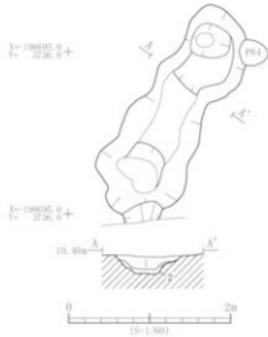
畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からI群・II群に分けられる。I-2とII-2との重複関係によりI群がII群より新しいものと判断され、II群からI群への変遷が考えられる。

I群（第2・5図） ほぼ調査区全域で検出した。

南北方向の遺構群で、10条の小溝で構成されている。

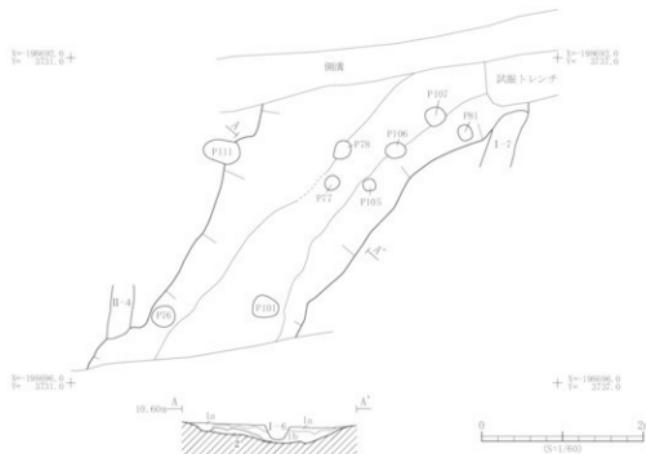
方向はN-5~25°-Eで、検出長2.70~6.40m、幅20~46cm、深さ1~26cm、小溝の間隔は1.40~3.70mである。断面形はU字形で、遺物は出土していない。

II群（第2・5図） ほぼ調査区全域で検出したが散漫な分布状況である。南北方向の遺構群で、5条の小溝で構成されている。方向はN-2~5°-W・N-6°-Eで、検出長1.58~3.58m、幅10~35cm、深さ5~15cm、小溝の間隔は0.35~12.80mである。断面形はU字形で、遺物は出土していない。



遺構番号	位置	土色	土性	備考
SX6	1	10YR5-2.8M黄褐色	粘土質シルト	古層主体(グラウイナが著しい)、酸化鉄を斑状に多量含む。
	2	10YR5-3.0-4.0M黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を斑状に多量含む。

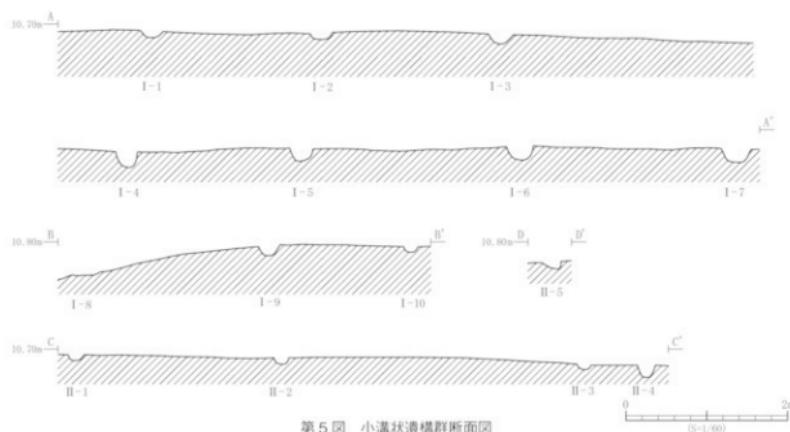
第3図 SX 6性格不明遺構平面図・断面図



遺構番号	位置	土色	土性	備考
SD7	1a	10YR4/1褐色	粘土質シルト	古層主体、グラウイナ、酸化鉄を斑状に多量含み、にぶい黄褐色シルト(Ⅴ相)をプロック状に少量含む。
	1b	10YR5-3.0-4.0M黄褐色	粘土質シルト	褐色地粘土質シルト(Ⅰ相)を斑状に少量含む。

第4図 SD 7性格不明遺構平面図・断面図

第3節 伊古田B道路1A区の調査



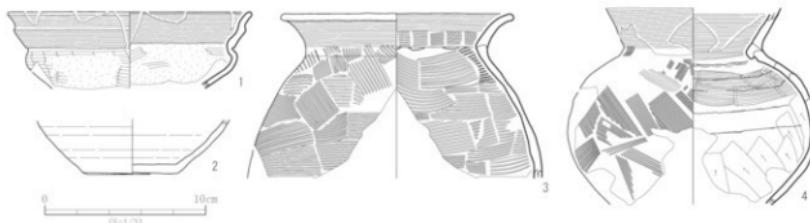
第5図 小溝状構構断面図

4) ピット (第2図)

48基 (P62~84・86~93・95~111) のピットを検出した。調査区西側に分布し、東側では稀薄である。遺物は出土していない。

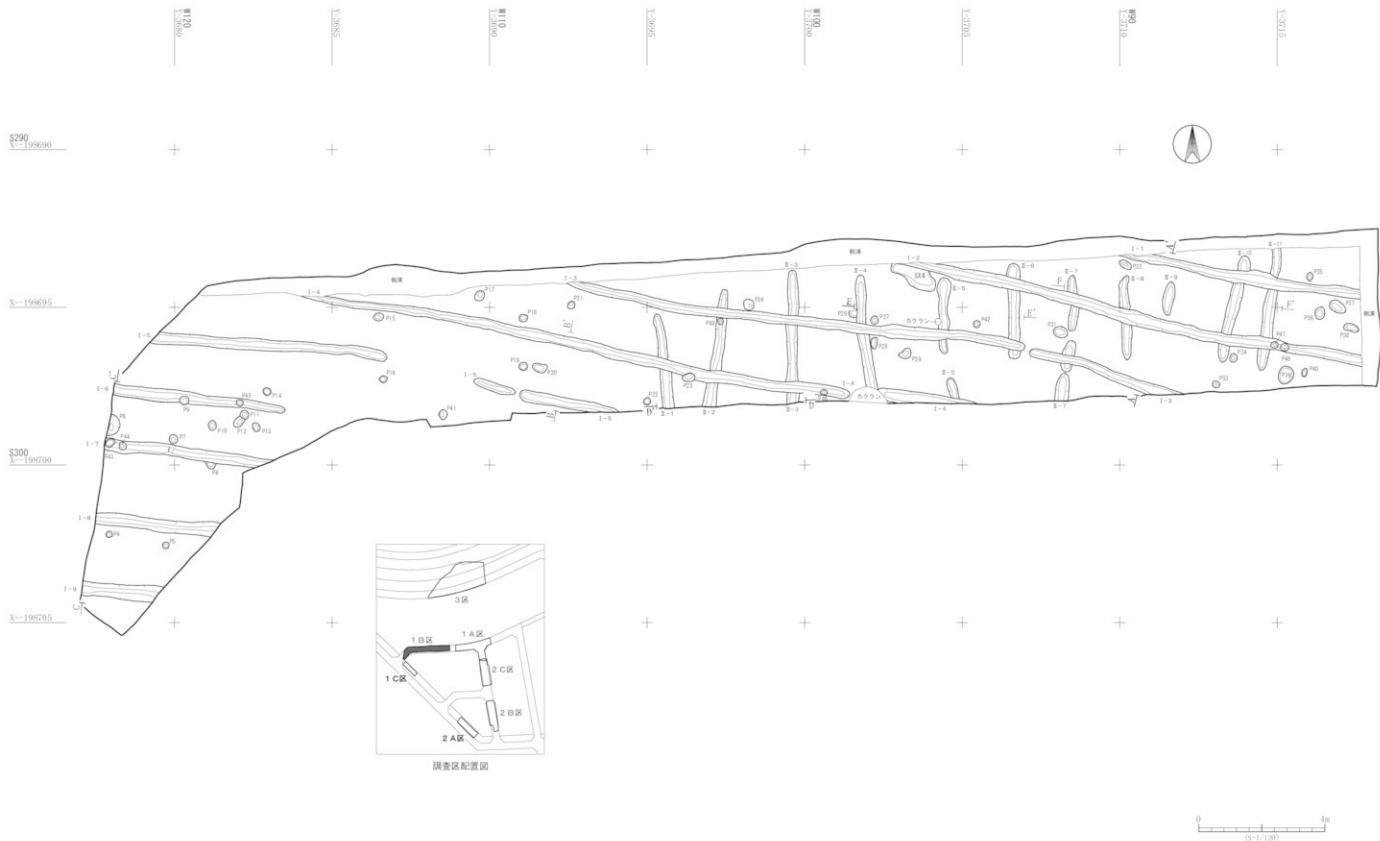
(3) 遺構外出土の遺物 (第6図、図版6)

基本層IV層から須恵器・土師器小片が出土しており、第6図に4点を図示した。1は土師器の壺である。口縁部に段を持ち、体部と底部の境が強く屈曲する。赤彩が施されている。S字鉢の可能性がある。2は須恵器の壺である。底部糸切りである。3・4は土師器である。3はやや作りの薄い壺である。4はやや小型の壺である。



No.	登錄番号	種 分	基盤・グリッド	横 長	豊 長	日付×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備 考	写真枚数
1	C-1	B	W60・S200	土師器	壺	15.0××底16	ヨコナデ・ハラミガキ	ヨコナデ・ハラミガキ	赤彩あり。	6-1
2	E-1	B	W70・S200	土師器	壺	×60×底3.3	ヨコナデ	ヨコナデ・底部削除希望		6-2
3	C-2	B	W70・S200	土師器	壺	14.3××底8.9	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ		6-3
4	C-3	B	W70・S200	土師器	壺	××底12.1	ハケメ・ヨコナデ・ナド	ヨコナデ・ハラミダ・ハラミジ・底ナド	底上部剥離歴。	6-4

第6図 遺構外出土遺物



3. 1B区の調査

1B区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、性格不明遺構1基、小溝状遺構群2群、ピット44基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示した。

(1) V層検出の遺構と遺物（第7図、図版2）

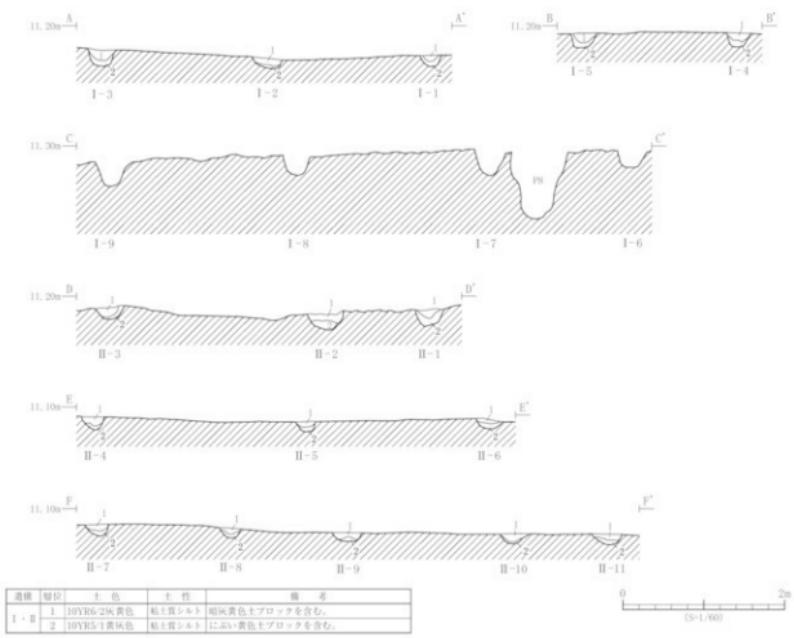
1) 性格不明遺構

SX4 性格不明遺構（第8図） W100・S290グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。小溝状遺構I-2と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、検出した長さは東西長160cm、南北長70cm、深さ20～26cmである。断面形は逆台形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

2) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からI・II群に分けられる。I-1～I-8・II-11との重複関係によりII群がI群より古いものと判断され、II群からI群への変遷が考えられる。

I群（第7・9図） ほぼ調査区全域で検出した。東西方向の遺構群で、9条の小溝で構成されている。方向は



第9図 小溝状遺構群断面図

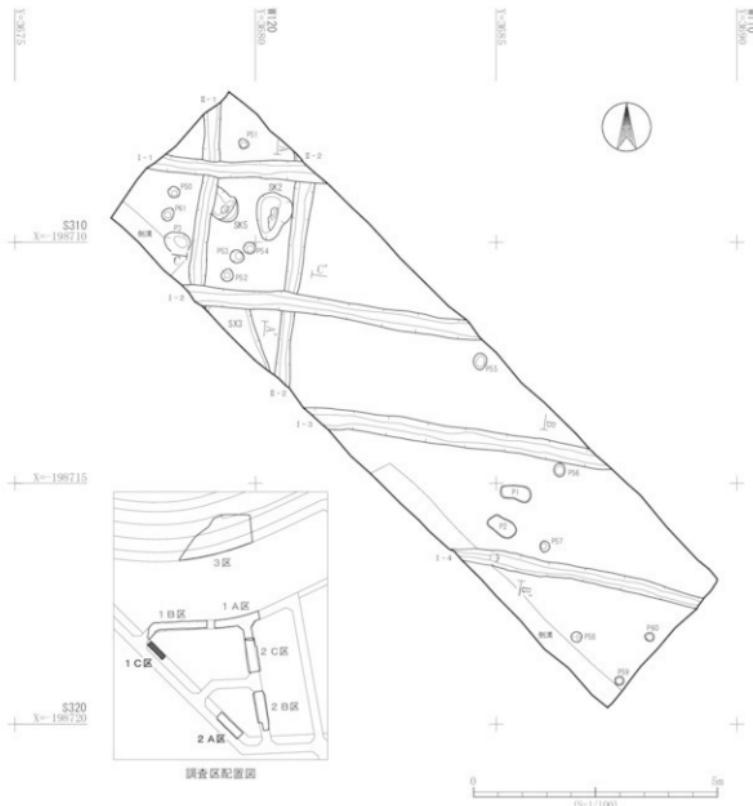
第3節 伊古田B遺跡1B区の調査

N-78°~86°-W、検出長2.50~21.60m、幅20~55cm、深さ2~32cm、小溝の間隔は1.10~1.70mである。断面はU字形で、堆積土は灰黄色・黄灰色粘土質シルトが主体である。遺物は出土していない。

II群（第7・9図） W90°~110°-S290グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、11条の小溝で構成されている。方向はN-4°~7°-W、南北正方位、N-1°~13°-Eで、検出長1.08~4.20m、幅20~46cm、深さ6~19cm、小溝の間隔は0.65~2.15mである。断面形はU字形で、堆積土は灰黄色・黄灰色粘土質シルトが主体である。遺物は出土していない。

3) ピット（第7図）

44基（P4~24・26~29・31~49）のピットを検出した。調査区南側に散漫に分布する。遺物は出土していない。



第10図 伊古田B遺跡1C区V層遺構配置図

4. 1 C区の調査

1 C区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑2基、性格不明遺構1基、小溝状遺構群2群、ピット15基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) V層検出の遺構と遺物（第10図、図版3）

1 土坑

SK2 土坑（第11図） W120・S300グリッドで検出した。東側で小溝状遺構I-1と接している。平面形は不整梢円形で、長軸方向はN-4°-Eである。規模は長軸100cm、短軸75cm、深さ21cmで、壁面はやや開きぎみに立ち上がる。断面形は概ねU字形で、底面の南東側にはピット状の掘り込みがある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK5 土坑（第11図） W130・S300グリッドで検出した。小溝状遺構II-1と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は梢円形で、長軸方向はN-47°-Wと思われる。検出した規模は長軸65cm、短軸57cm、深さ22cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は概ねU字形で、底面の南東側にはピット状の掘り込みがある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

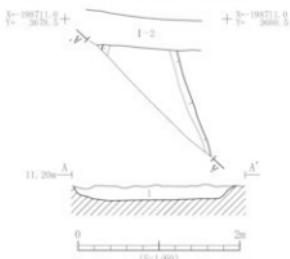
2) 性格不明遺構

SX3 性格不明遺構（第12図） W120～130・S310グリッドで検出した。南側の調査区分へ延び、小溝状遺構I-2と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不明で、検出した規模は南北140cm、東西95cm、深さ13cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。遺物は、土師器小片が出土しており、そのうち2点を第13図に図示した。1は土師器壺の底部片である。2は土師器甕の底部片である。両者ともに薄い作りで、ハケメも細かいことから、5世紀前半ごろと考えられる。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK2	1	10YR5-2灰褐色	粘土質シルト	動植物がくわざかに含む。
	2	10YR5-2灰褐色	粘土質シルト	炭化物・赤色ブロックを含む。粘性が強く、崩れやすい。
	3	10YR7.3(2)灰褐色	粘土質シルト	動植物が少く。
SK5	1	10YR5-2灰褐色	粘土質シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4-2灰褐色	粘土質シルト	縮まりがなく、炭化物をくわざかに含む。
	3	10YR4-2灰褐色	粘土質シルト	炭化物（N層）小ブロックを含む。

第11図 SK2・5土坑平面図・断面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SX3	1	10YR5-2灰褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルト（V層）をブロック状に含み。炭化物をくわざかに含む。

第12図 SX3性格不明遺構平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	1辺付×底径×器高(cm)	外観調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-4	SX3	-	土師器	壺	一×52×41	ハラケリ・ナザ	ハラナザ	6-5	
2	C-5	SX3	-	土師器	甕	一×90×41.8	ハケメ・ナザエ			6-6

第13図 SX3性格不明遺構出土遺物

3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からI・II群に分けられる。I-1・2とII-1・2との重複関係によりII群がI群より古いものと判断され、II群からI群への変遷が考えられる。

I群（第10・14図） ほぼ調査区全域で検出した。東西方向の遺構群で、4条の小溝で構成されている。方向はN-79～86°-Wで、検出長3.70～6.20m、幅25～40cm、深さ13～41cm、小溝の間隔は1.80～2.40mである。断面形は